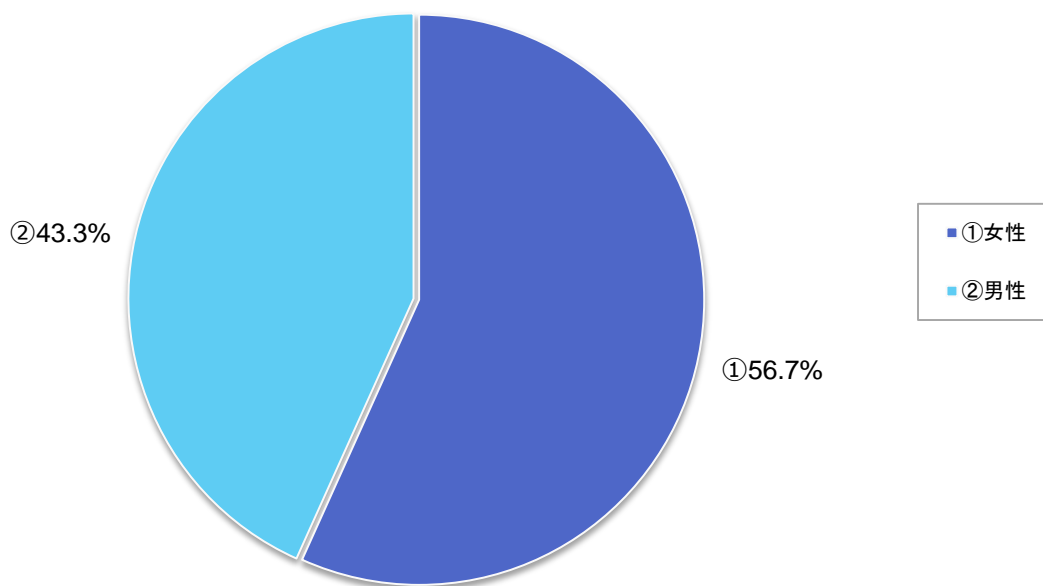


【 回答者のプロフィール 】

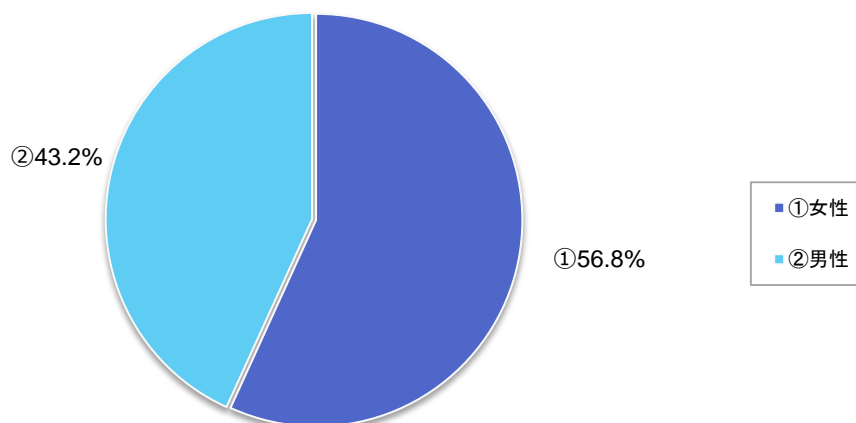
F 1 あなたの性別はどちらですか。



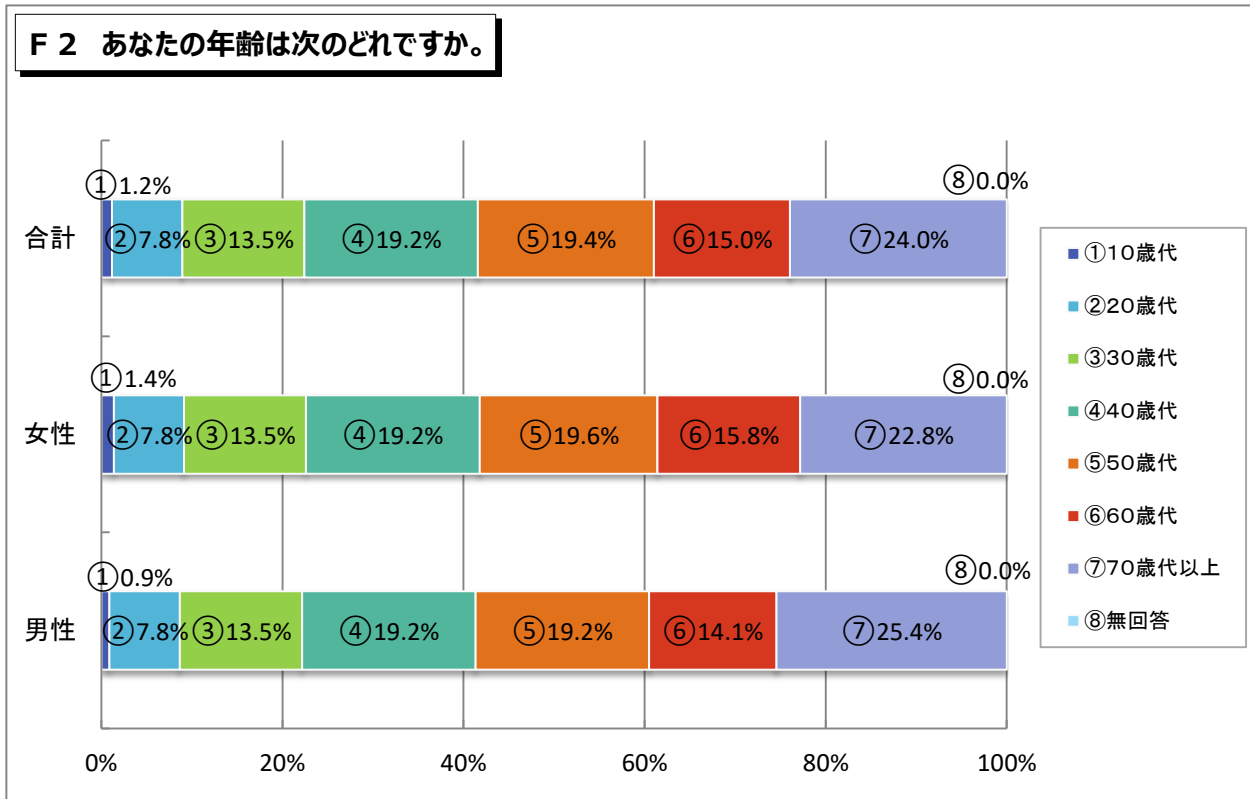
全体 N = 772 女性 N = 438 男性 N = 334

■平成30年度調査

F 1 あなたの性別はどちらですか。

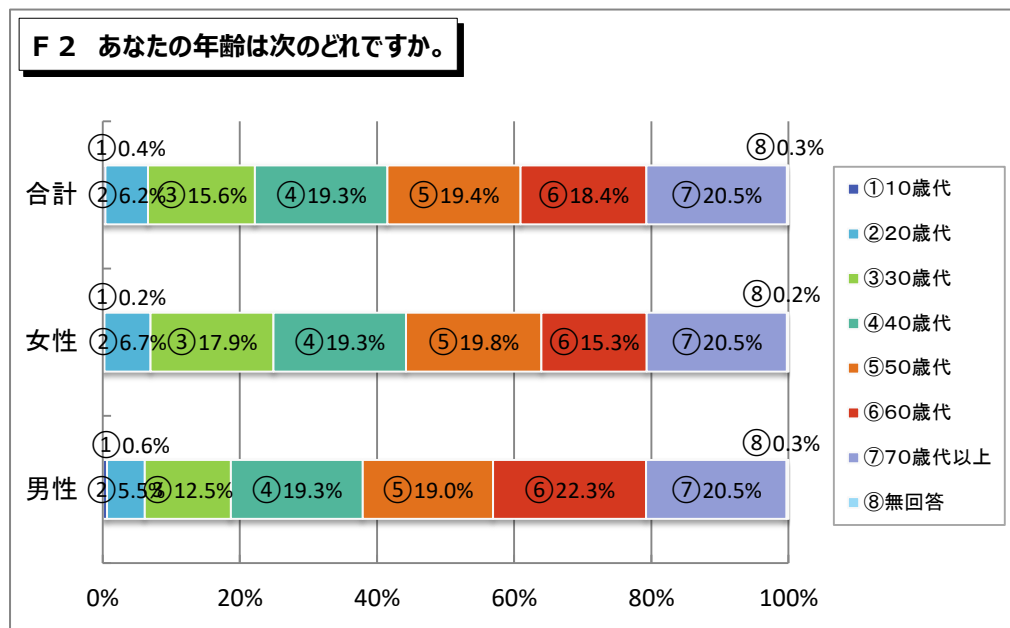


全体 N = 757 女性 N = 430 男性 N = 327



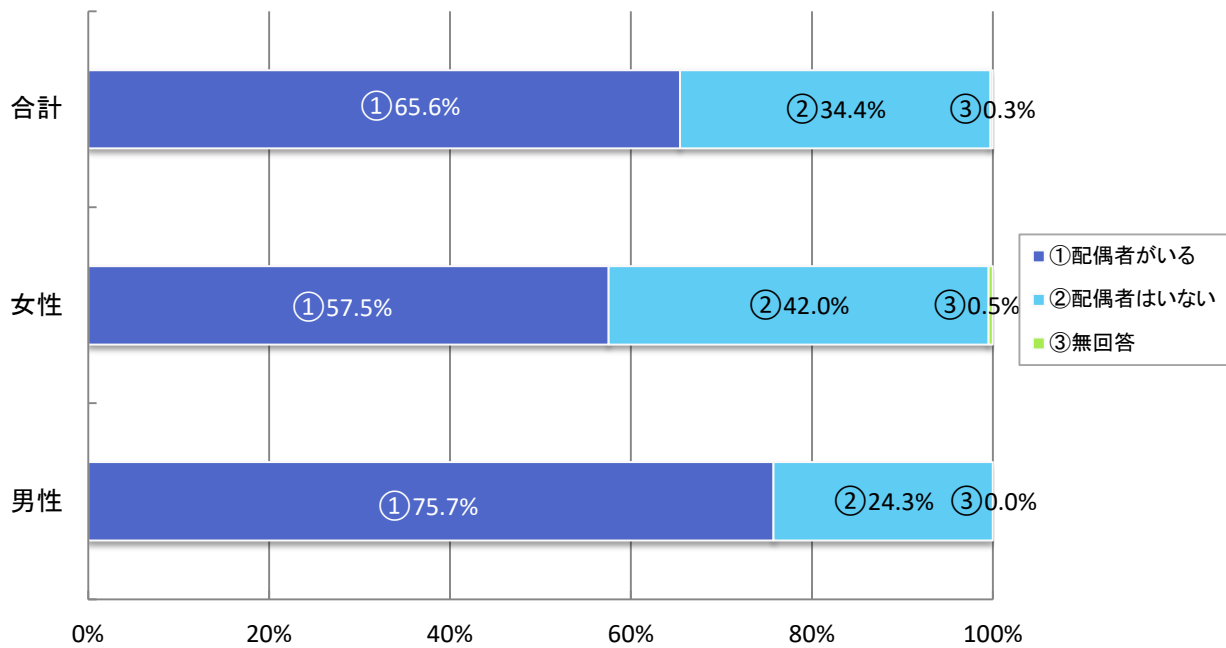
全体 N=772 女性 N=438 男性 N=334

■平成30年度調査



全体 N=757 女性 N=430 男性 N=327

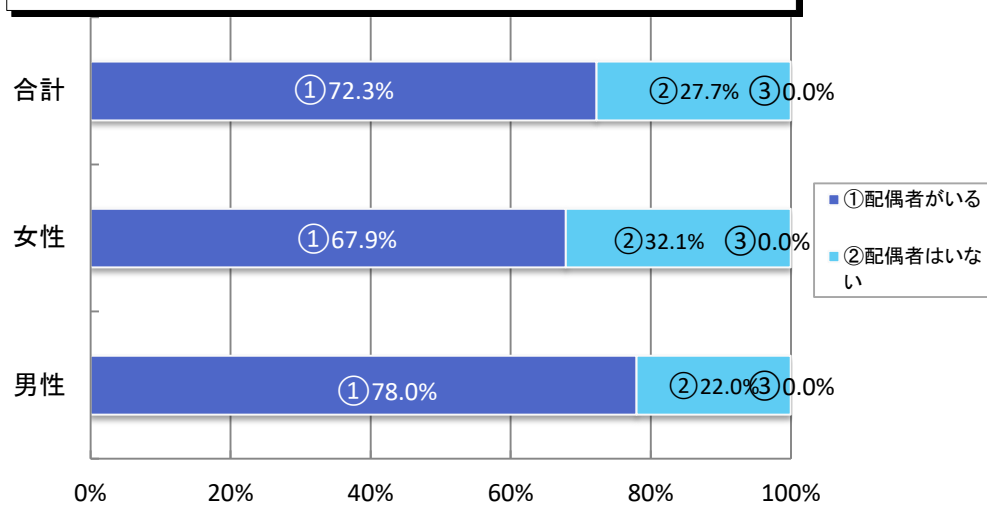
F 3 あなたに配偶者（事実婚のパートナーを含む。）はいらっしゃいますか。



全体 N=772 女性 N=438 男性 N=334

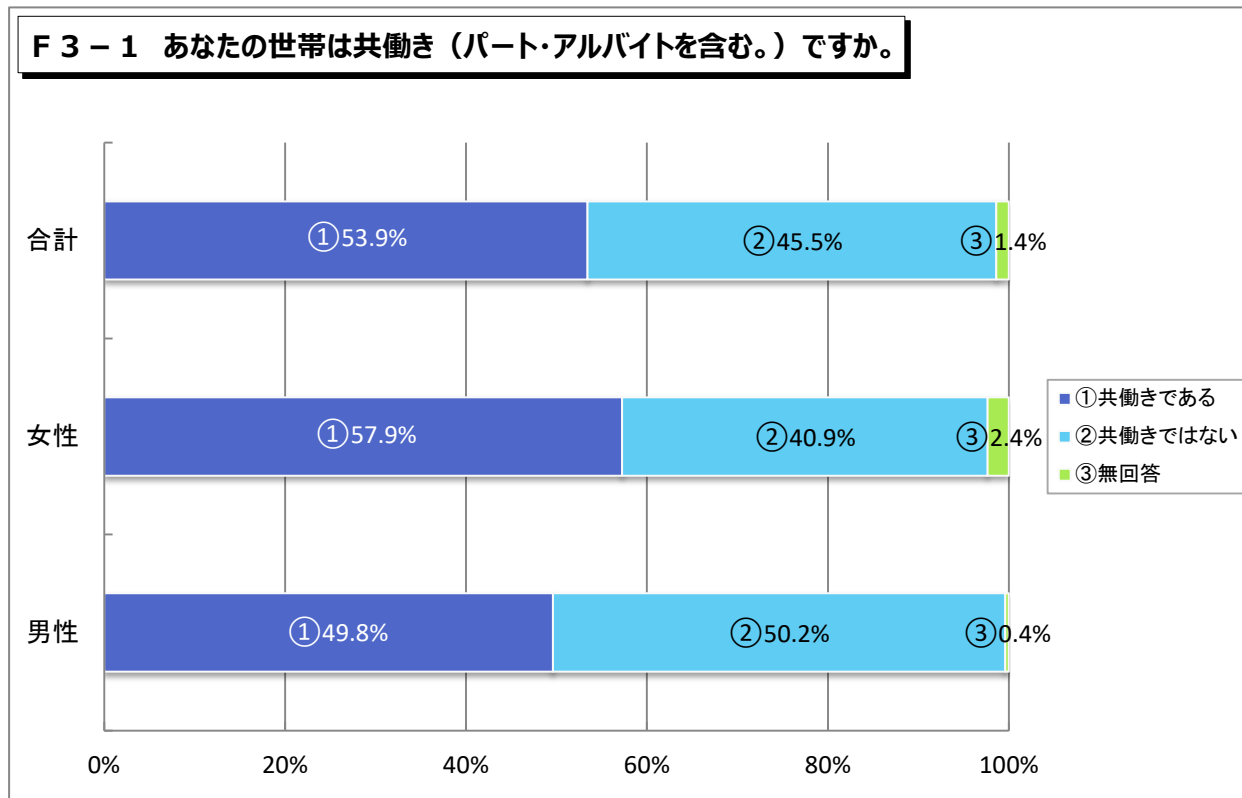
■ 平成30年度調査

F 3 あなたに配偶者（事実婚のパートナーを含む。）はいらっしゃいますか。



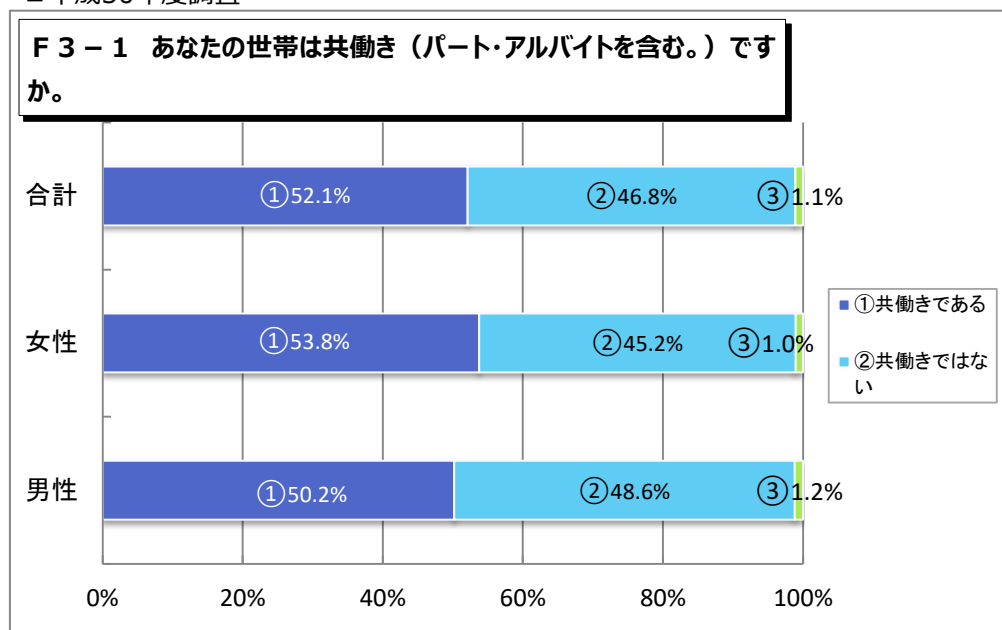
全体 N=757 女性 N=430 男性 N=327

F3で配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいると回答があった中で



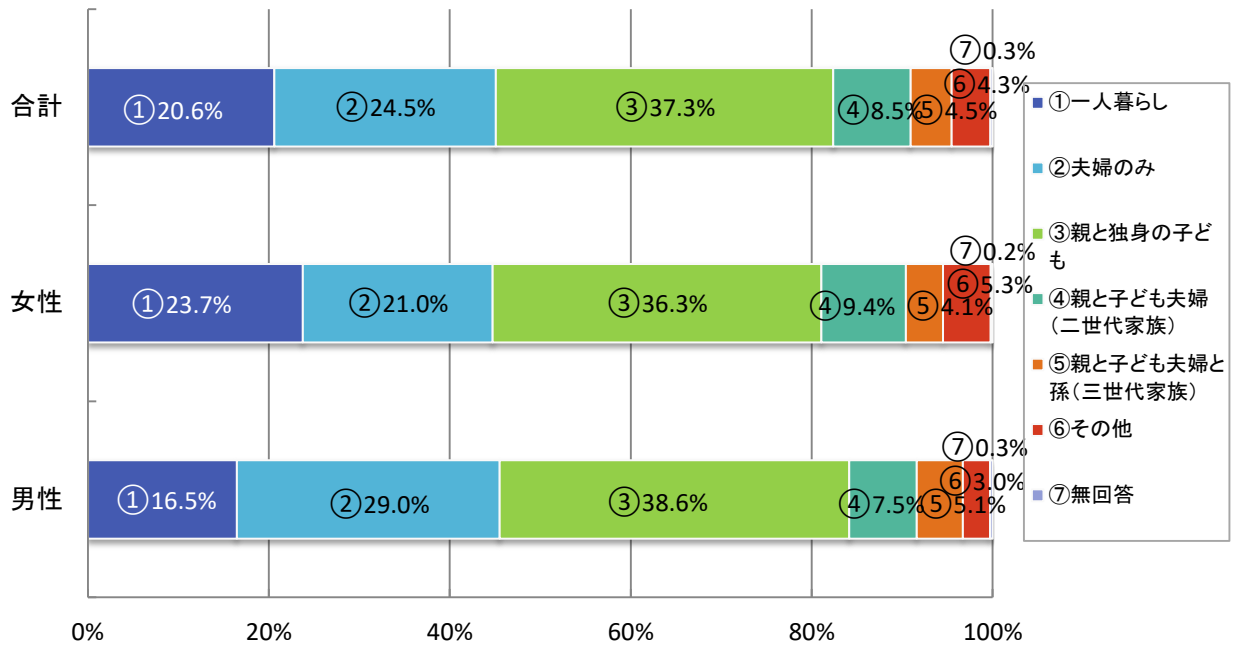
全体 N = 509 女性 N = 255 男性 N = 254

■平成30年度調査



全体 N = 547 女性 N = 292 男性 N = 255

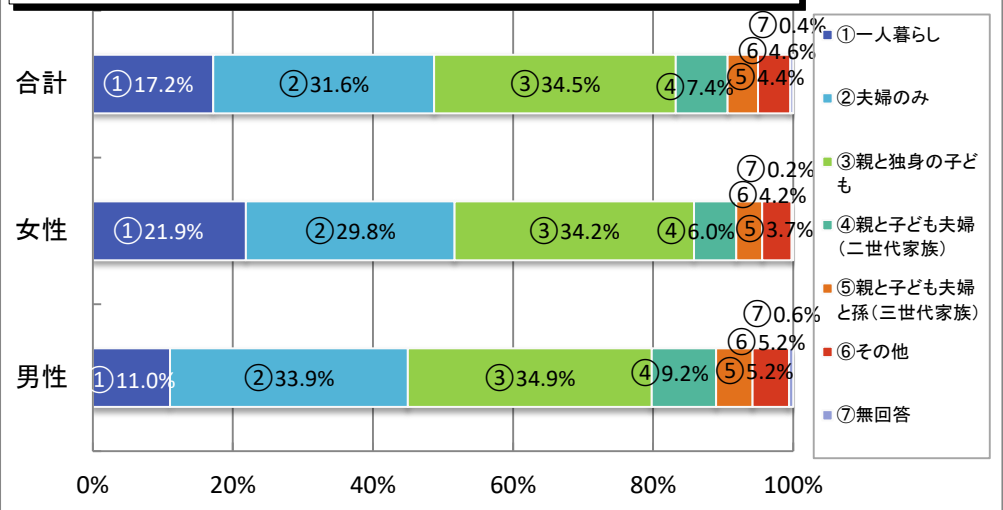
F 4 あなたの世帯の構成は、次のどれに該当しますか。ご自身の立場（自分が親、自分が子ども）にかかわらず、世帯構成をお答えください。



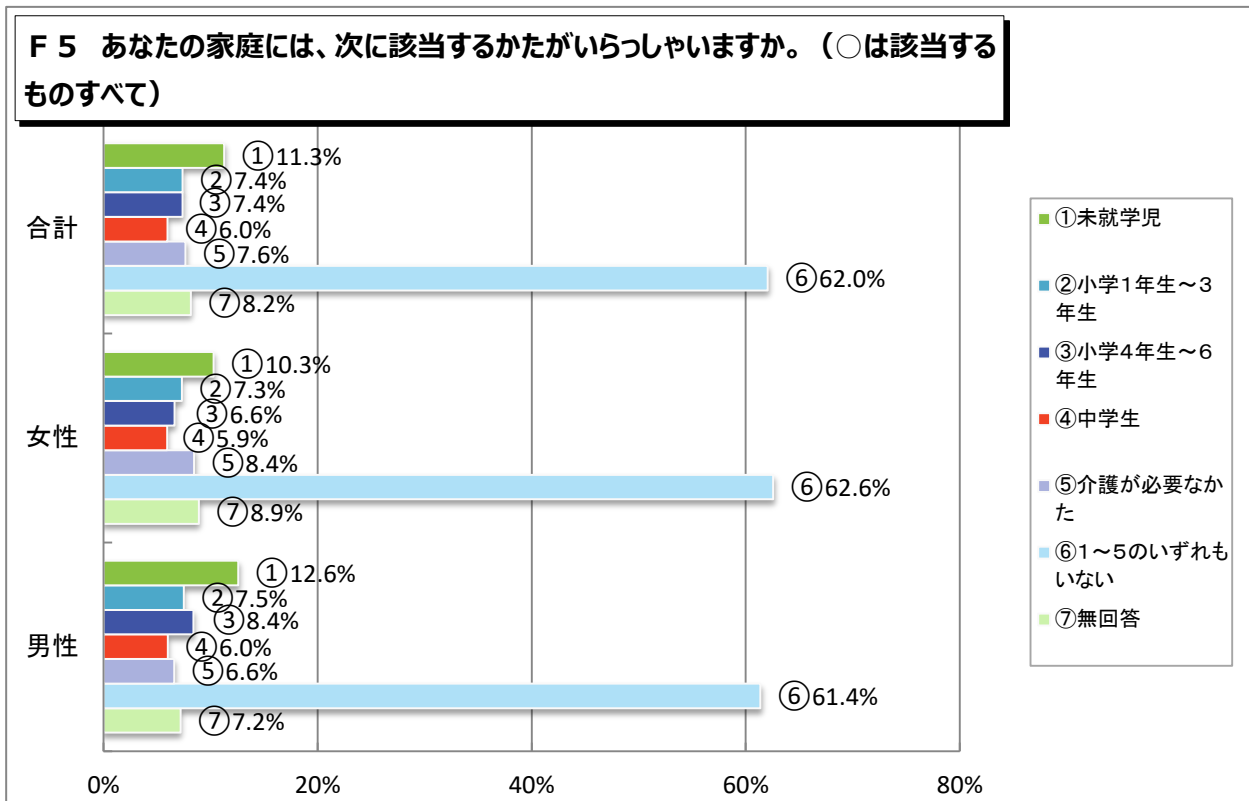
全体 N=772 女性 N=438 男性 N=334

■平成30年度調査

F 4 あなたの世帯の構成は、次のどれに該当しますか。ご自身の立場（自分が親、自分が子ども）にかかわらず、世帯構成をお答えください。

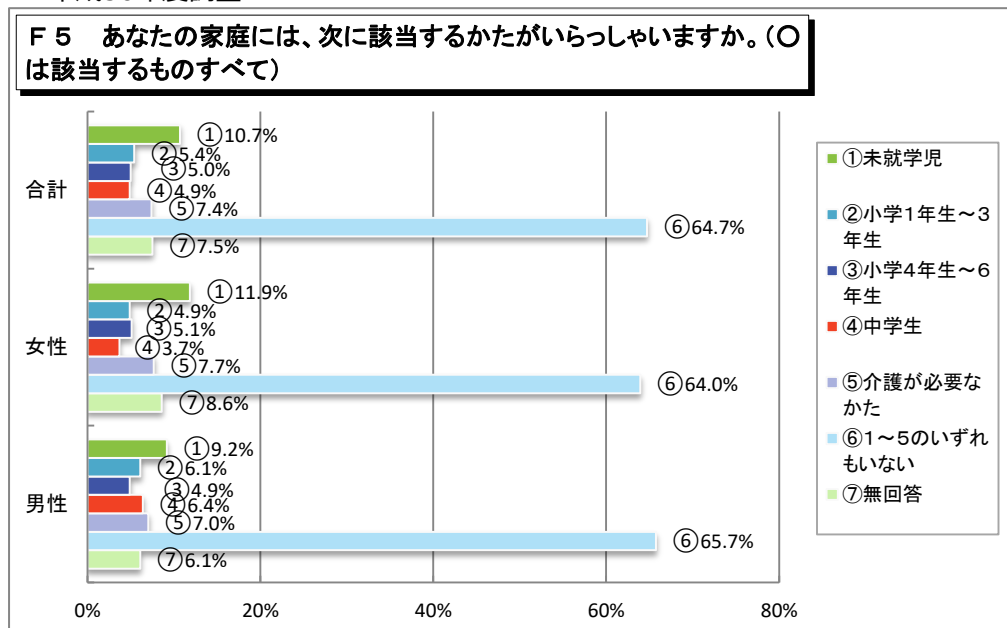


全体 N=757 女性 N=430 男性 N=327



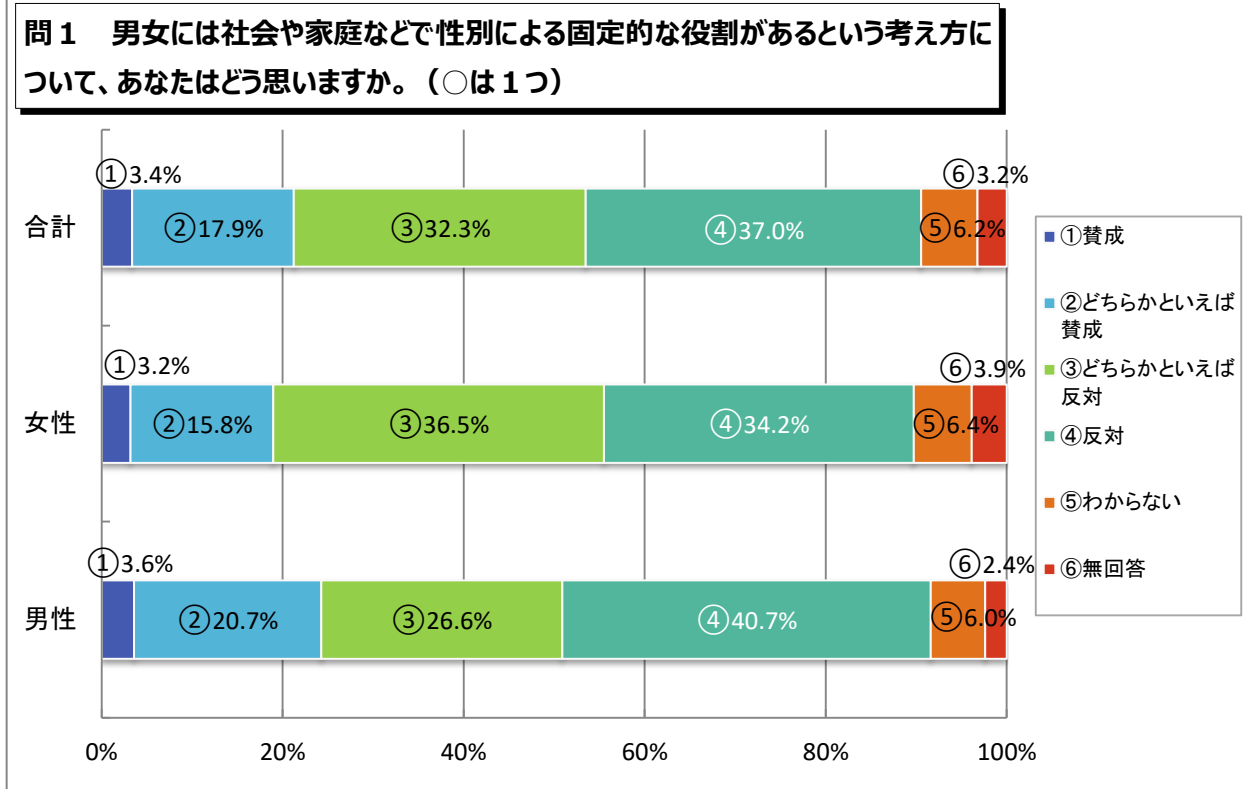
全体 N=772 女性 N=438 男性 N=334

■平成30年度調査



全体 N=757 女性 N=430 男性 N=327

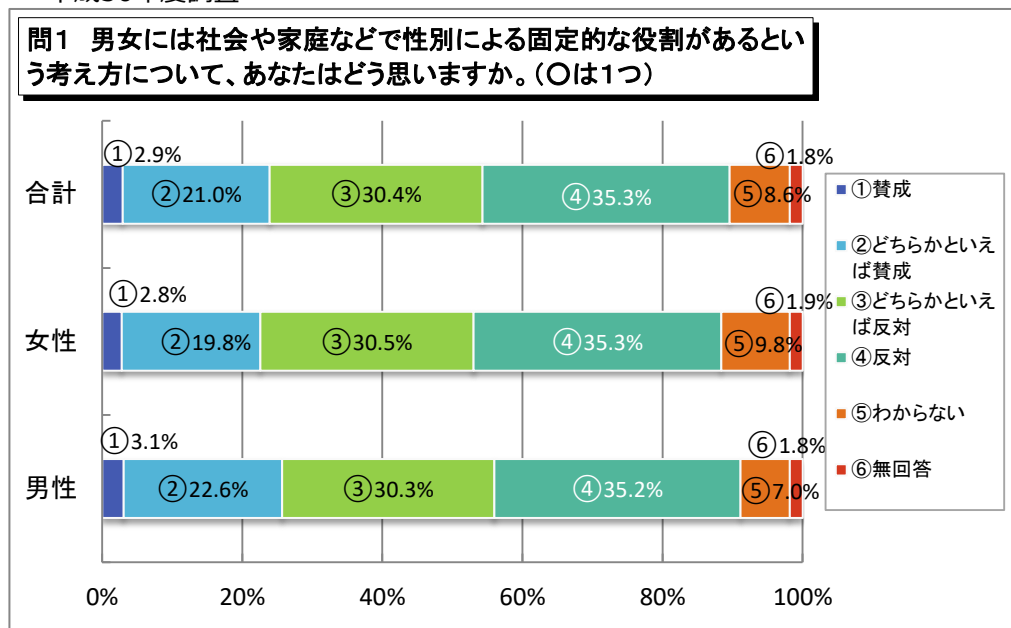
【 I 男女平等に関する意識と実態 】



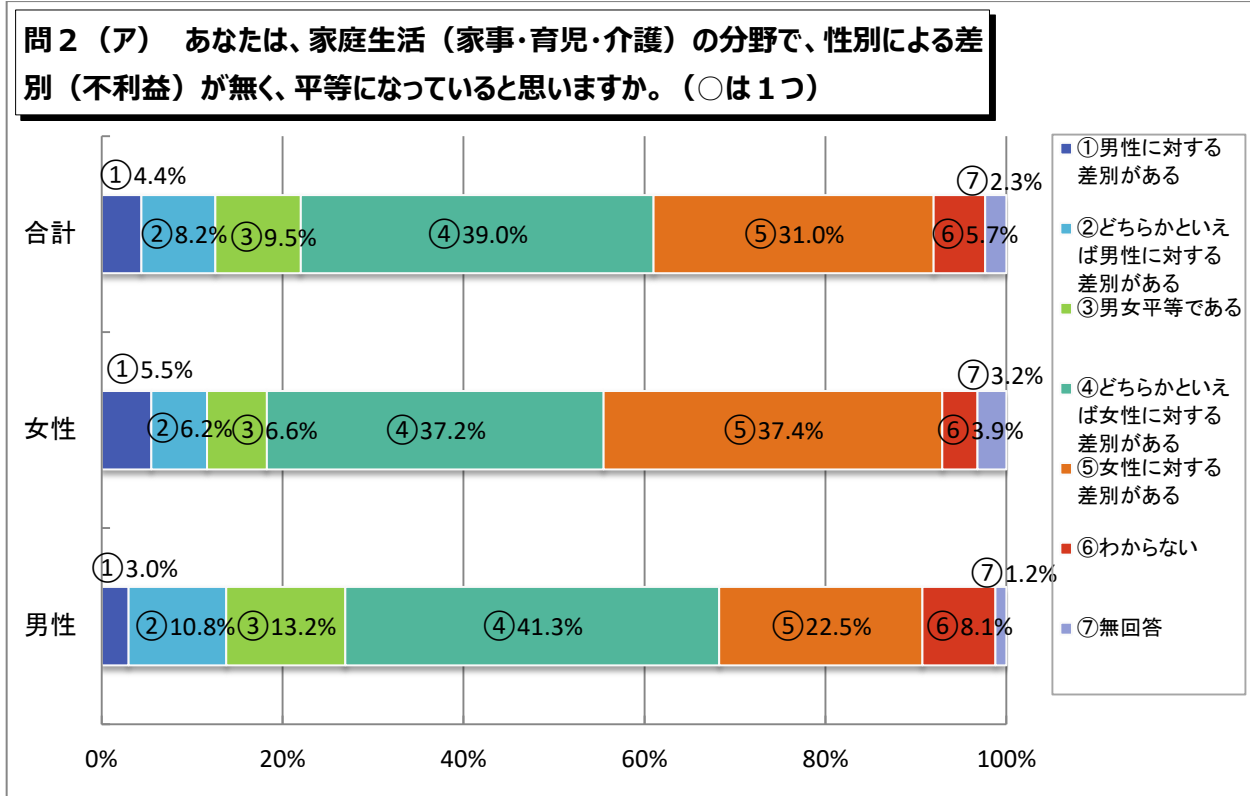
全体 N = 772 女性 N = 438 男性 N = 334

■男女には社会や家庭などで性別による固定的な役割があるという考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は全体で21.3%、「どちらかといえば反対」「反対」は69.3%となった。

■平成30年度調査



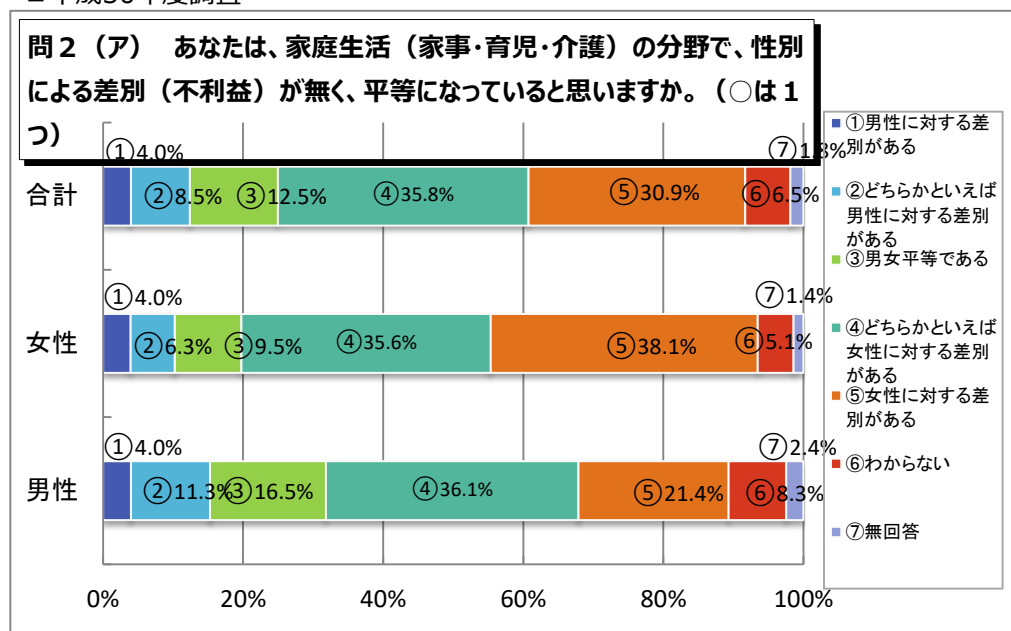
全体 N = 757 女性 N = 430 男性 N = 327



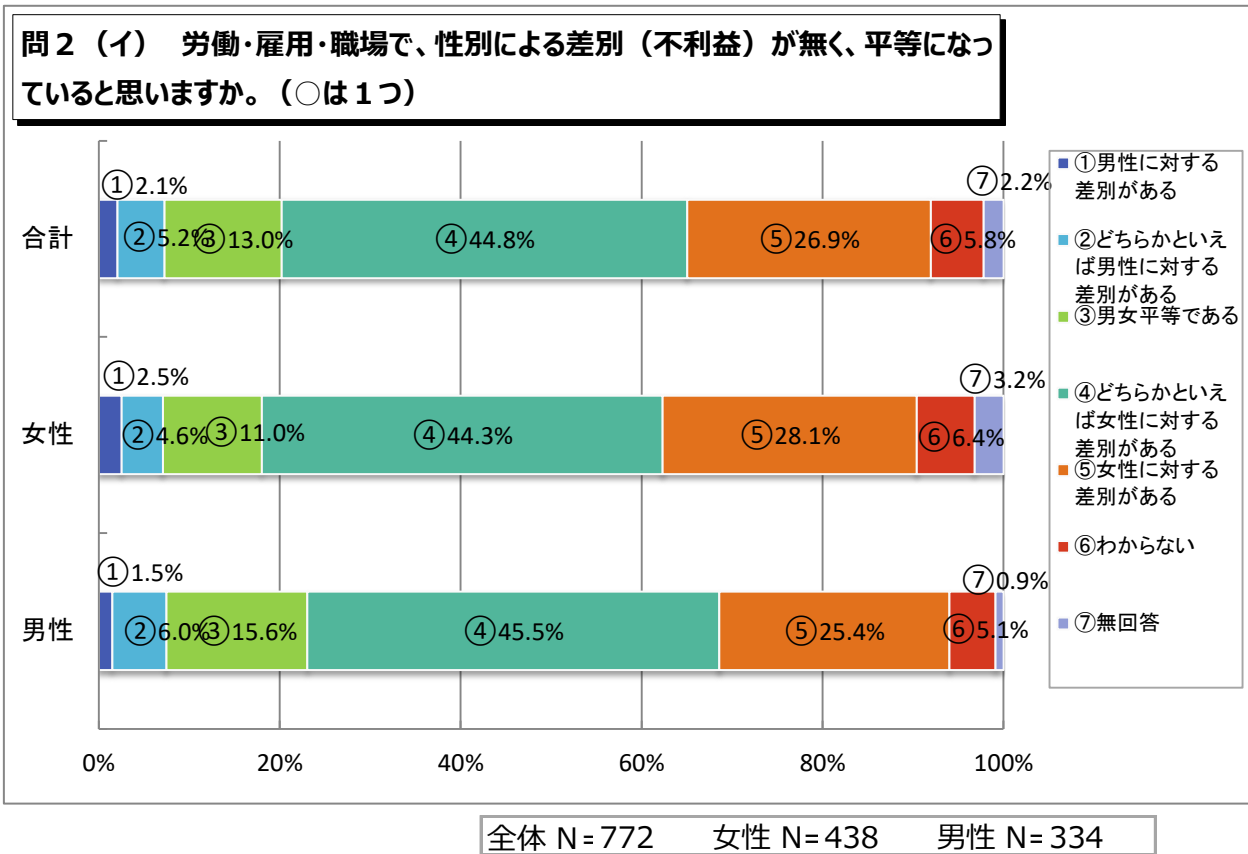
全体 N=772 女性 N=438 男性 N=334

■ 家庭生活の分野について、「男女平等である」と回答した人は、女性が6.6%、男性が13.2%で、男女差がある。また、「女性に対する差別がある」と回答した人は、女性が37.4%、男性が22.5%で、男女差がある。

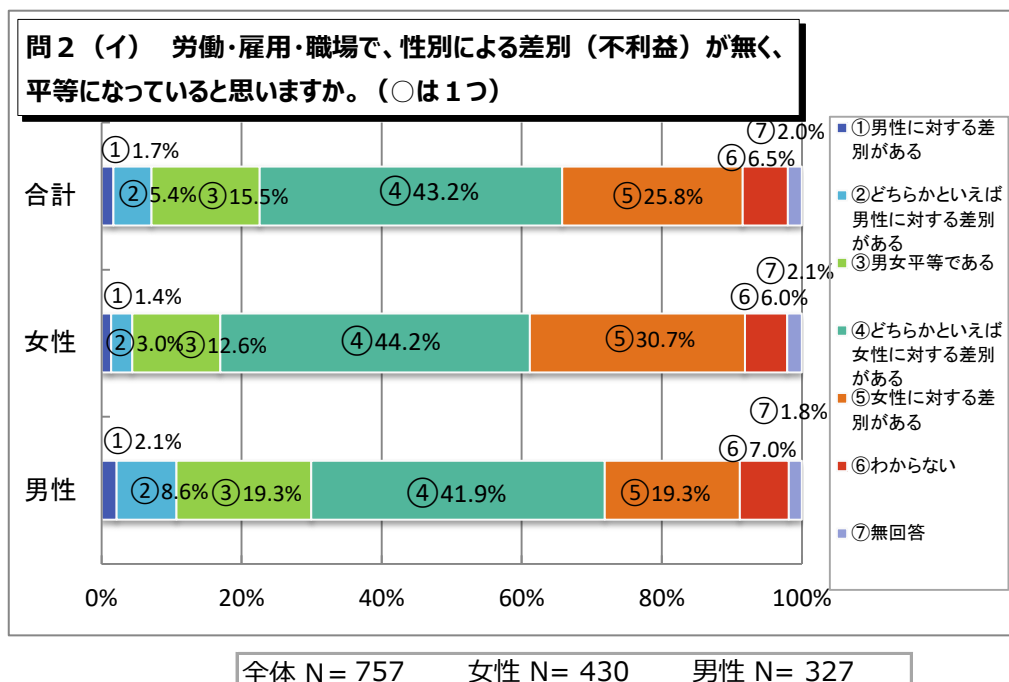
■ 平成30年度調査

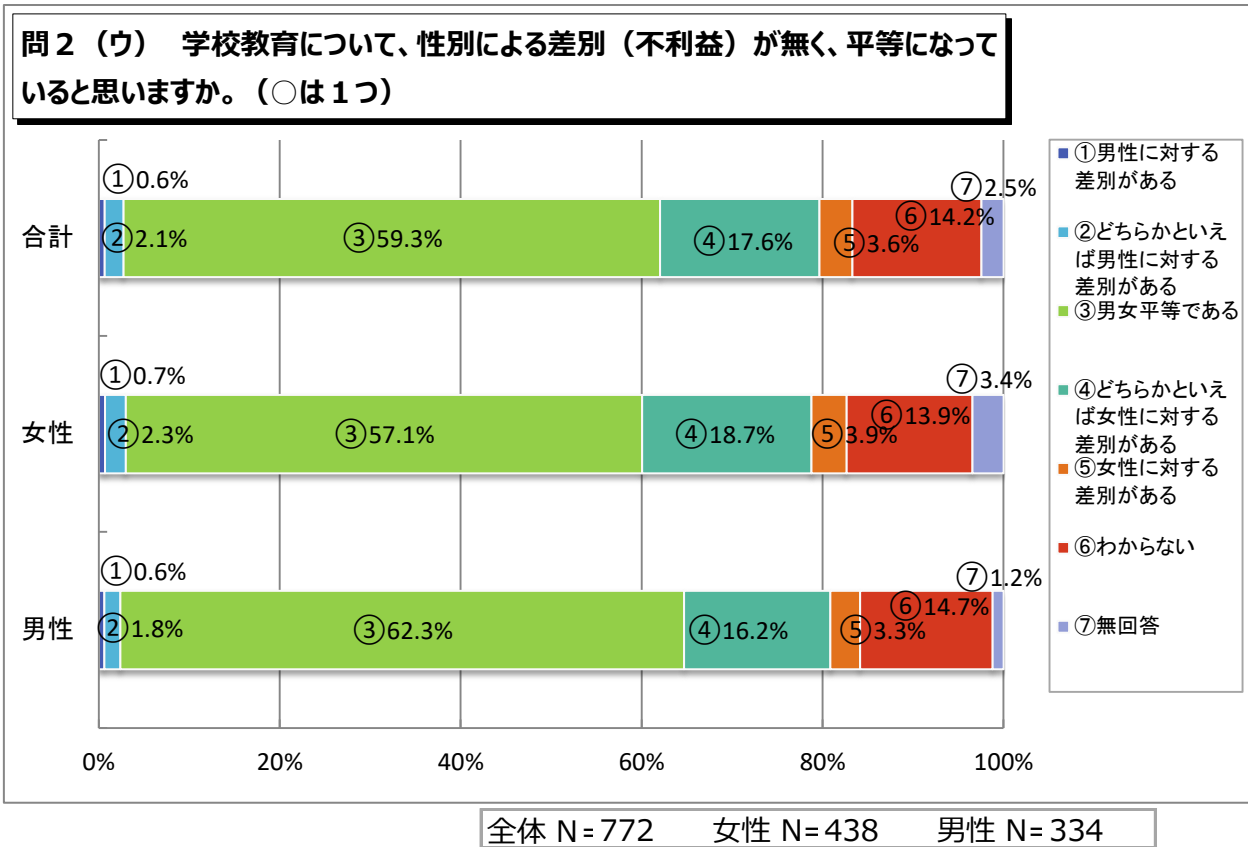


全体 N=757 女性 N=430 男性 N=327

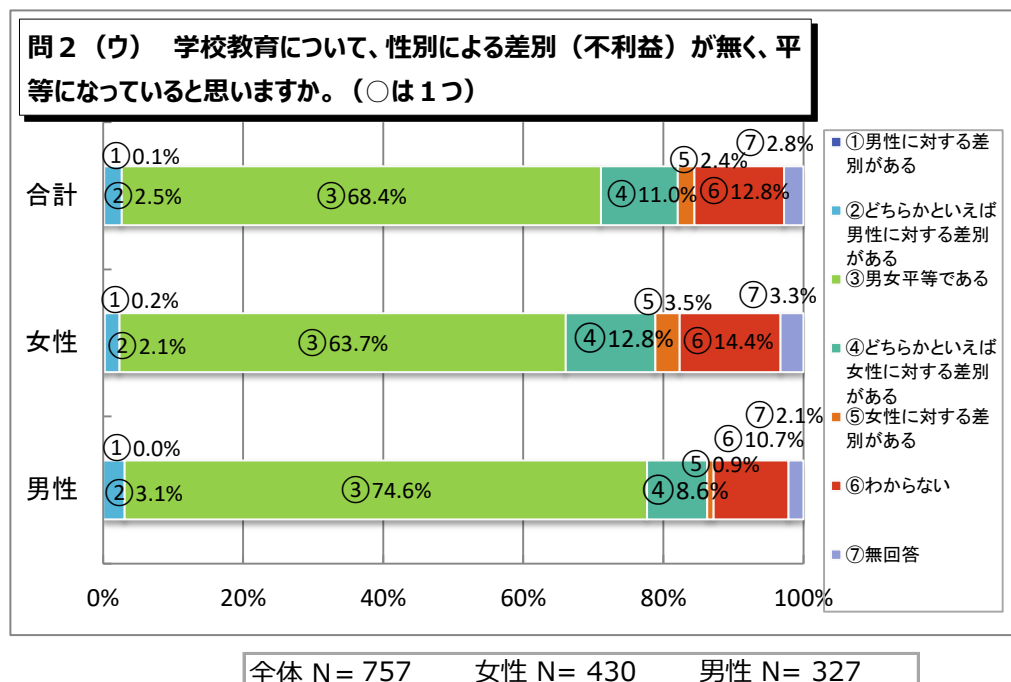


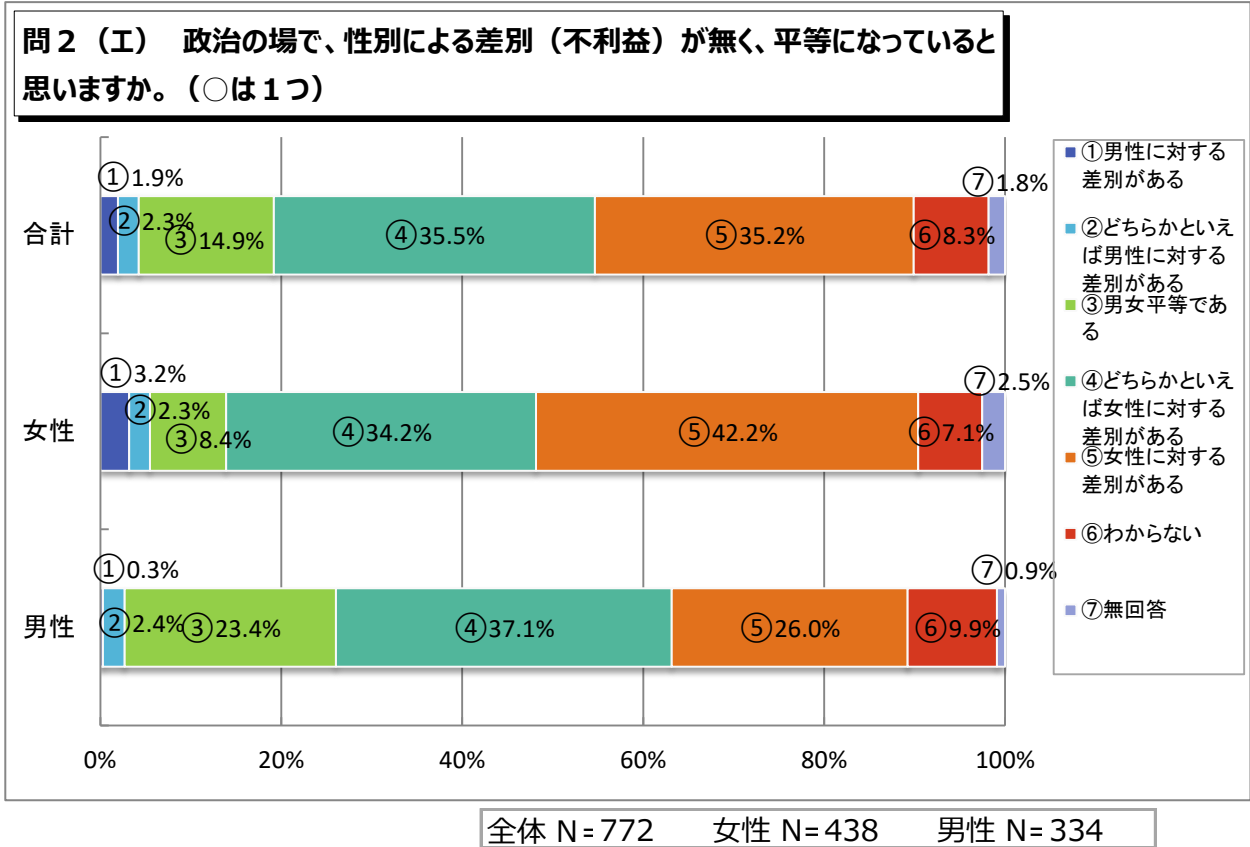
■ 平成30年度調査





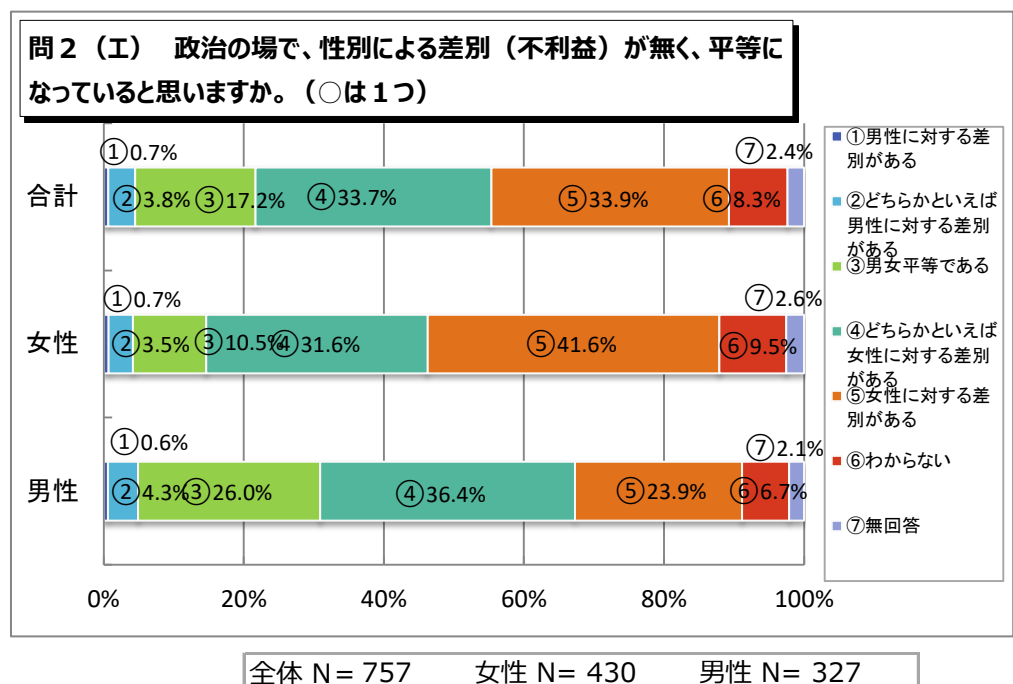
■ 平成30年度調査

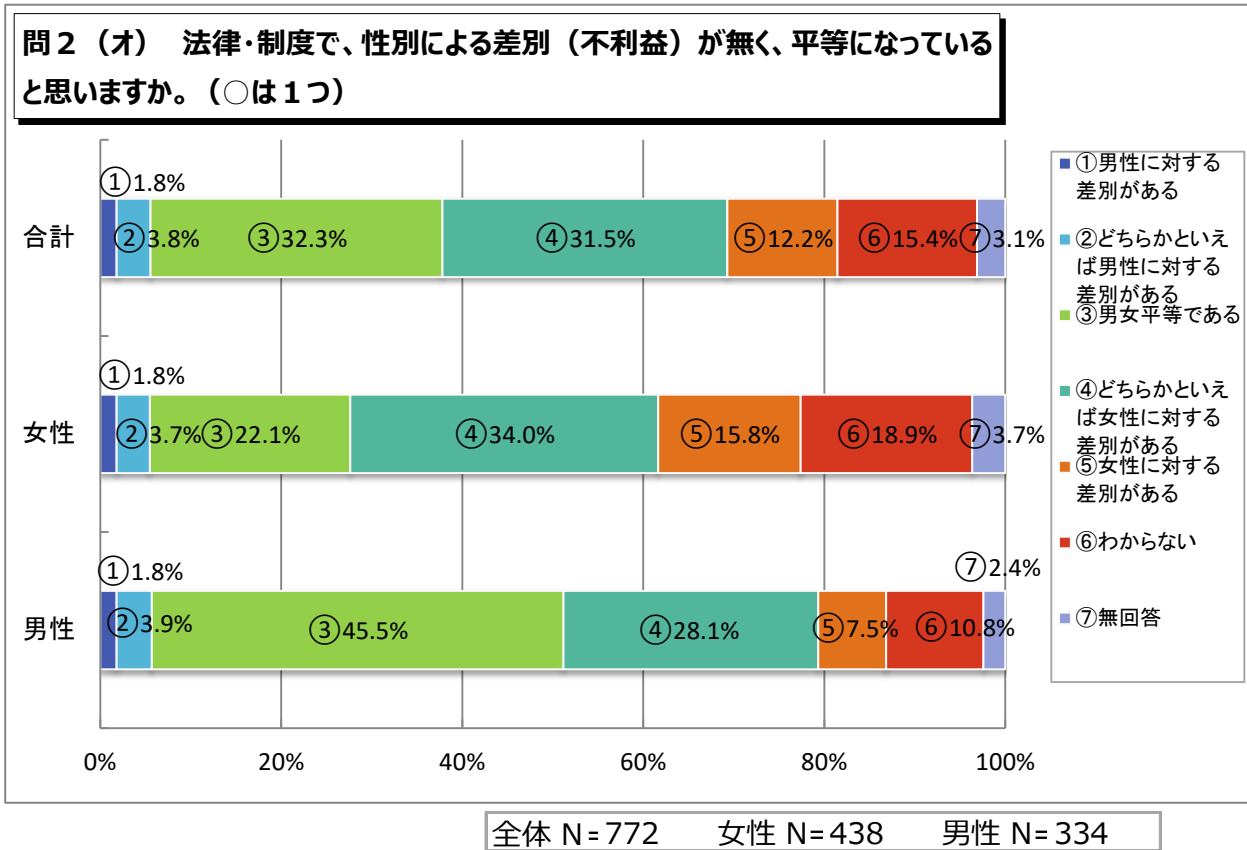




■ 政治の場について、「男女平等である」と回答した人は、女性が8.4%、男性が23.4%で、男女差がある。

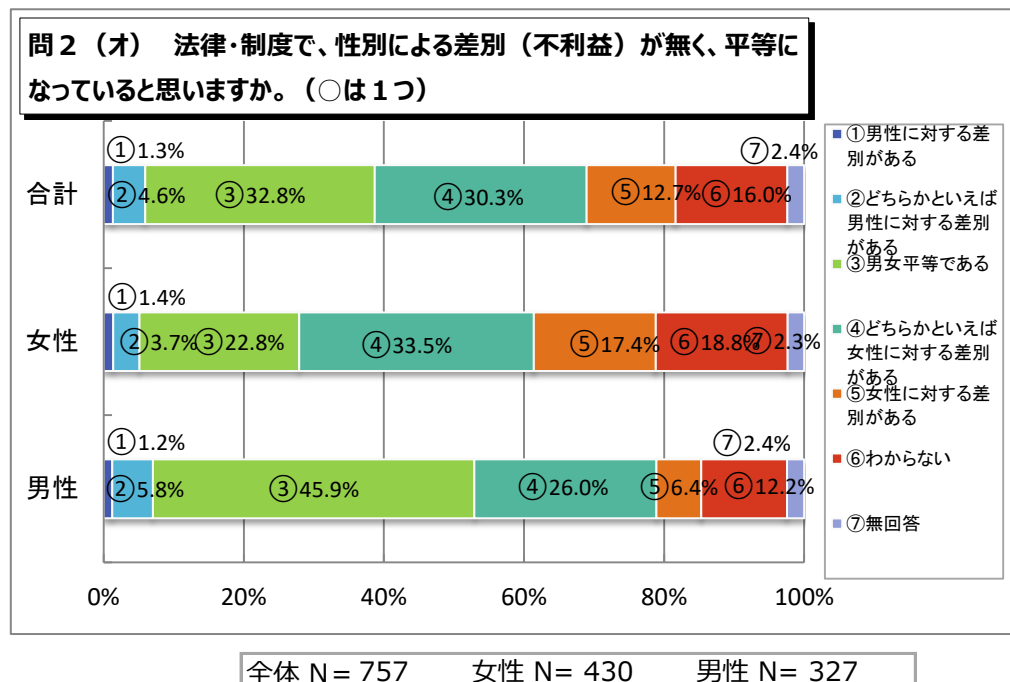
■ 平成30年度調査

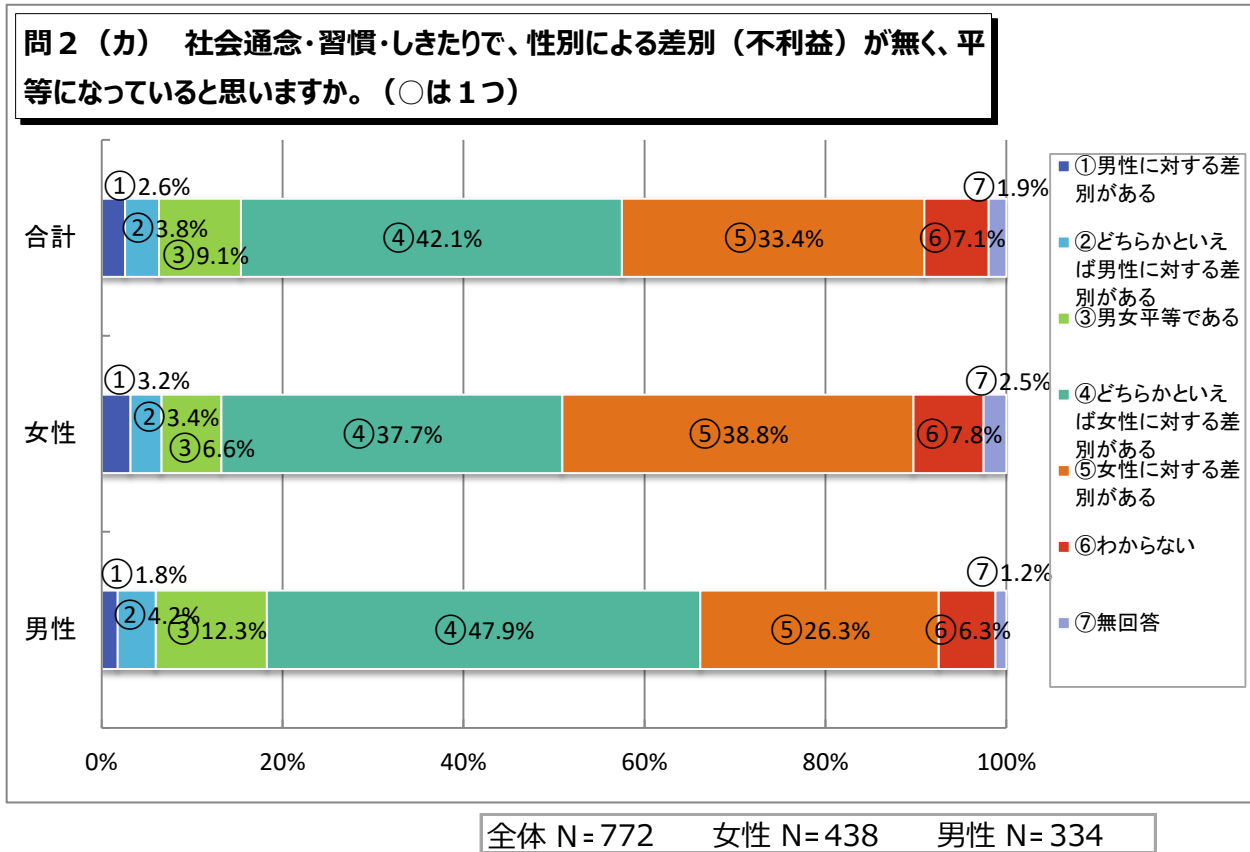




■ 法律・制度について、「男女平等である」と回答した人は、女性が22.1%、男性が45.5%で、男女差がある。

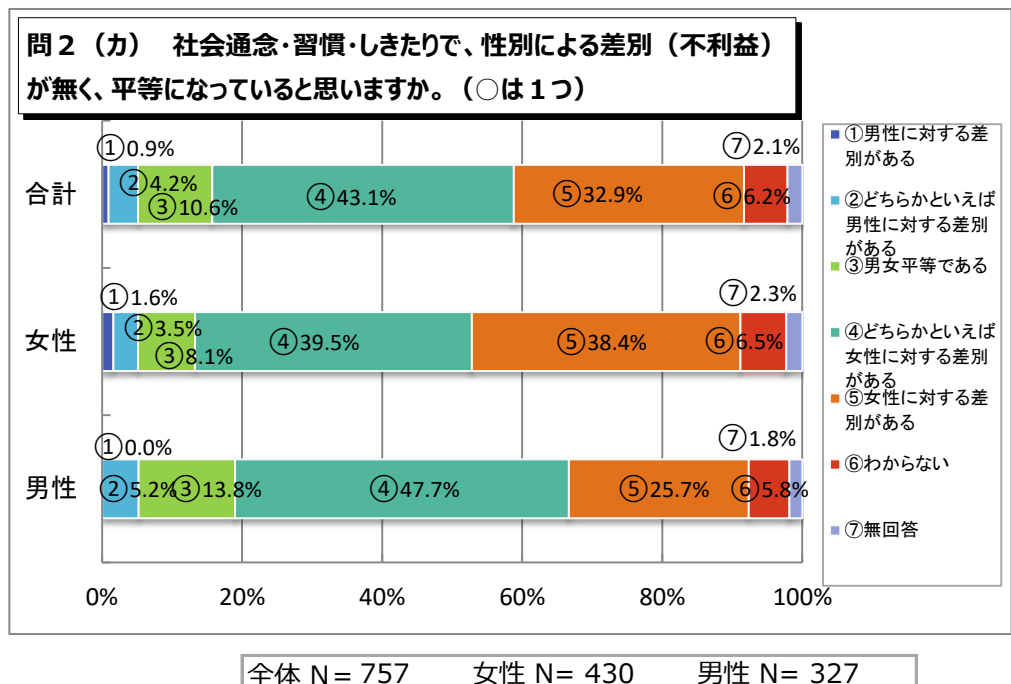
■ 平成30年度調査

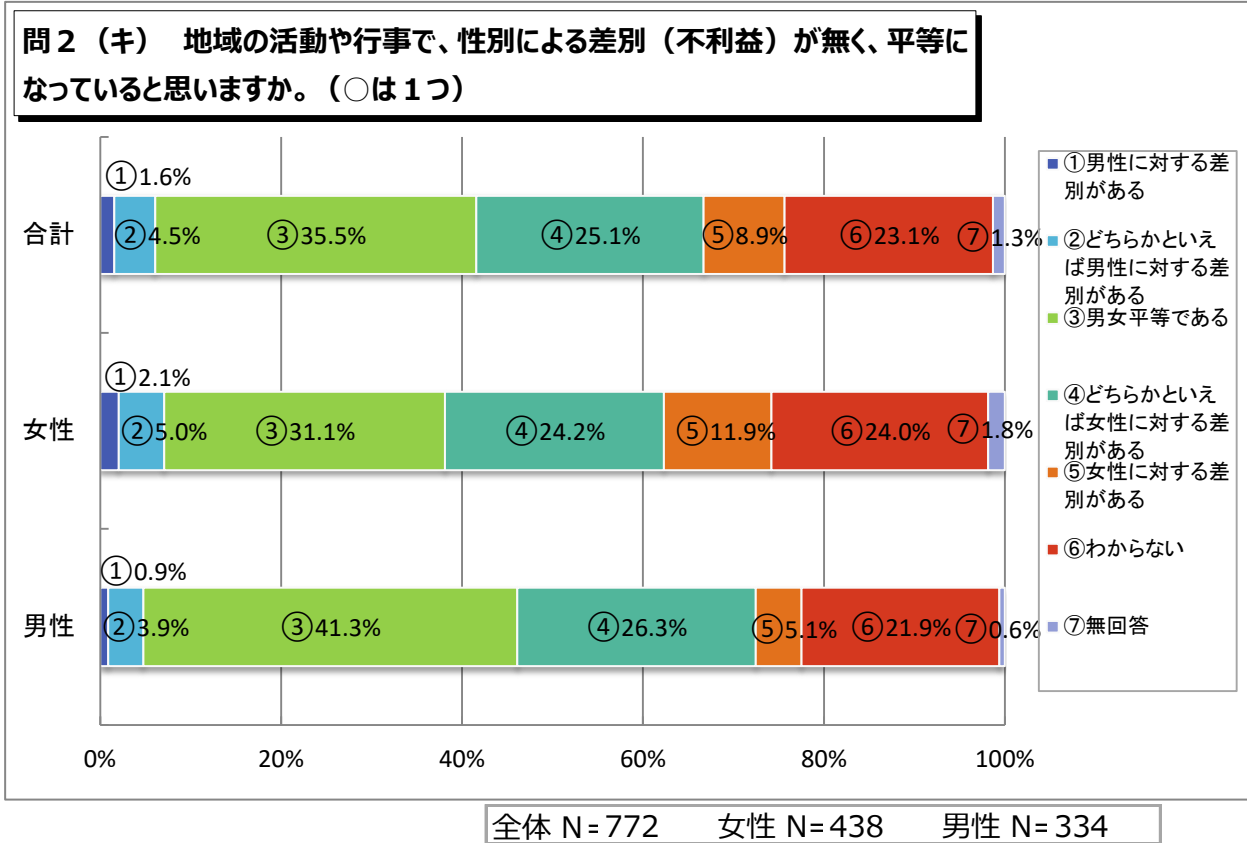




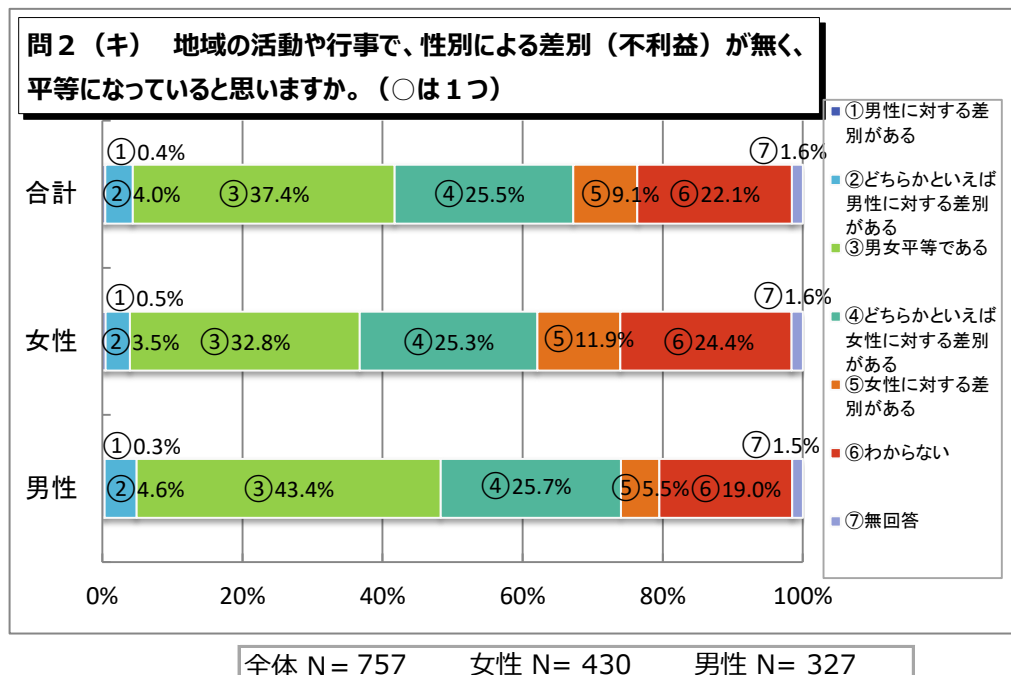
■ 社会通念・習慣・しきたりについて、「どちらかといえば女性に対する差別がある」「女性に対する差別がある」と回答した人は、全体で75.5%となり、多い割合である。

■ 平成30年度調査

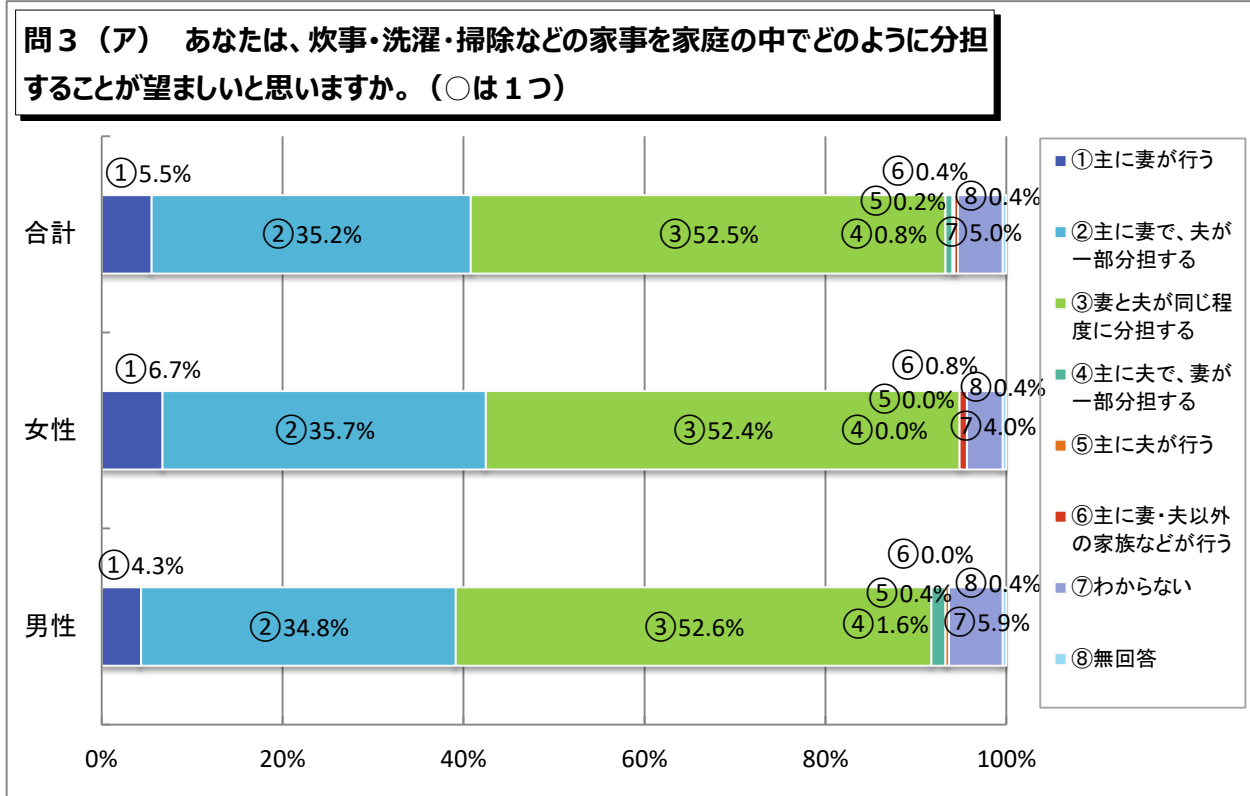




■ 平成30年度調査

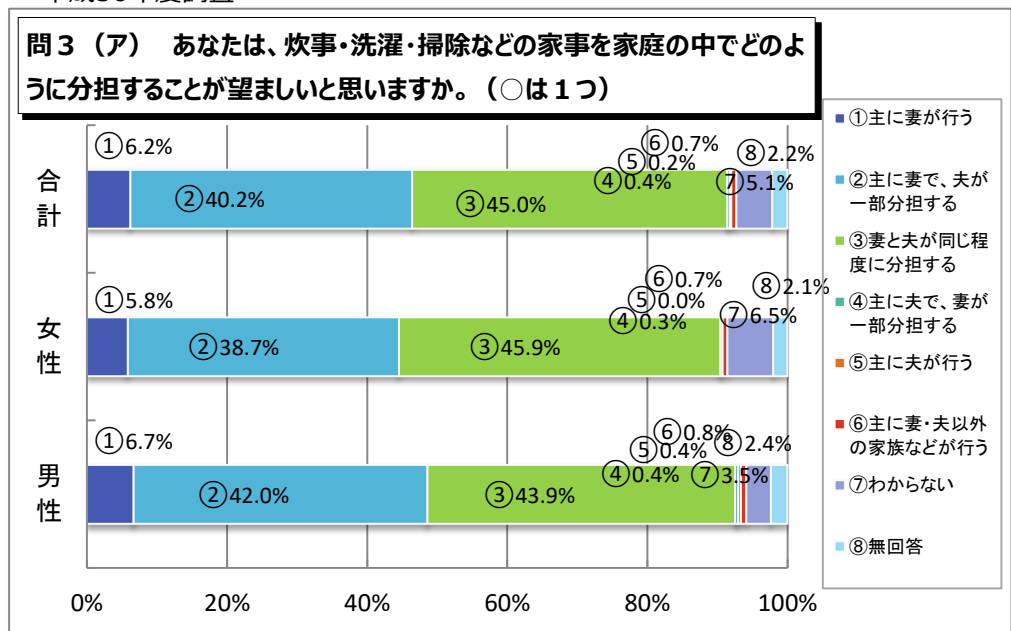


配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



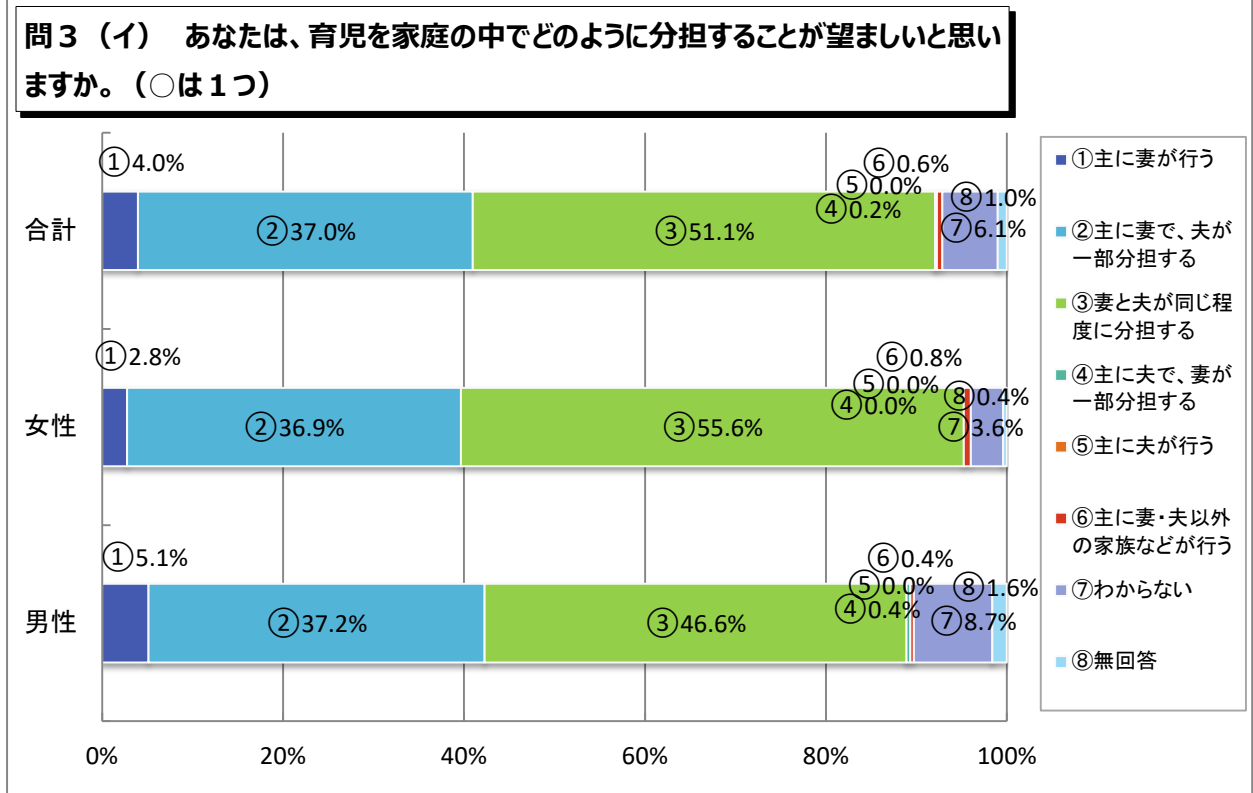
全体 N = 505 女性 N = 252 男性 N = 253

■平成30年度調査



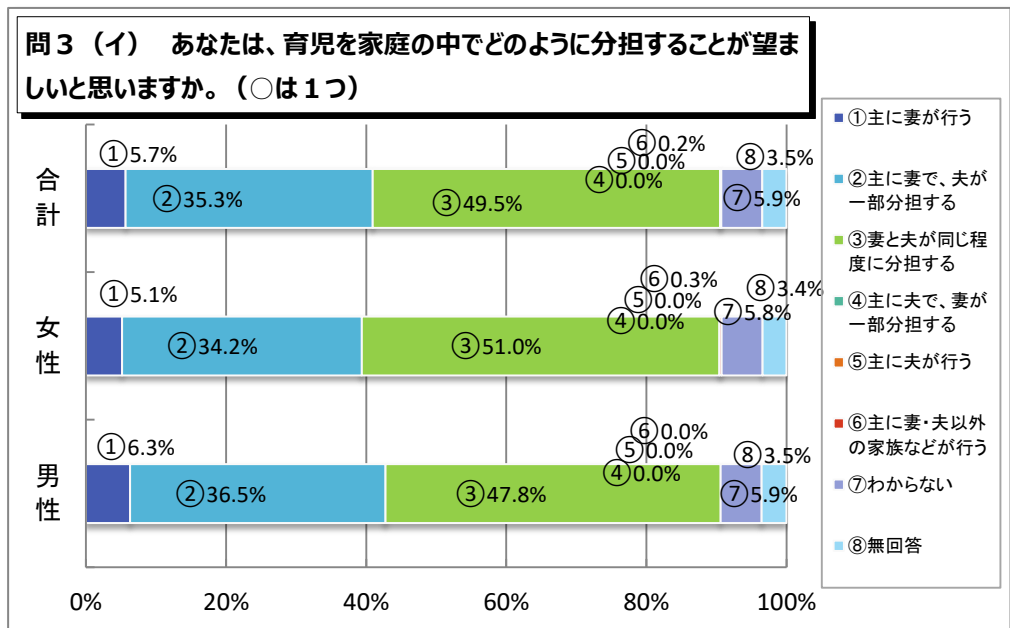
全体 N = 547 女性 N = 292 男性 N = 255

配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



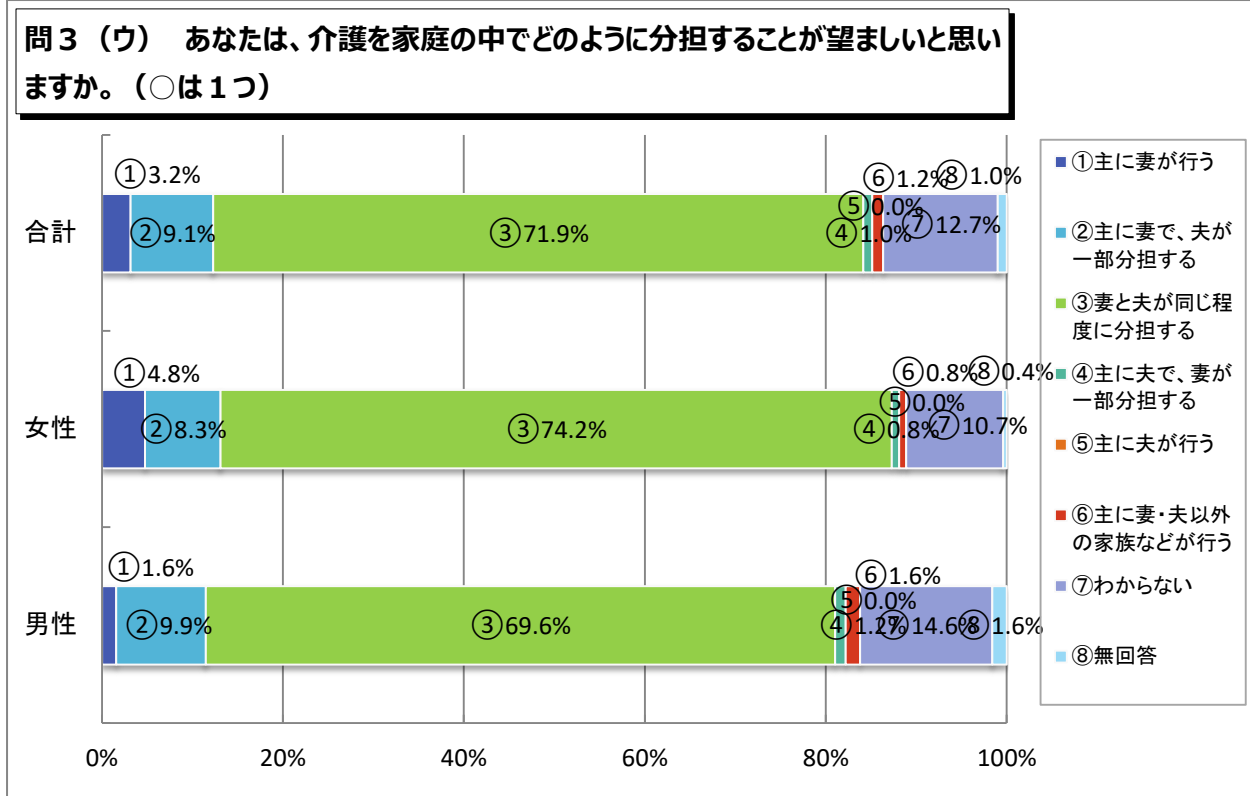
全体 N = 505 女性 N = 252 男性 N = 253

■平成30年度調査



全体 N = 547 女性 N = 292 男性 N = 255

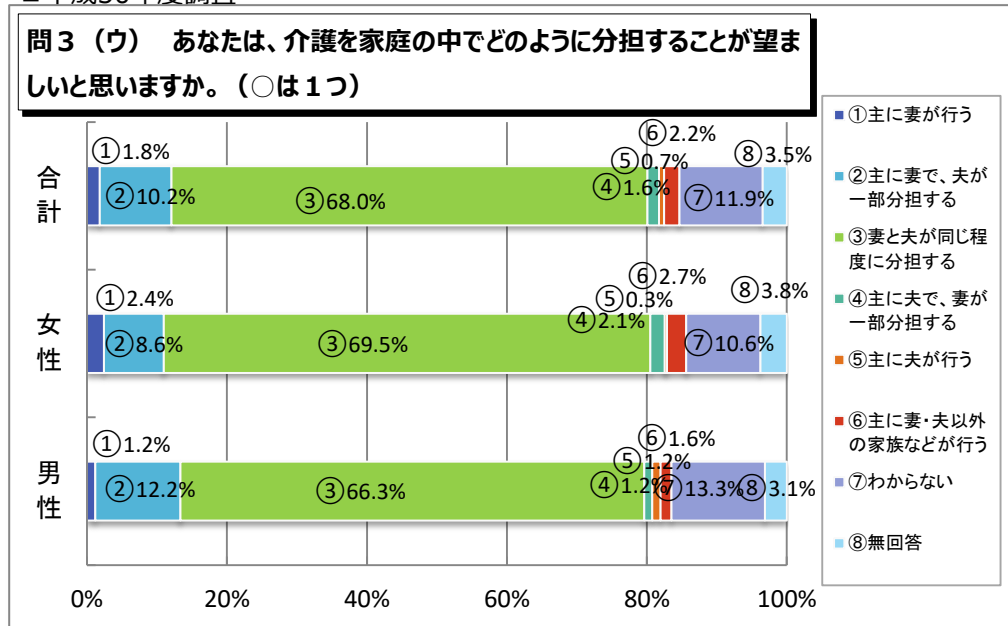
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



全体 N = 505 女性 N = 252 男性 N = 253

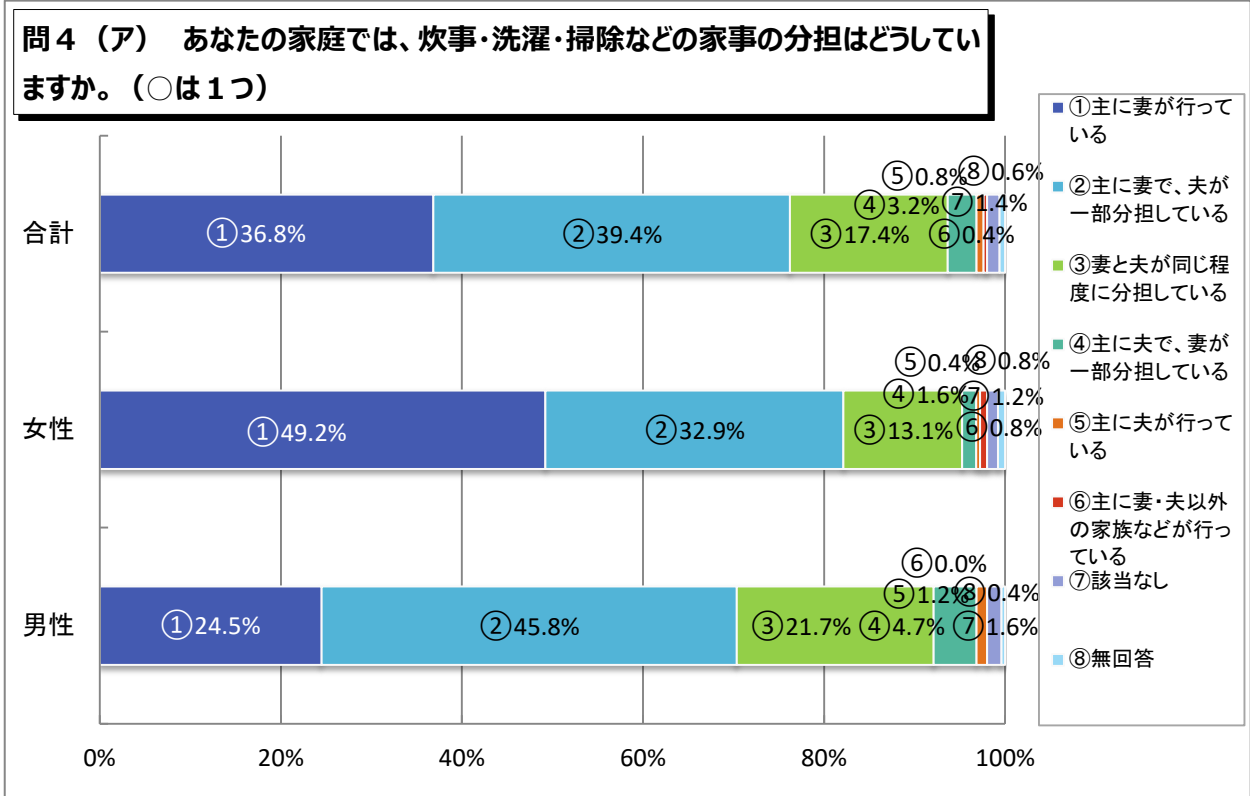
■ 家庭の中での介護について、望ましい分担のあり方を「妻と夫が同じ程度に分担する」と回答した人は全体で71.9%となり、家事や育児に比べこの回答の割合が高い。

■ 平成30年度調査



全体 N = 547 女性 N = 292 男性 N = 255

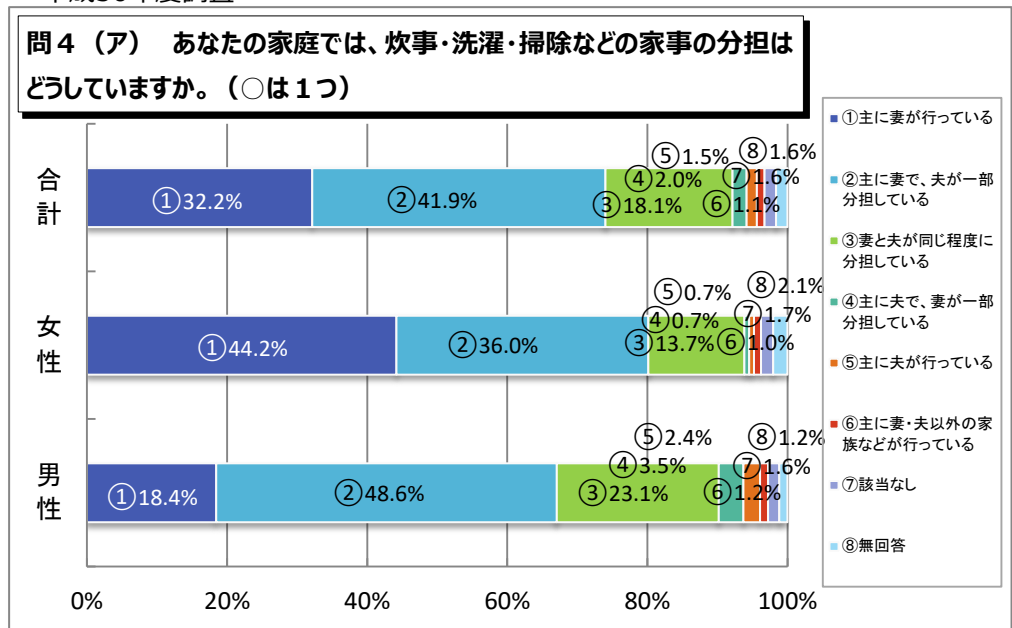
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



全体 N = 505 女性 N = 252 男性 N = 253

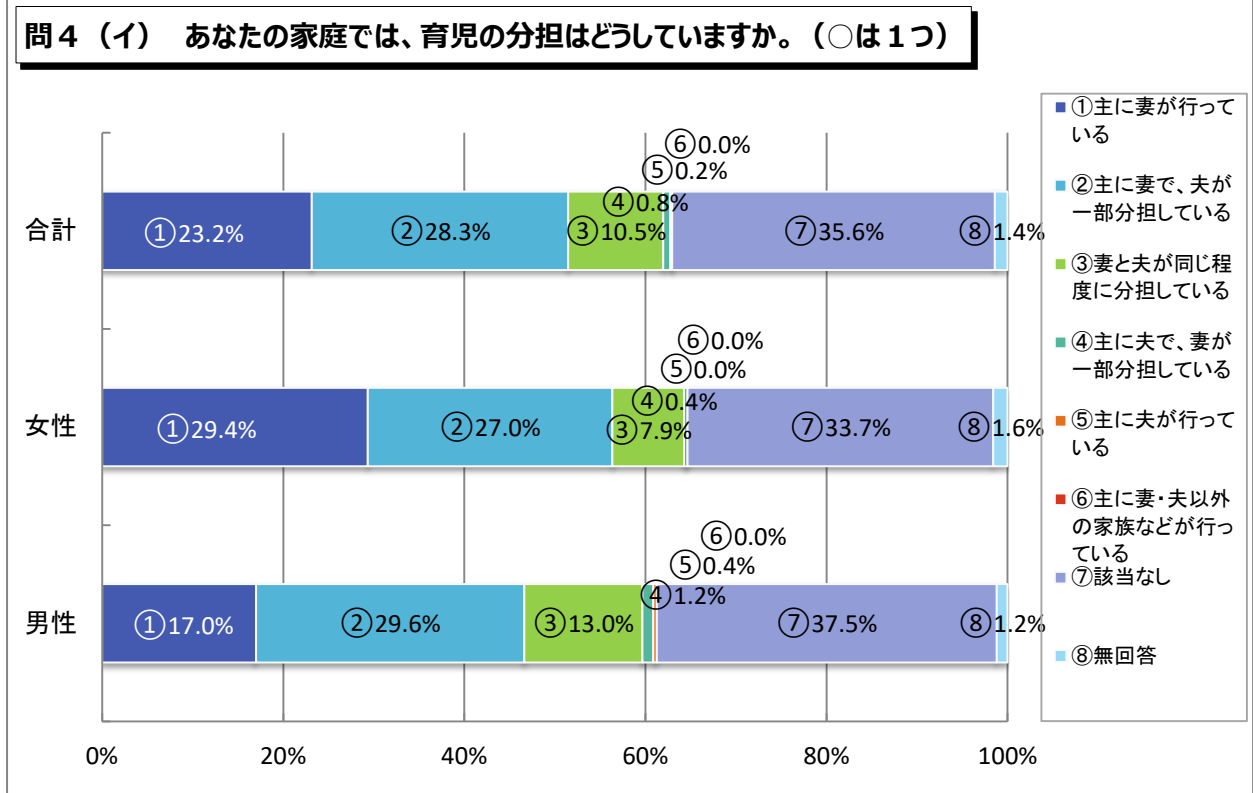
■ 家事の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が49.2%、男性が24.5%で、男女差がある。

■ 平成30年度調査



全体 N = 547 女性 N = 292 男性 N = 255

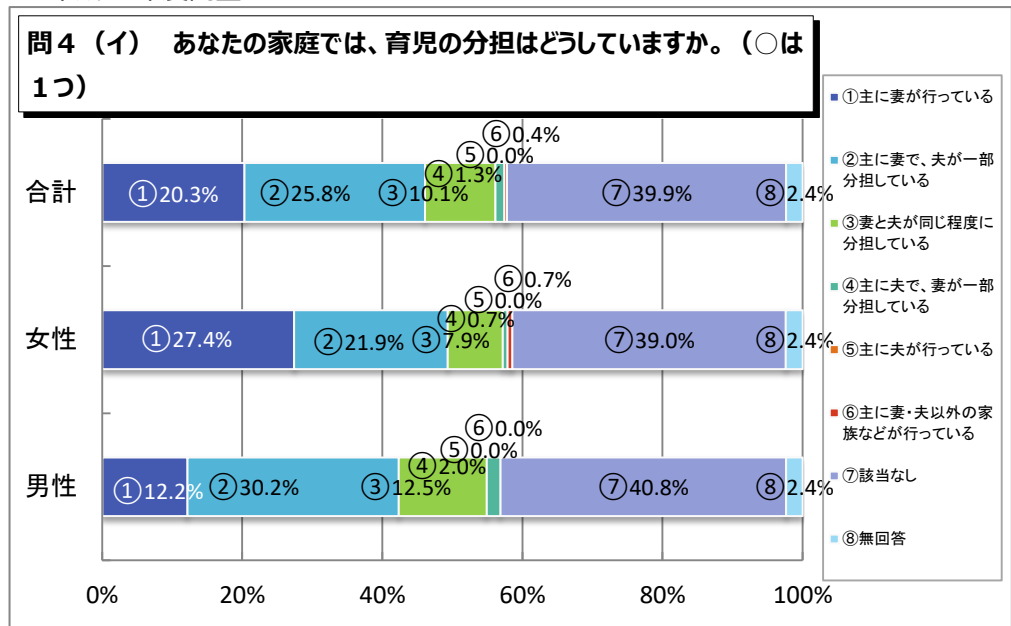
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



全体 N = 505 女性 N = 252 男性 N = 253

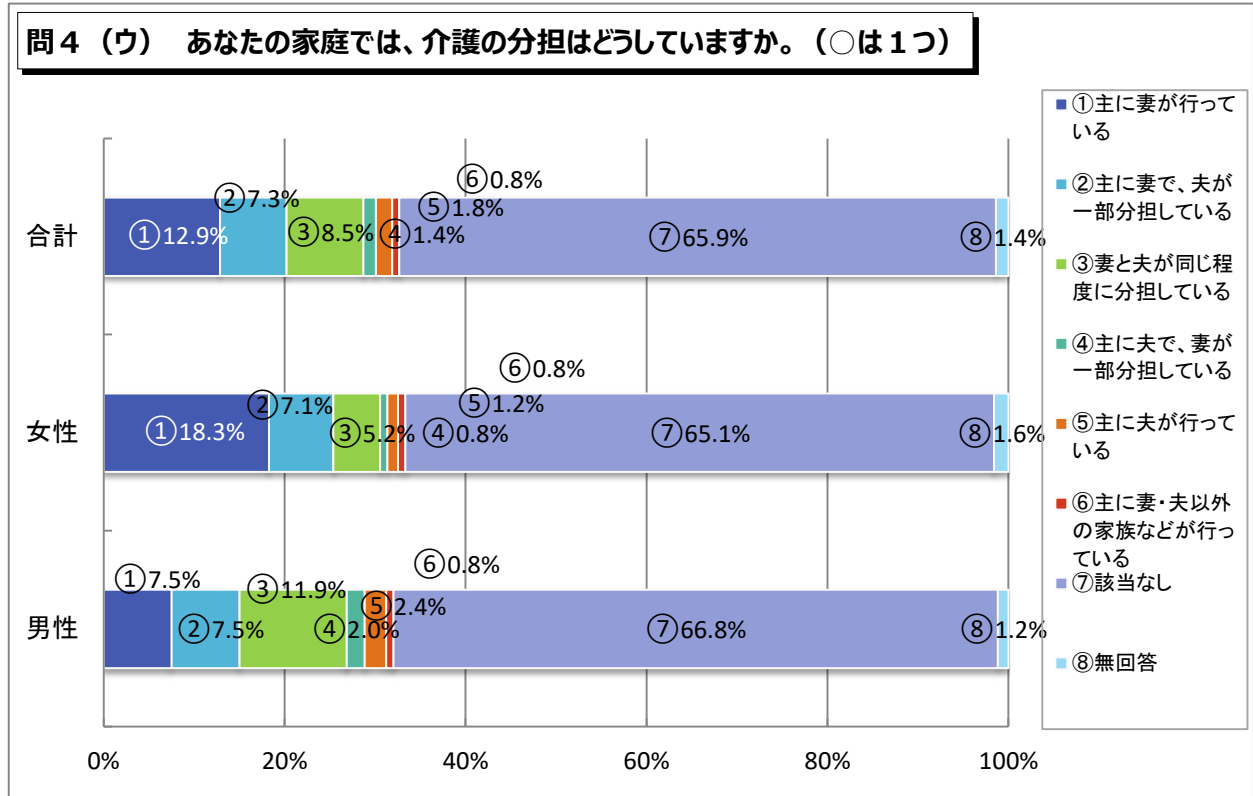
■ 育児の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が29.4%、男性が17.0%で、男女差がある。

■ 平成30年度調査



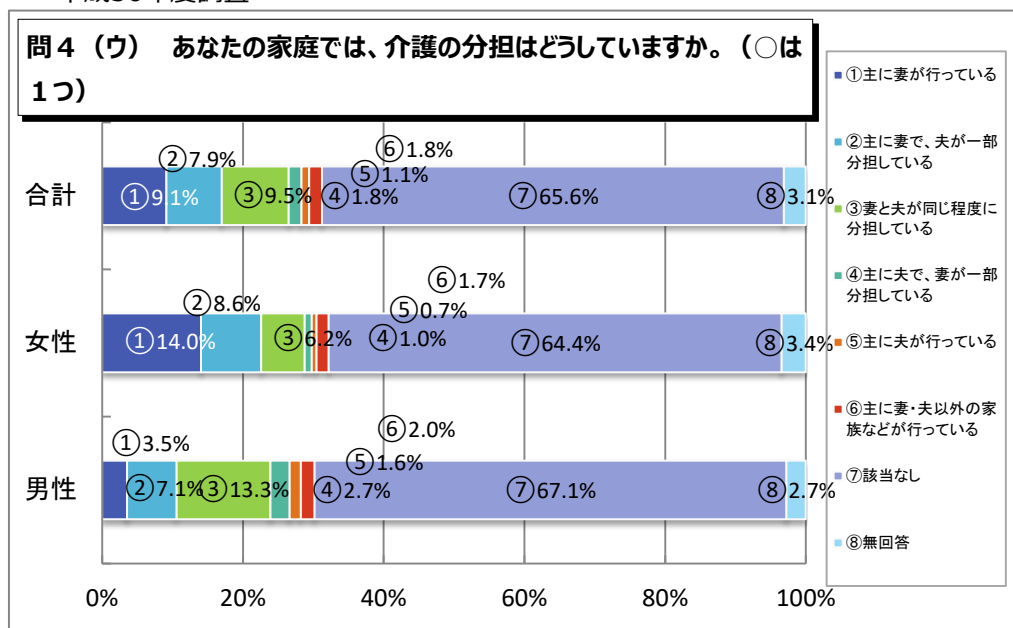
全体 N = 547 女性 N = 292 男性 N = 255

配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



全体 N = 505 女性 N = 252 男性 N = 253

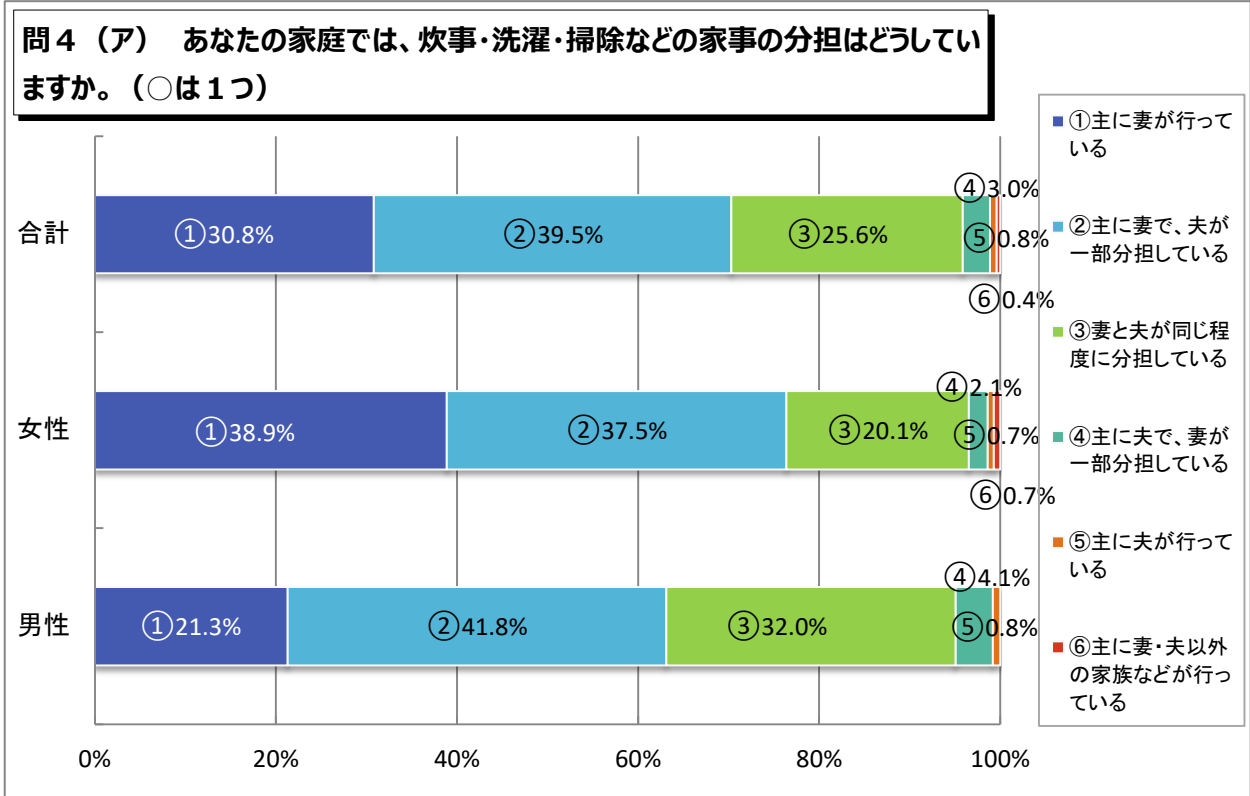
■平成30年度調査



全体 N = 547 女性 N = 292 男性 N = 255

※問4（ア）のみ「共働き」の条件で抽出した集計

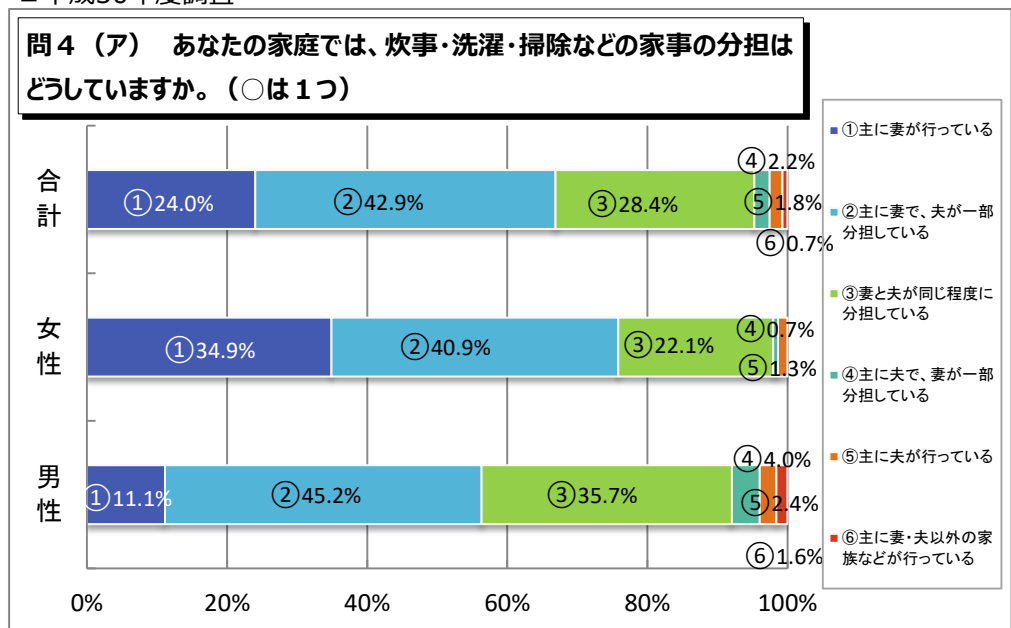
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ【共働き】（該当なし、無回答を除く）



全体 N = 266 女性 N = 144 男性 N = 122

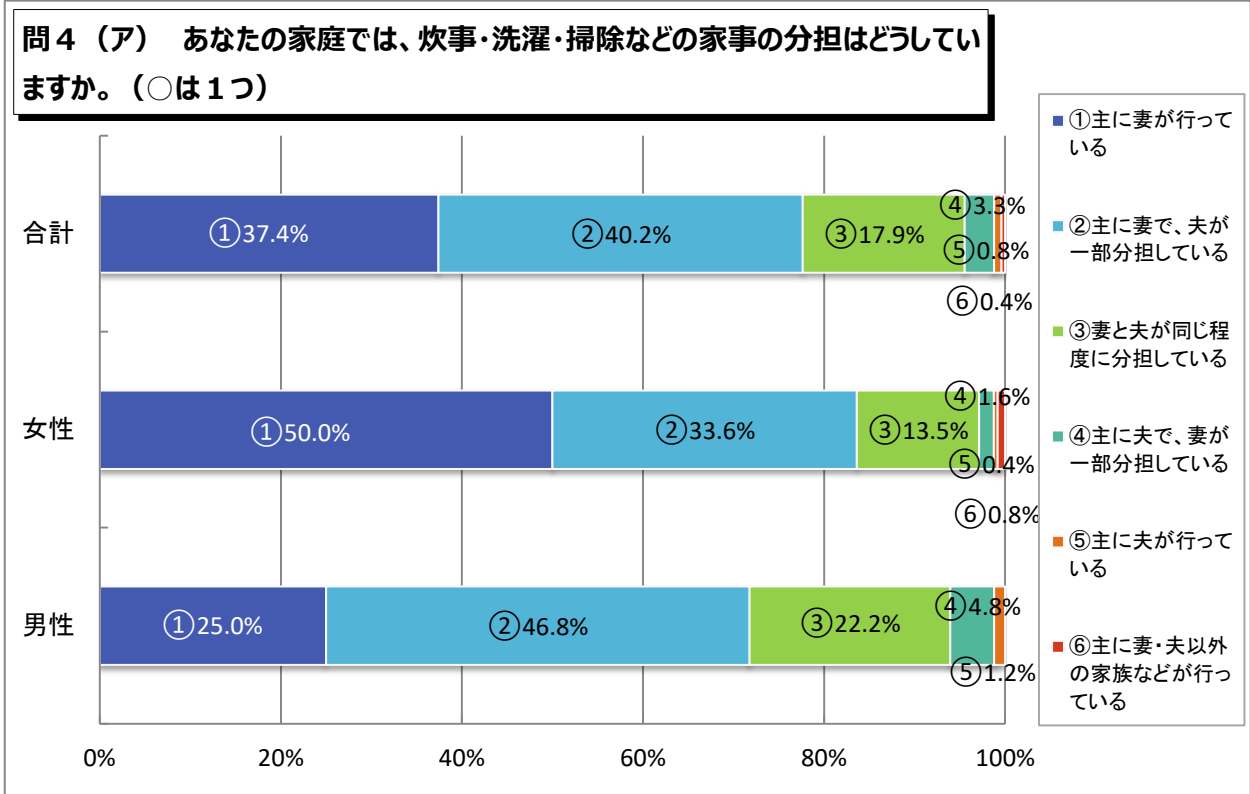
■ 家事の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が38.9%、男性が21.3%で、男女差がある。

■ 平成30年度調査



全体 N = 275 女性 N = 149 男性 N = 126

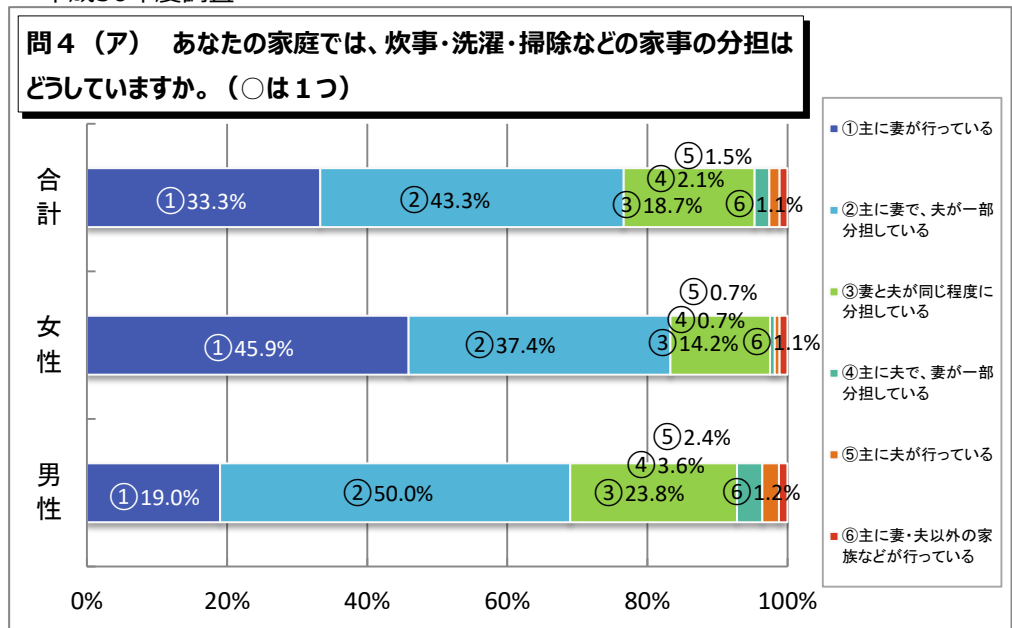
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ（該当なし、無回答を除く）



全体 N = 492 女性 N = 244 男性 N = 248

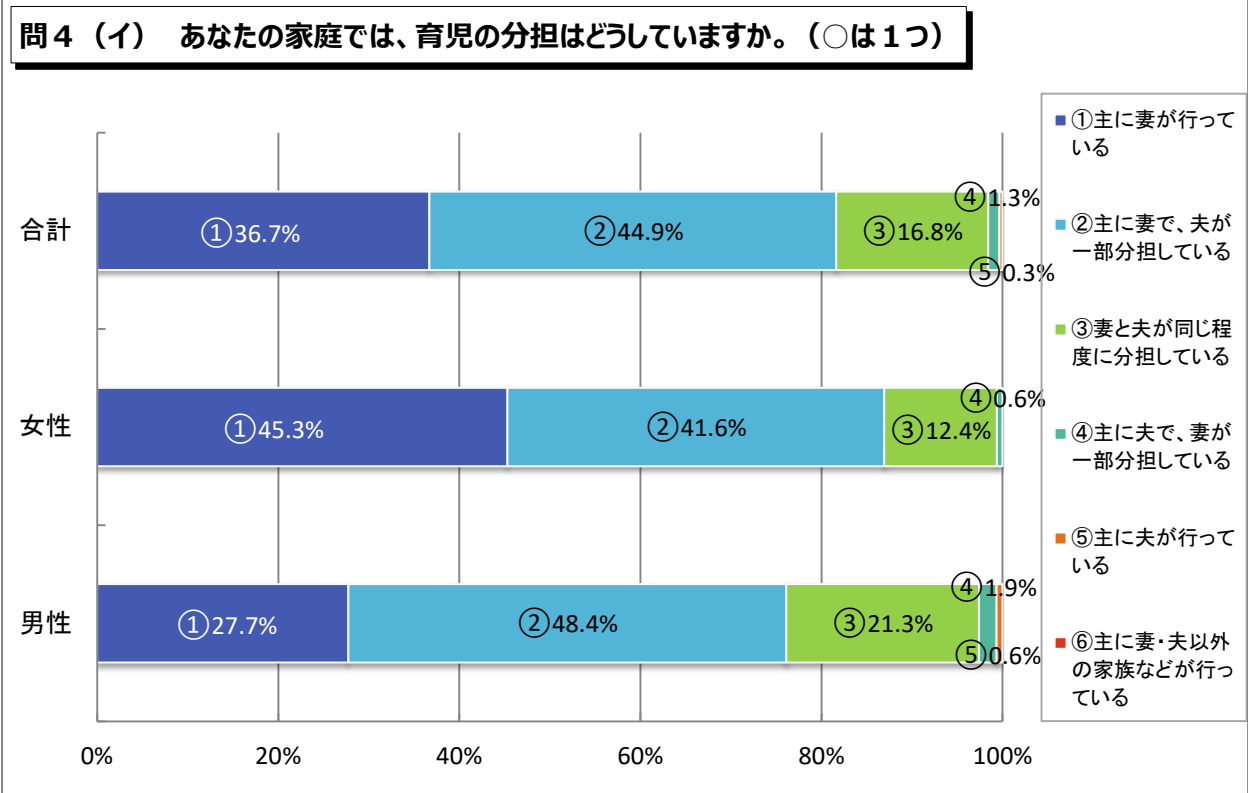
■ 家事の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が50.0%、男性が25.0%で、男女差がある。

■ 平成30年度調査



全体 N = 529 女性 N = 281 男性 N = 248

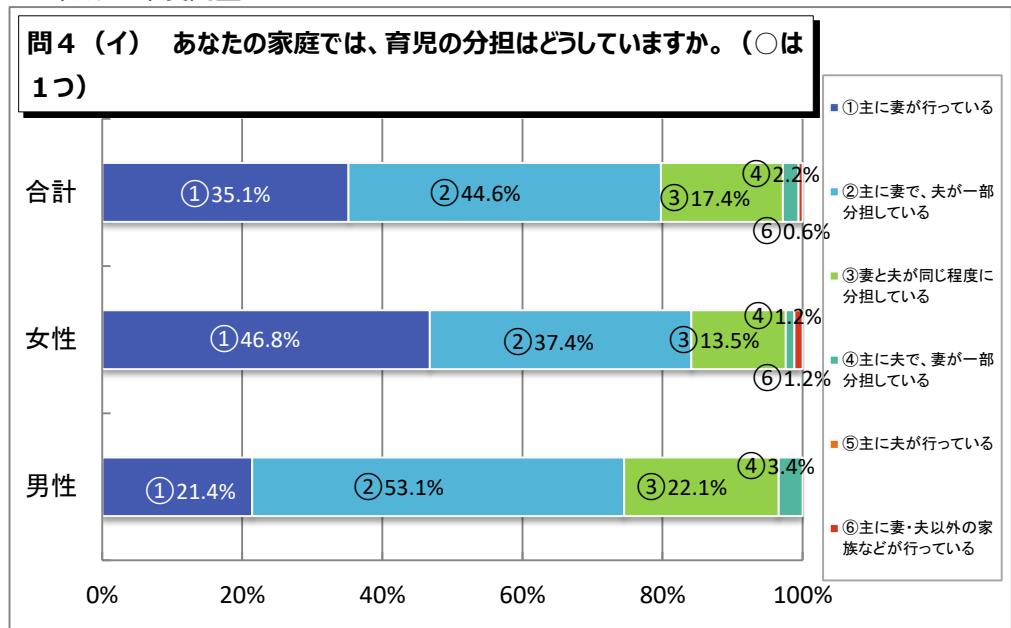
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ（該当なし、無回答を除く）



全体 N = 316 女性 N = 161 男性 N = 155

■ 育児の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が45.3%、男性が27.7%で、男女差がある。

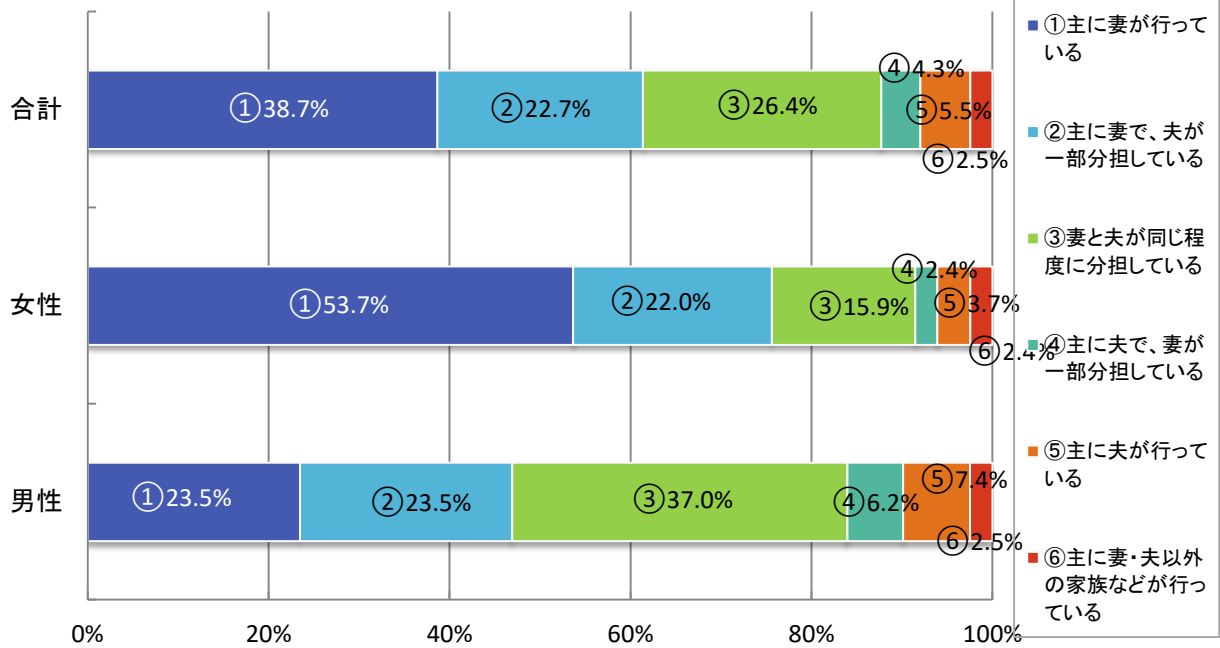
■ 平成30年度調査



全体 N = 316 女性 N = 171 男性 N = 145

配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ（該当なし、無回答を除く）

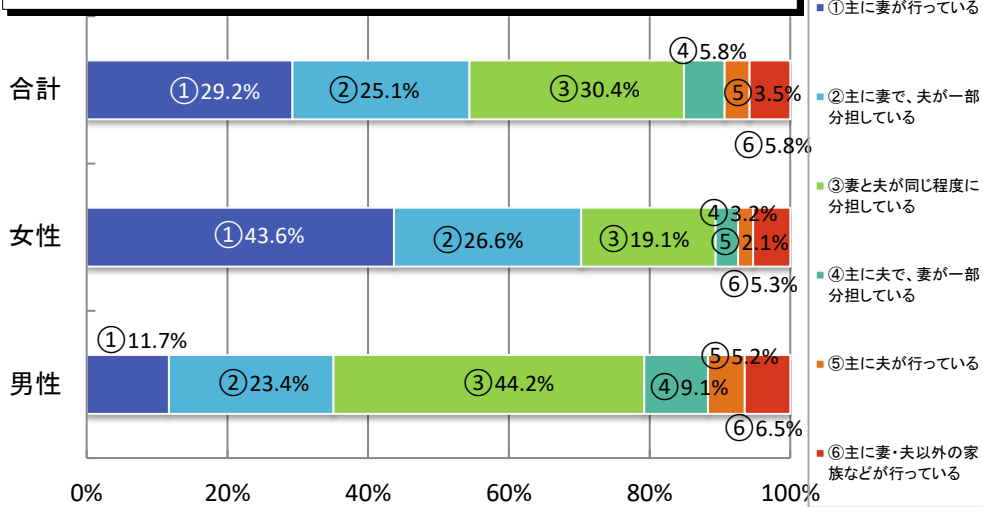
問4（ウ） あなたの家庭では、介護の分担はどうしていますか。（○は1つ）



全体 N = 163 女性 N = 82 男性 N = 81

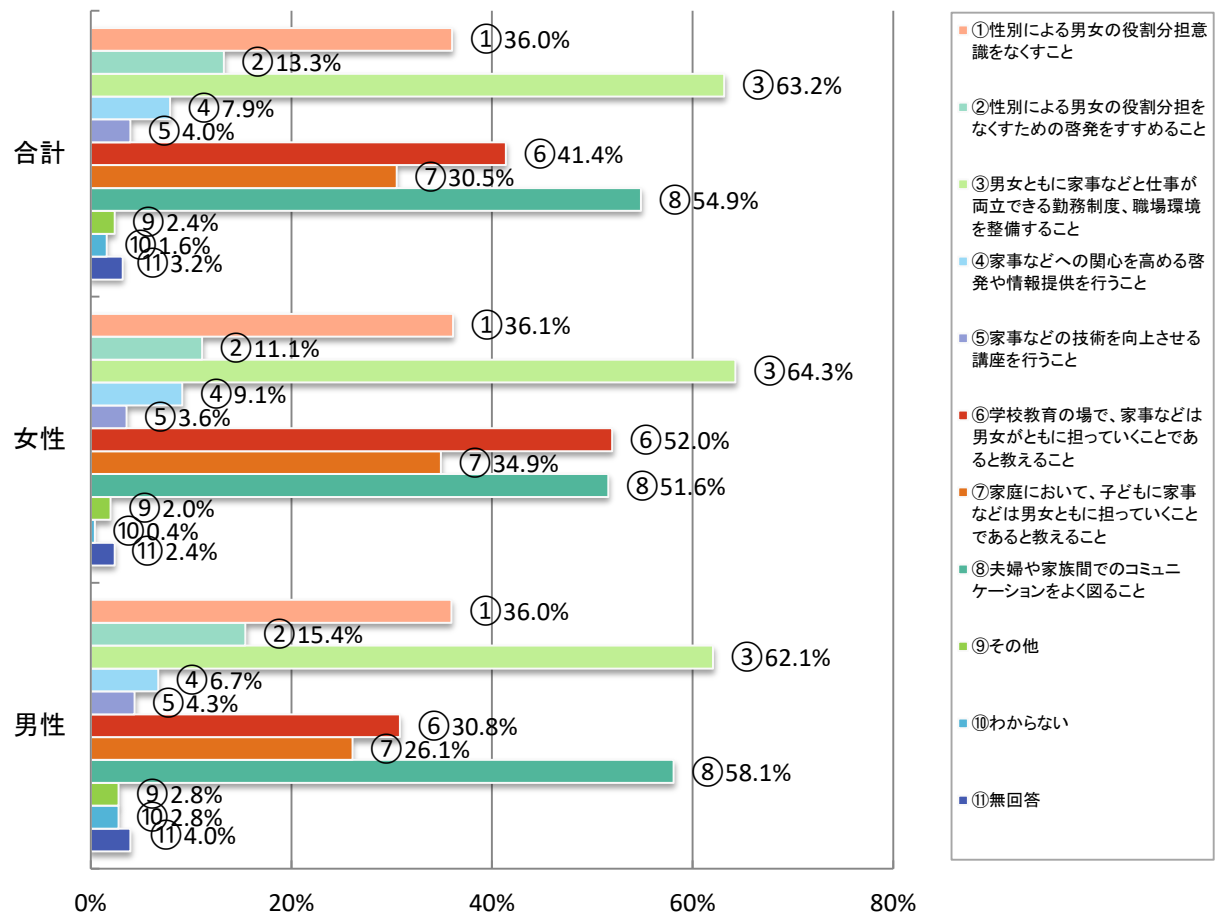
■平成30年度調査

問4（ウ） あなたの家庭では、介護の分担はどうしていますか。（○は1つ）



全体 N = 171 女性 N = 94 男性 N = 77

問5 あなたは、家事・育児・介護（以下、「家事など」という。）の分担が一方の配偶者に偏らないようにするためには、特にどんなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）



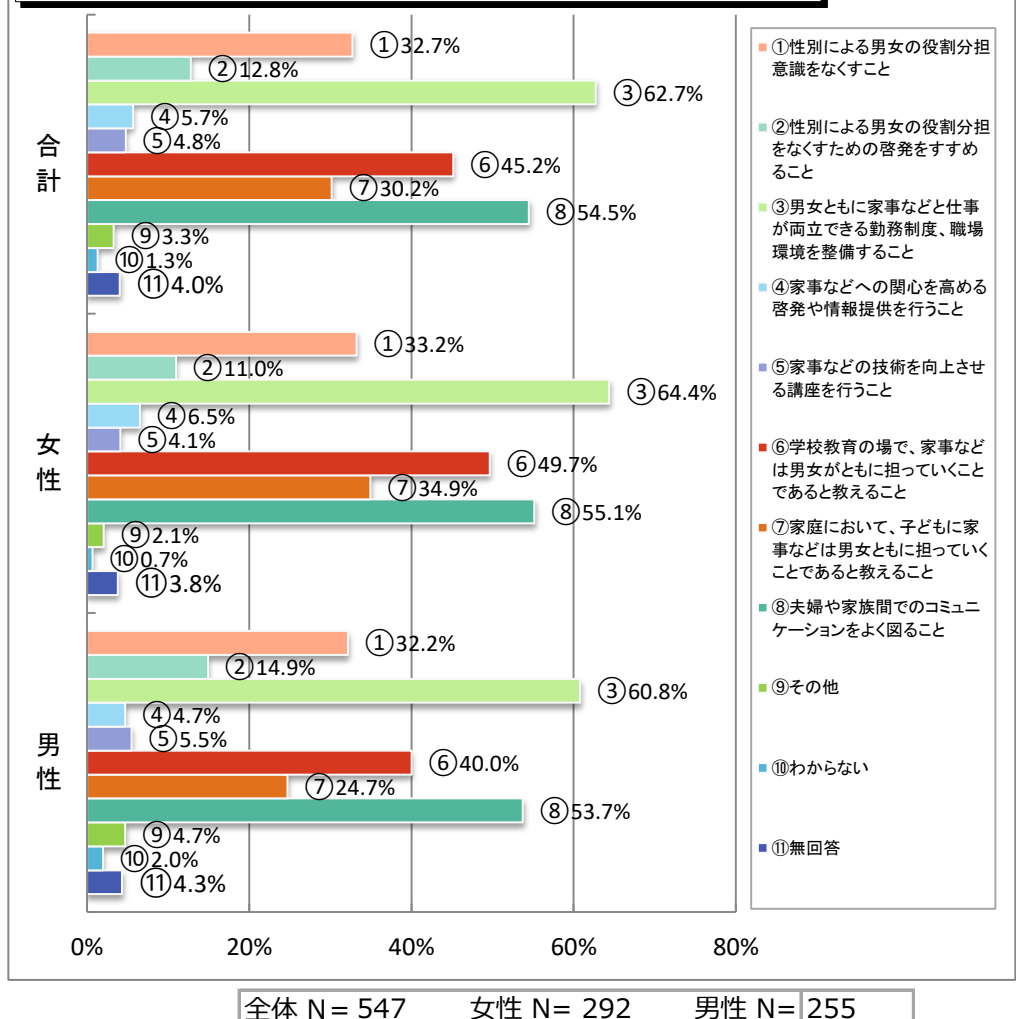
全体 N = 505 女性 N = 252 男性 N = 253

■ 家事などの分担が一方の配偶者に偏らないようにするために必要なこととしては、「男女ともに家事などと仕事が両立できる勤務制度、職場環境を整備すること」という回答が全体で63.2%と最も多い。

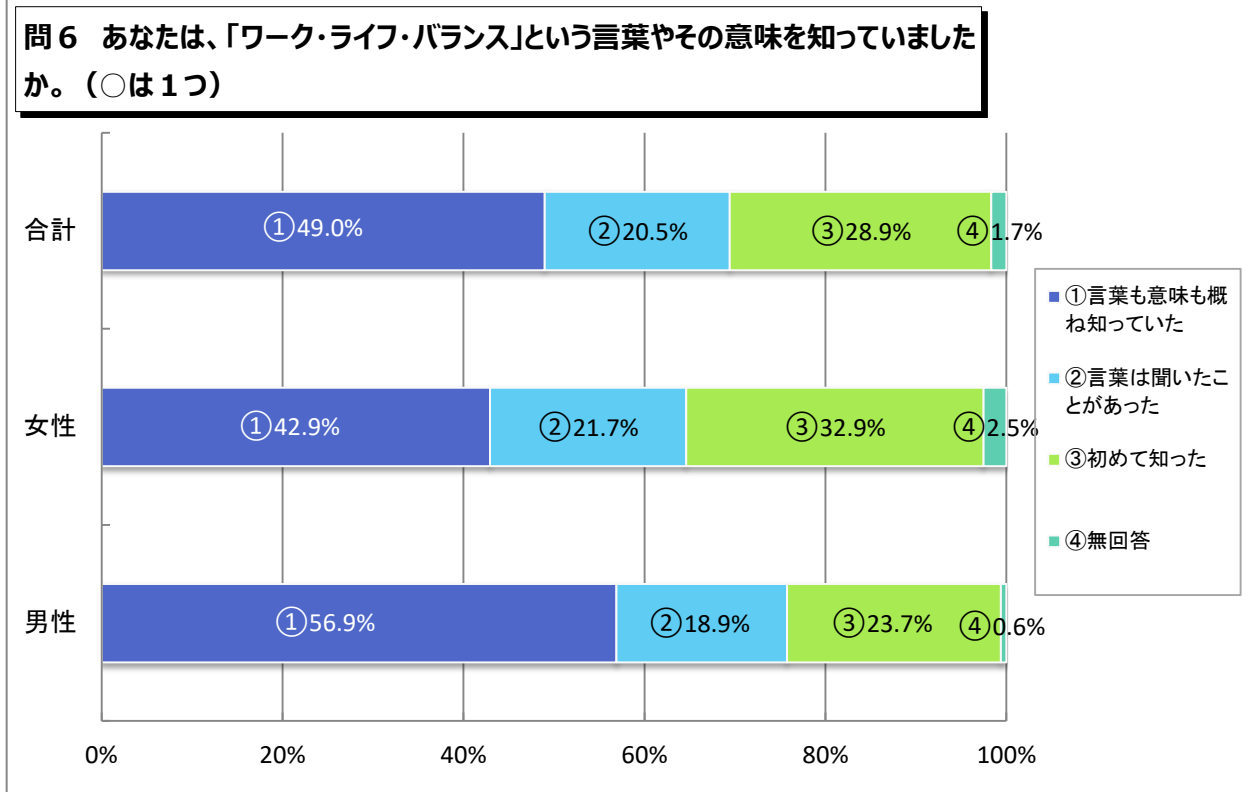
次に「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」（54.9%）、「学校教育の場で、家事などは男女がともに担っていくことであると教えること」（41.4%）と続く。

■平成30年度調査

問5 あなたは、家事・育児・介護（以下、「家事など」という。）の分担が一方の配偶者に偏らないようにするためには、特にどんなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）



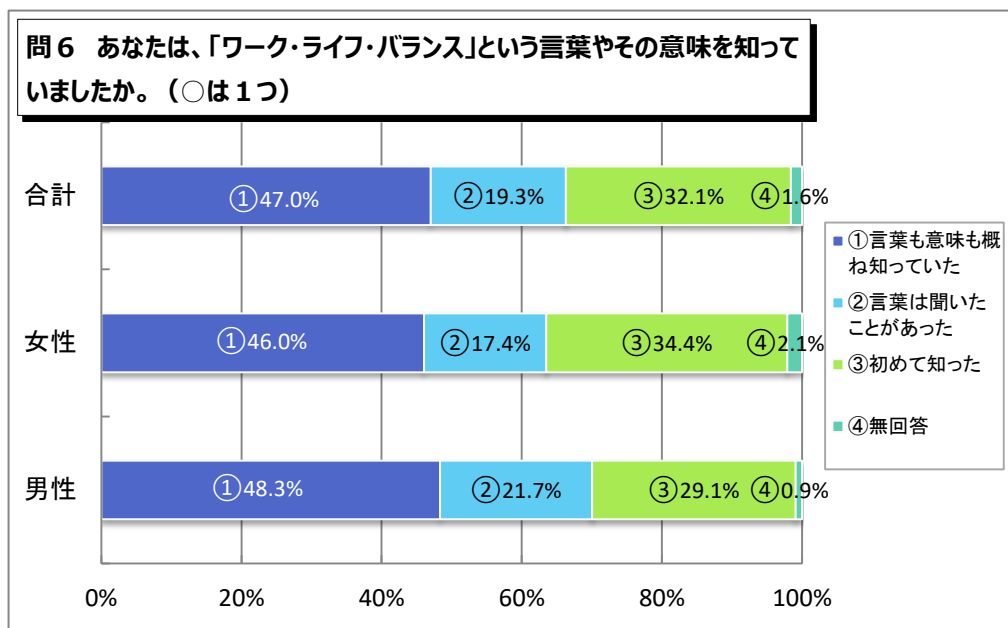
【 Ⅱ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） 】



全体 N = 772 女性 N = 438 男性 N = 334

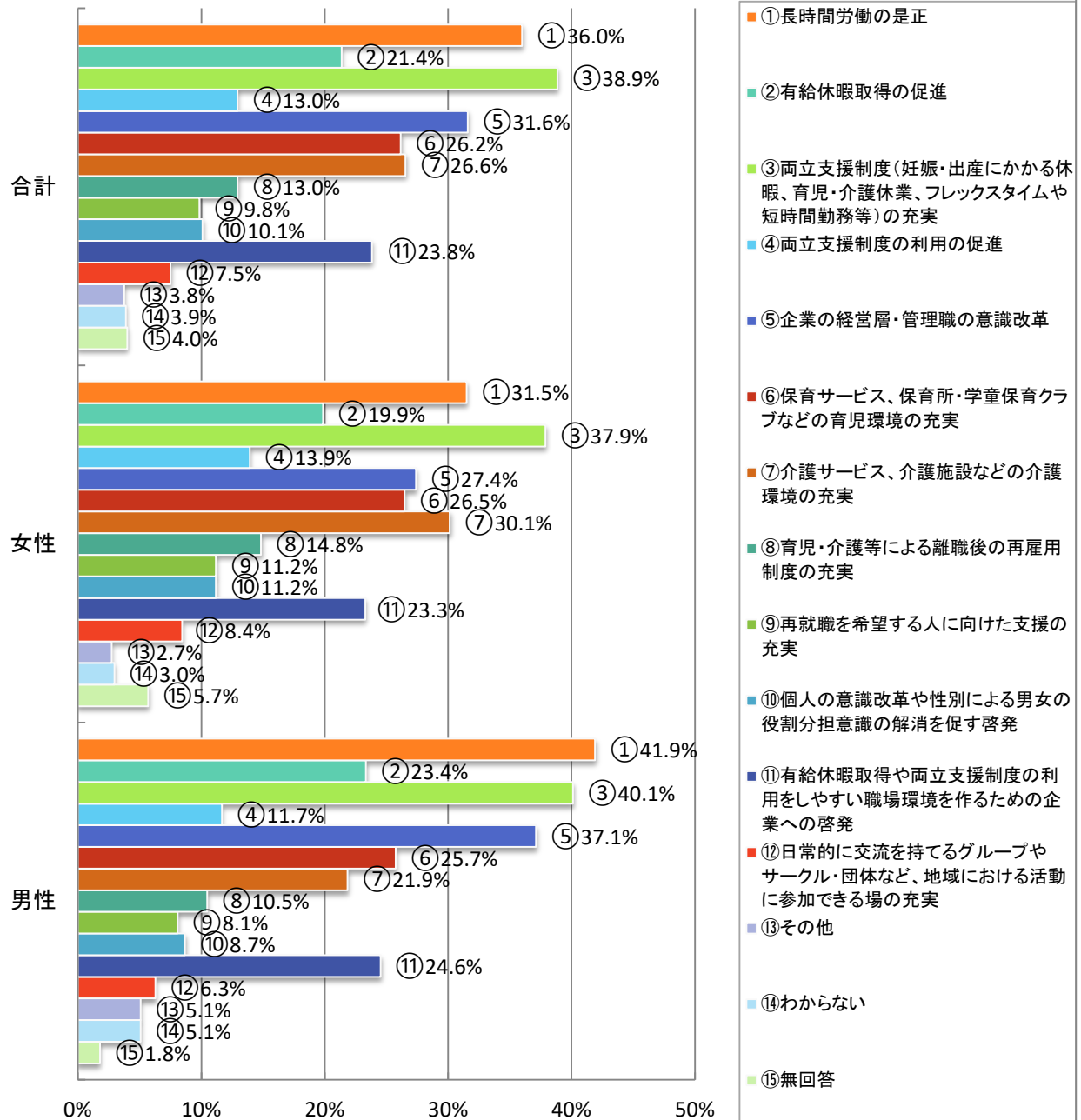
- 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉やその意味を知っているかについて、「言葉も意味も概ね知っていた」「言葉は聞いたことがあった」と回答した人は、全体で69.5%となった。
- 特に、「言葉も意味も概ね知っていた」と回答した男性は56.9%で、半数以上を占めている。

■平成30年度調査



全体 N = 757 女性 N = 430 男性 N = 327

問7 あなたは、ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）



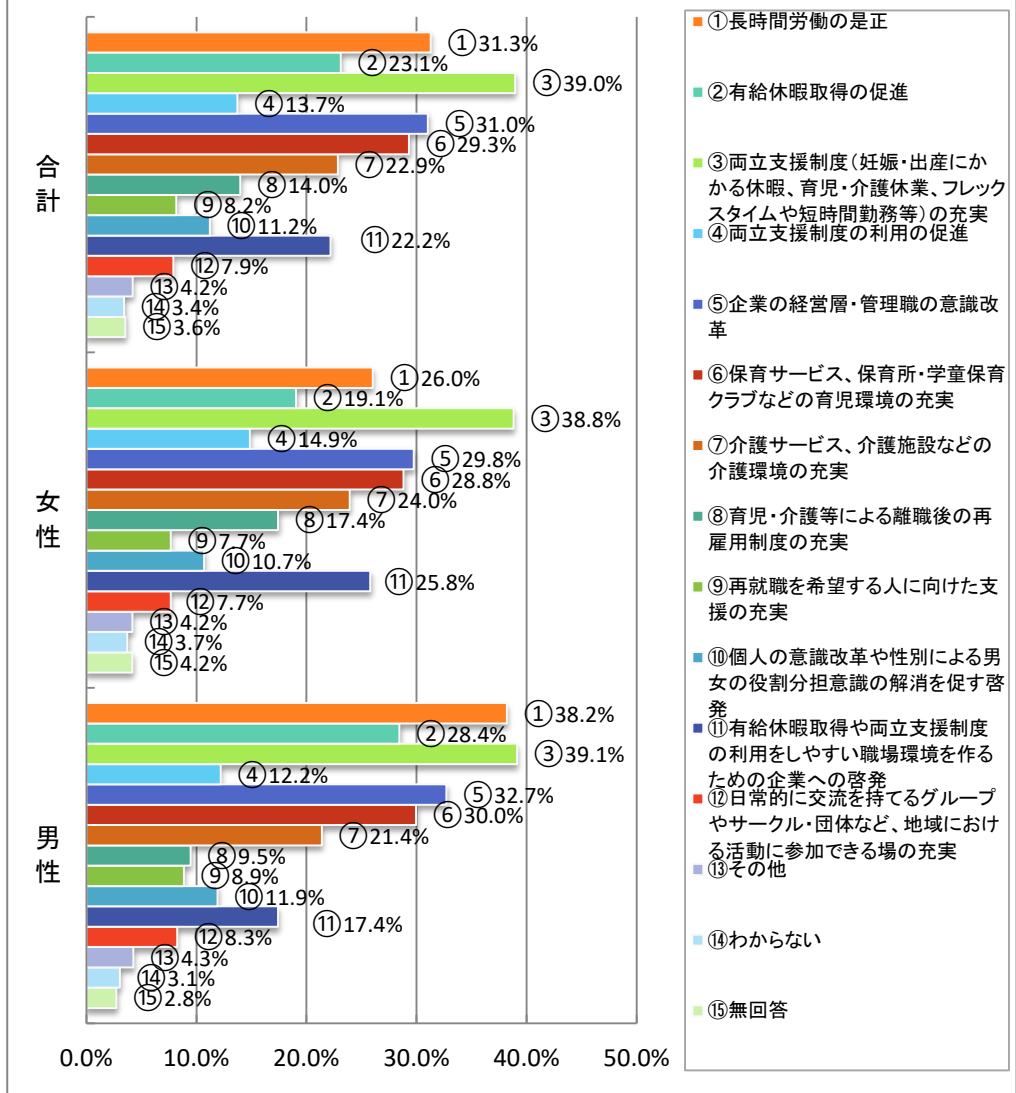
全体 N = 772 女性 N = 438 男性 N = 334

■ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこととしては、「両立支援制度（妊娠・出産にかかる休暇、育児・介護休業、フレックスタイムや短時間勤務等）の充実」という回答が全体で38.9%と最も多い。

次に「長時間労働の是正」（36.0%）、「企業の経営層・管理職の意識改革」（31.6%）、「介護サービス、介護施設などの介護環境の充実」（26.6%）と続く。

■平成30年度調査

問7 あなたは、ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

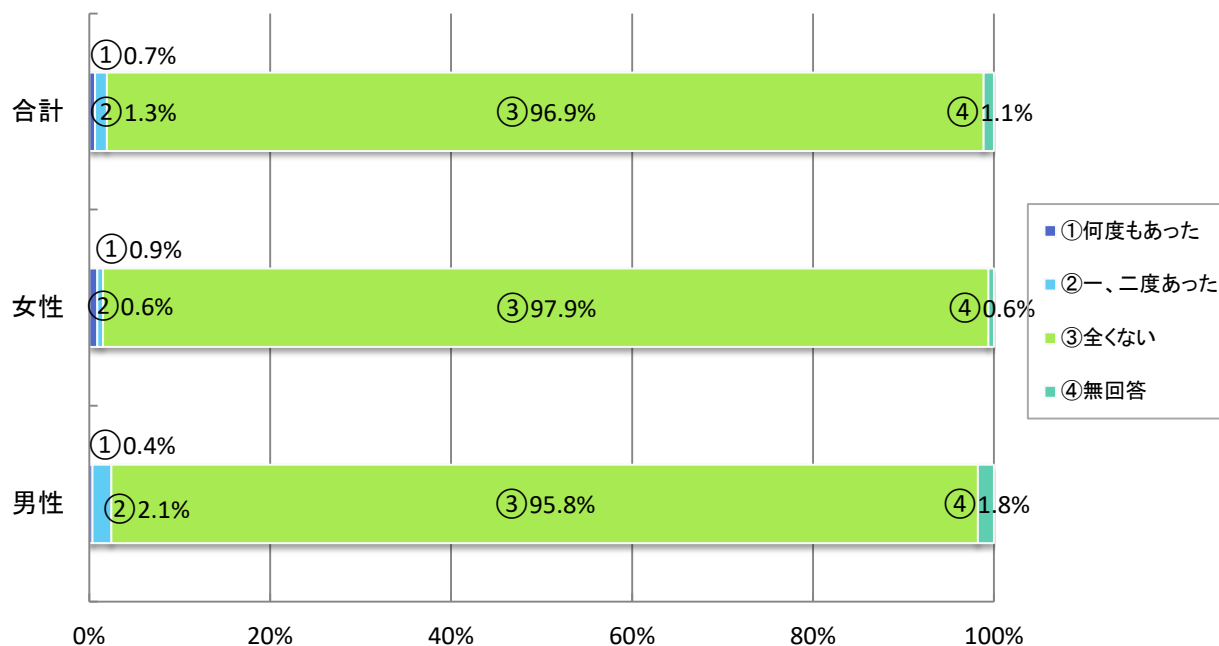


全体 N = 757 女性 N = 430 男性 N = 327

【 Ⅲ 人権の尊重 】

配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）がいる（いた）かたのみ

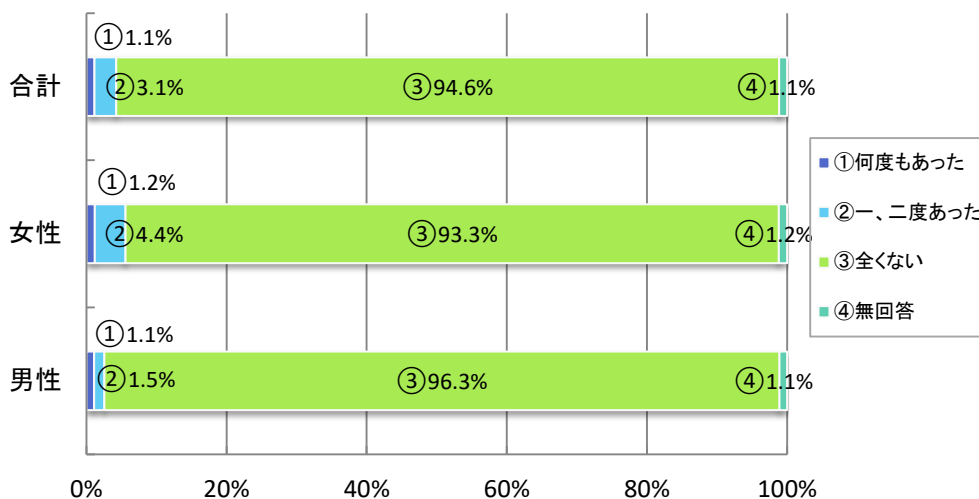
問8（ア） あなたはこの1年間に、配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）から、次のようなこと（身体的暴力）をされたことがありますか。（○は1つ）



全体 N = 613 女性 N = 329 男性 N = 284

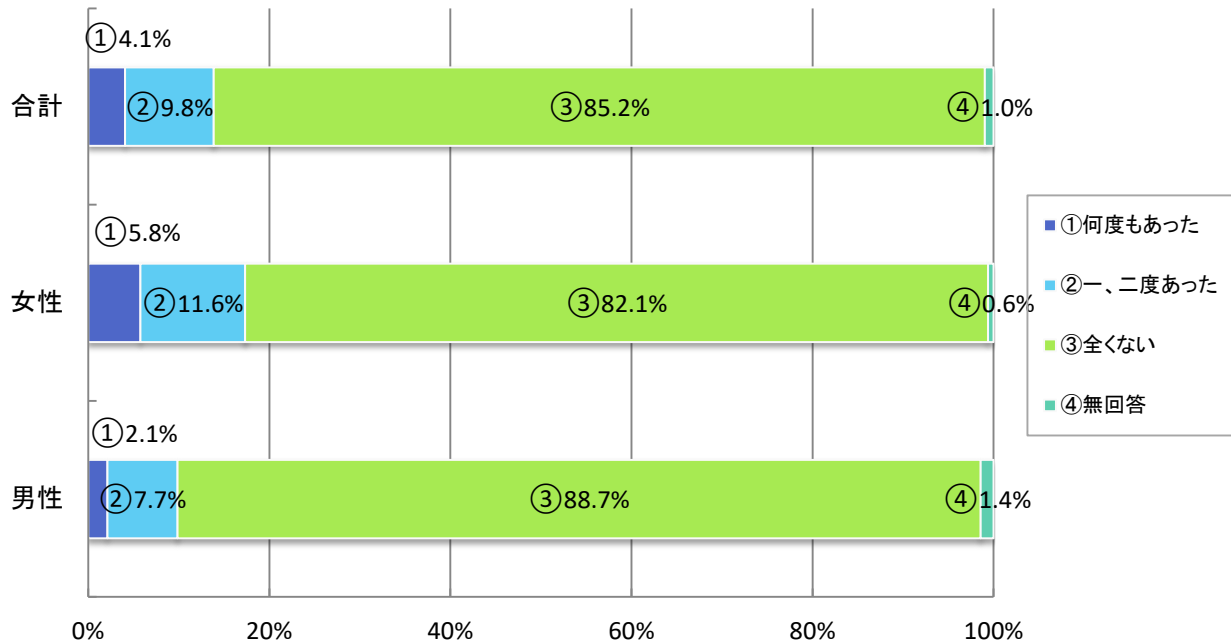
■ 平成30年度調査

問8（ア） あなたはこの1年間に、配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）から、次のようなこと（身体的暴力）をされたことがありますか。（○は1つ）



全体 N = 614 女性 N = 341 男性 N = 273

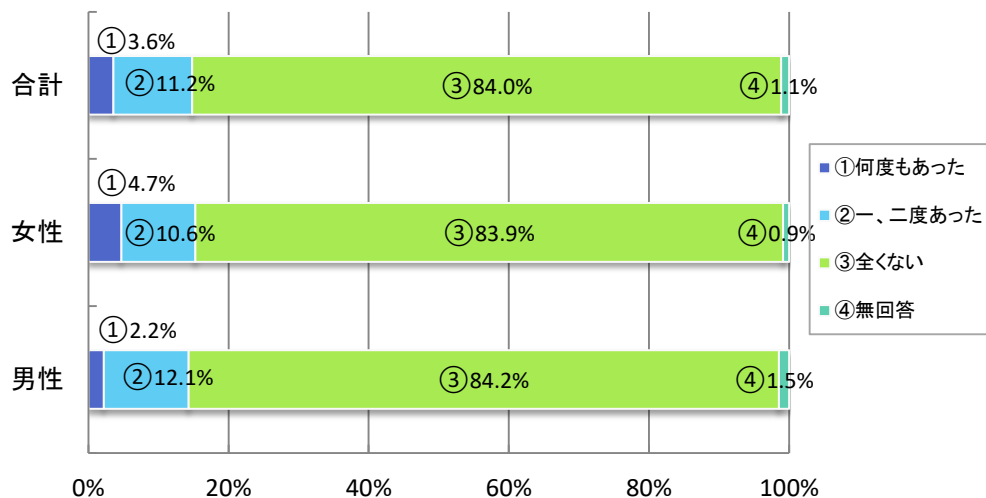
問8 (イ) あなたはこの1年間に、配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）から、次のようなこと（精神的暴力）をされたことがありますか。（○は1つ）



全体 N = 613 女性 N = 329 男性 N = 284

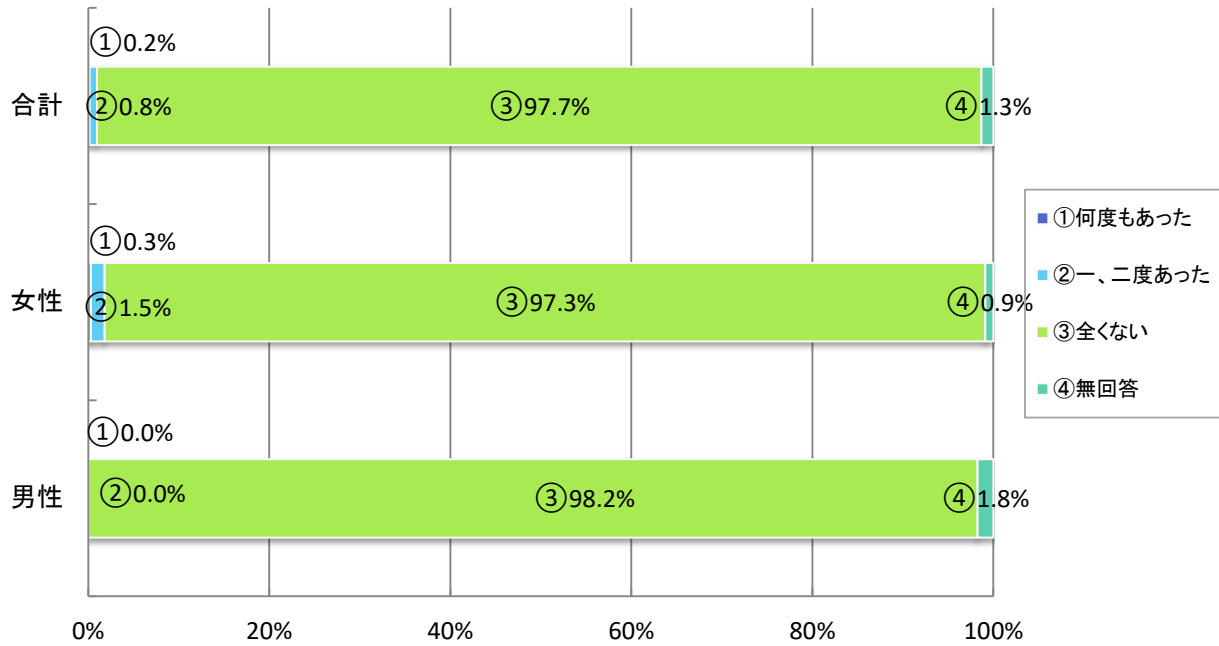
■ 平成30年度調査

問8 (イ) あなたはこの1年間に、配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）から、次のようなこと（精神的暴力）をされたことがありますか。（○は1つ）



全体 N = 614 女性 N = 341 男性 N = 273

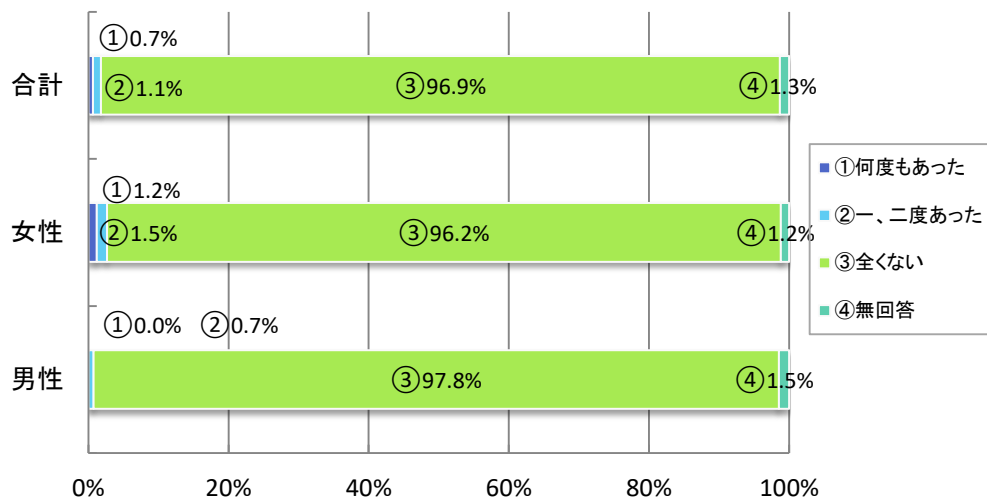
問8 (ウ) あなたはこの1年間に、配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）から、次のようなこと（性的暴力）をされたことがありますか。（○は1つ）



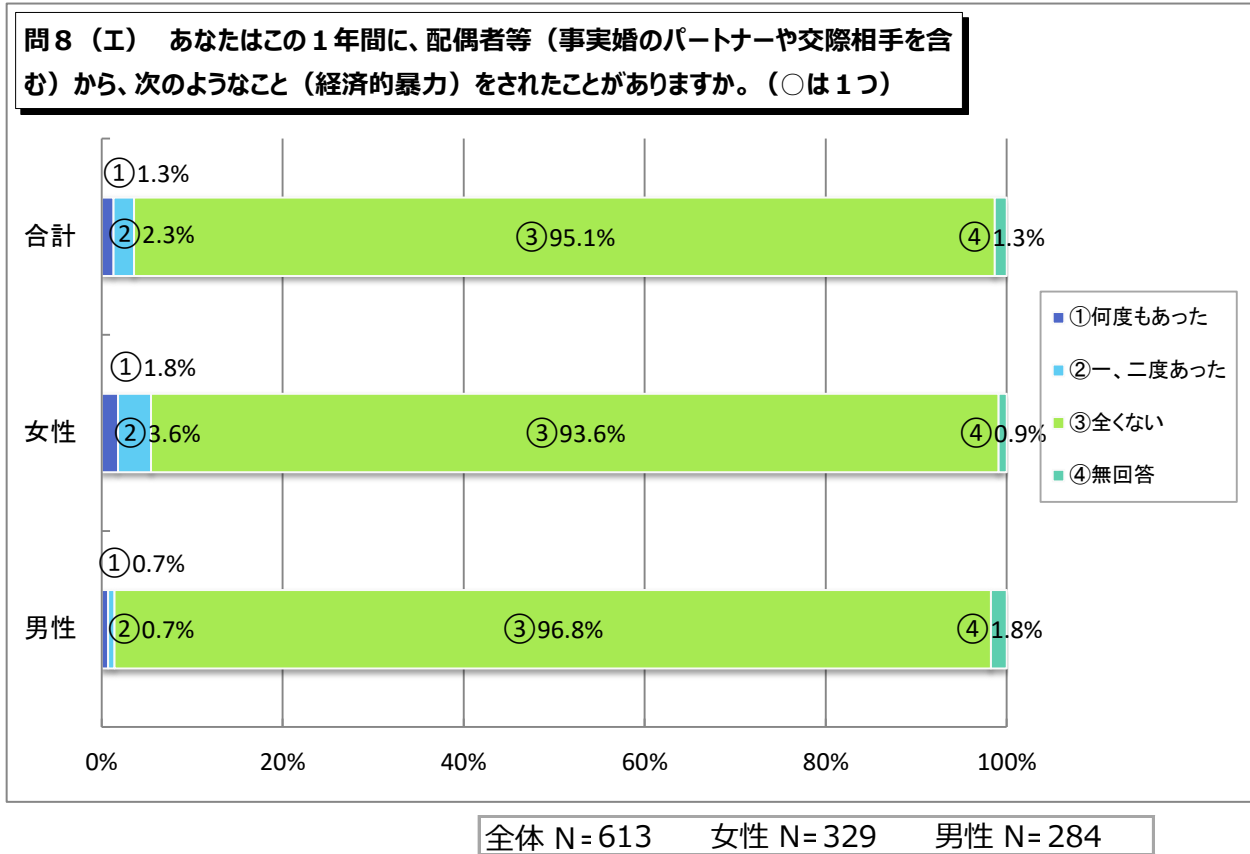
全体 N = 613 女性 N = 329 男性 N = 284

■ 平成30年度調査

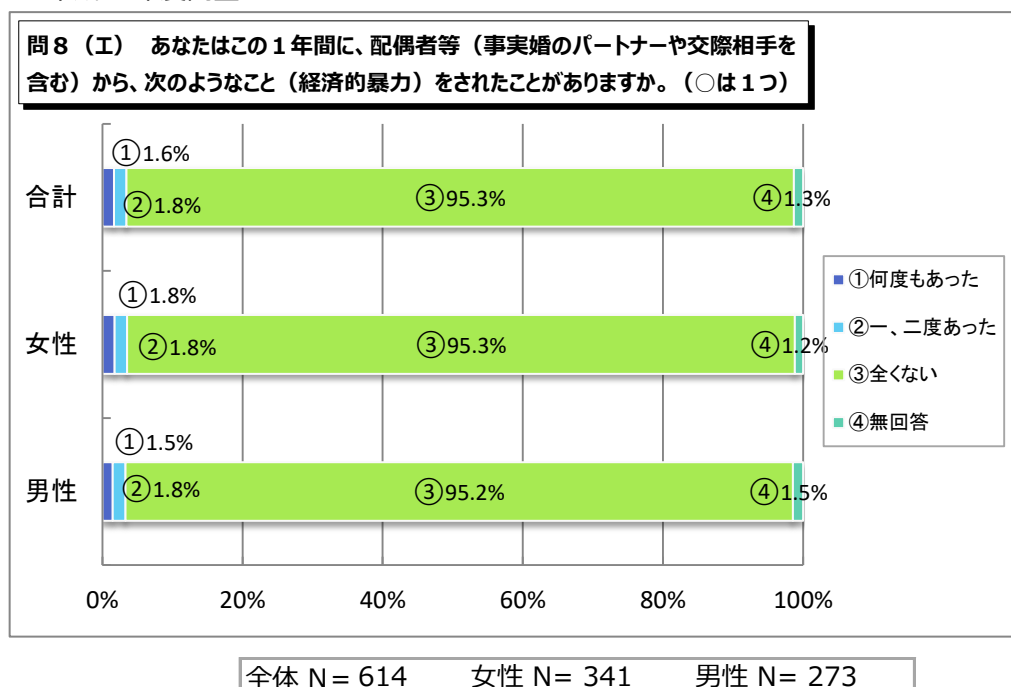
問8 (ウ) あなたはこの1年間に、配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）から、次のようなこと（性的暴力）をされたことがありますか。（○は1つ）



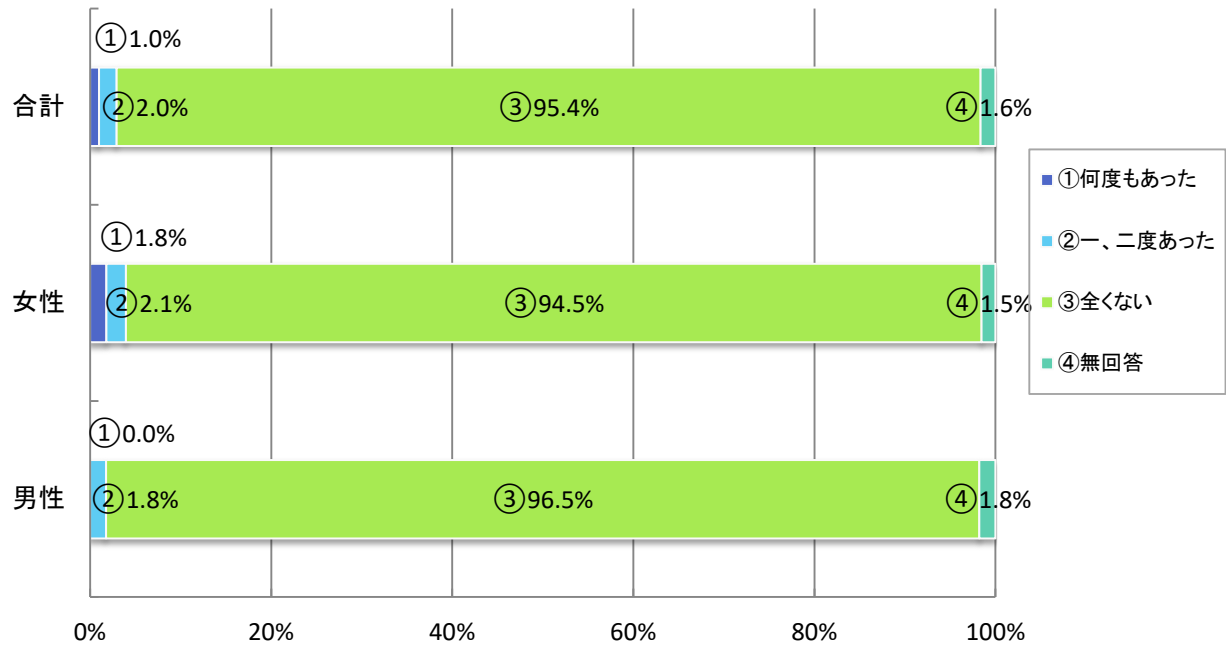
全体 N = 614 女性 N = 341 男性 N = 273



■ 平成30年度調査



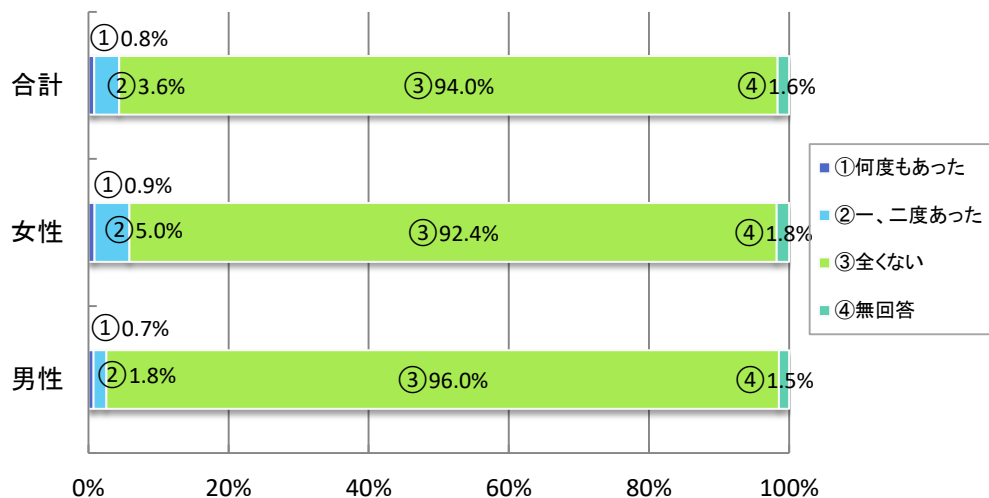
問8 (オ) あなたはこの1年間に、配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）から、次のようなこと（社会的暴力）をされたことがありますか。（○は1つ）



全体 N = 613 女性 N = 329 男性 N = 284

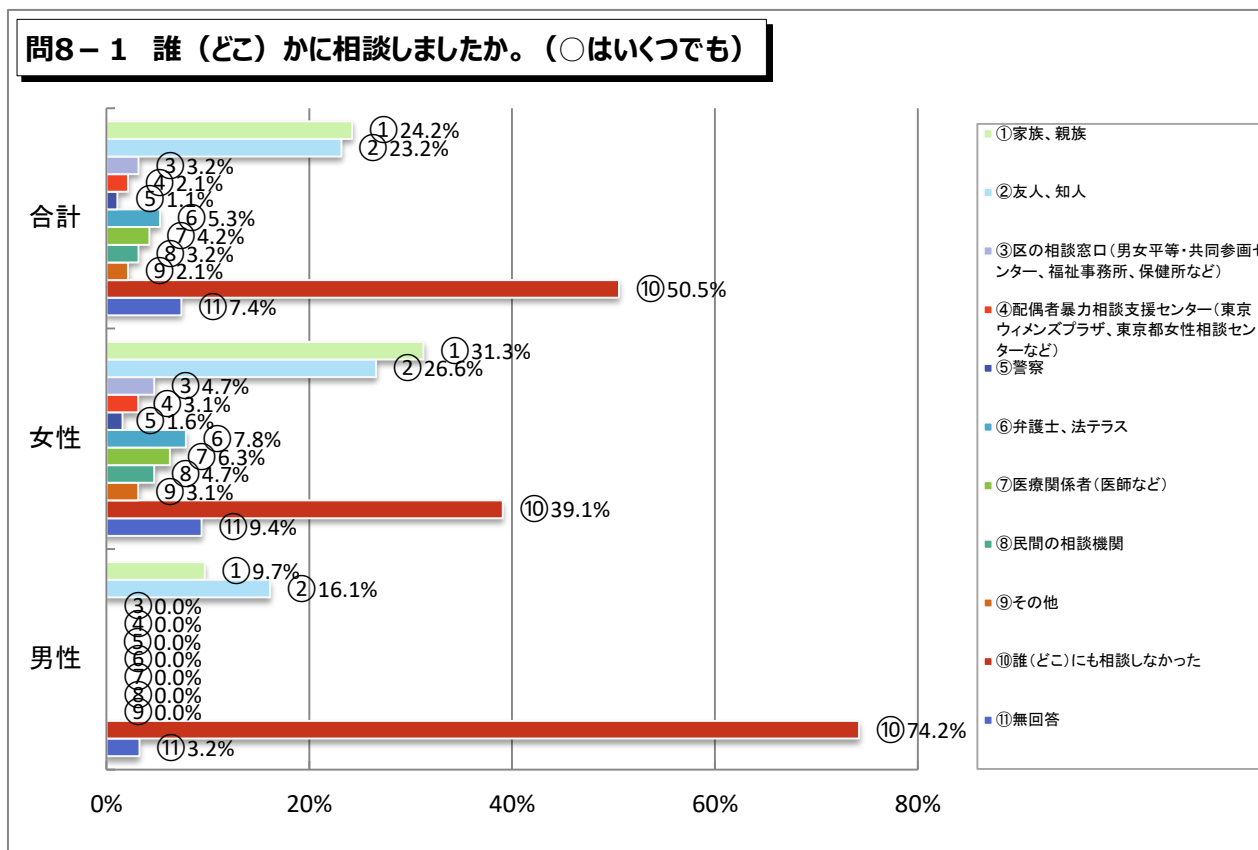
■ 平成30年度調査

問8 (オ) あなたはこの1年間に、配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）から、次のようなこと（社会的暴力）をされたことがありますか。（○は1つ）



全体 N = 614 女性 N = 341 男性 N = 273

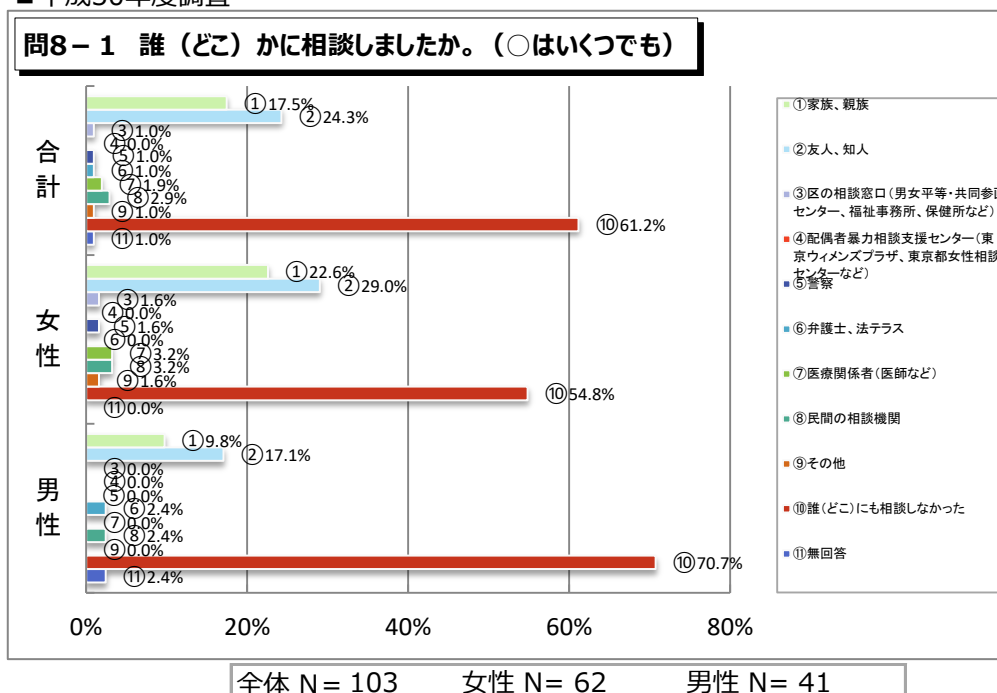
問8（ア）～（オ）で、1つでも「何度もあった」「一、二度あった」と回答があった中で



全体 N = 95 女性 N = 64 男性 N = 31

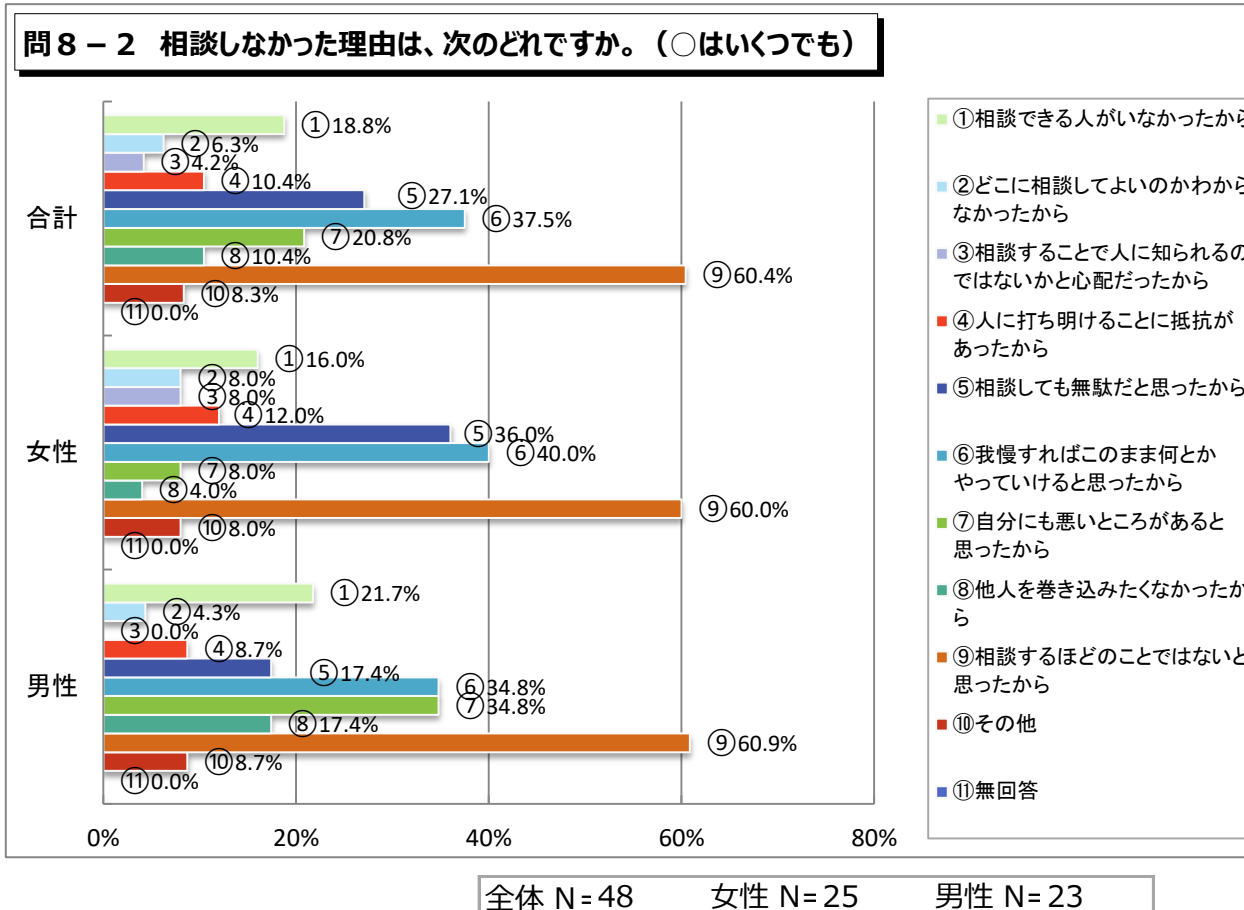
- 暴力を受けたときに相談したかについて、男女ともに、「誰（どこ）にも相談しなかった」という回答が多い。
- 暴力を受けたときの相談先として回答が多いのは、男女ともに「家族、親族」や「友人、知人」である。

■ 平成30年度調査



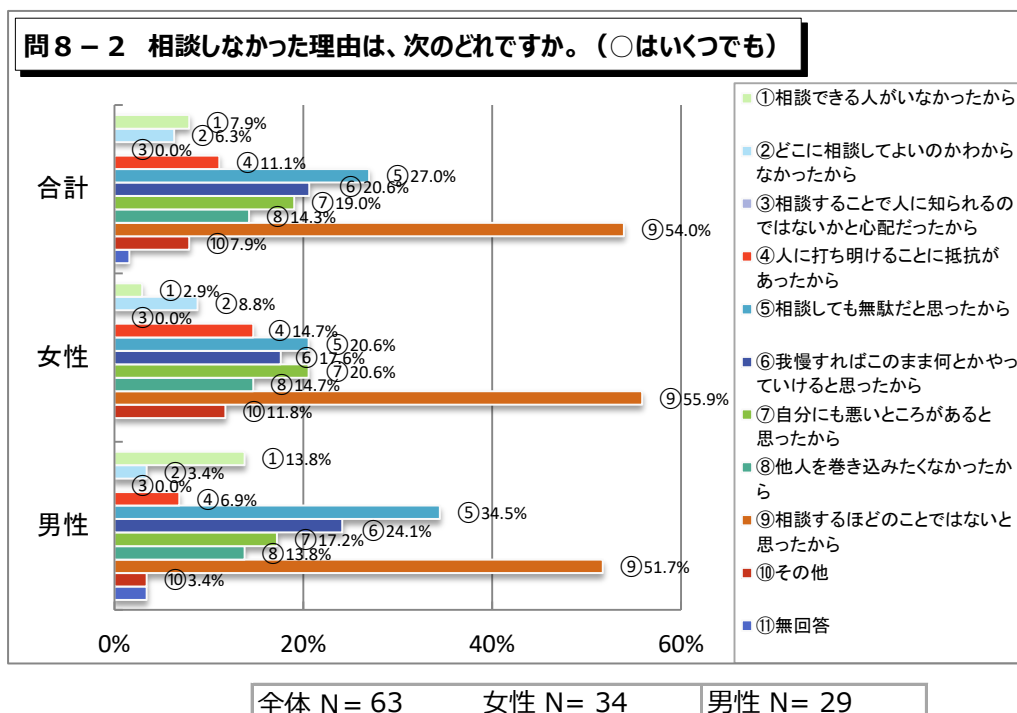
全体 N = 103 女性 N = 62 男性 N = 41

問 8 - 1 で「誰(どこ)にも相談しなかった」と回答があった中で



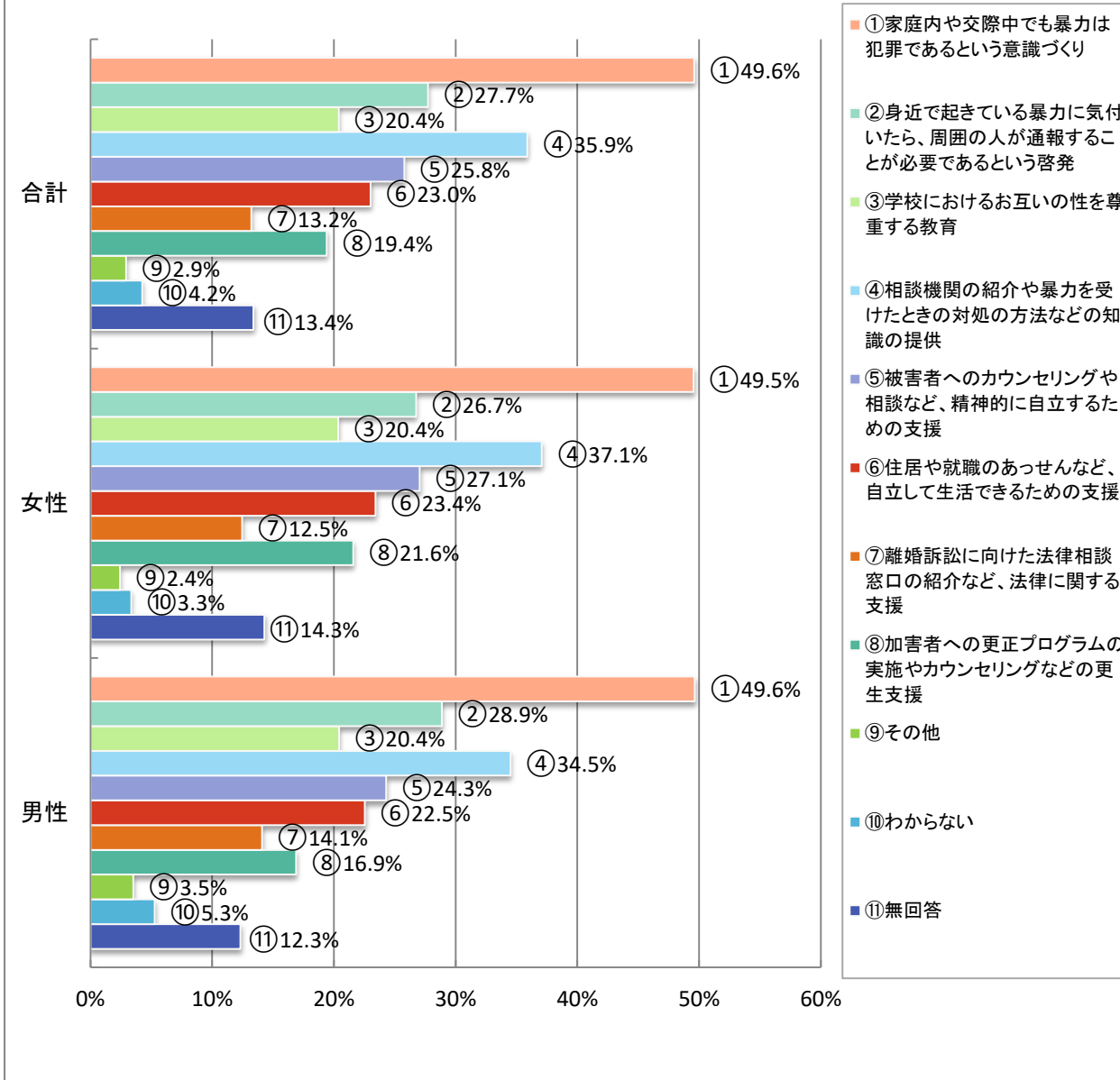
■ 相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」という回答が多い。

■ 平成30年度調査



配偶者等（事実婚のパートナーや交際相手を含む）がいる（いた）かたのみ

問9 あなたは、配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援のために、特にどのような対策の充実が必要だと思いますか。（○は3つまで）



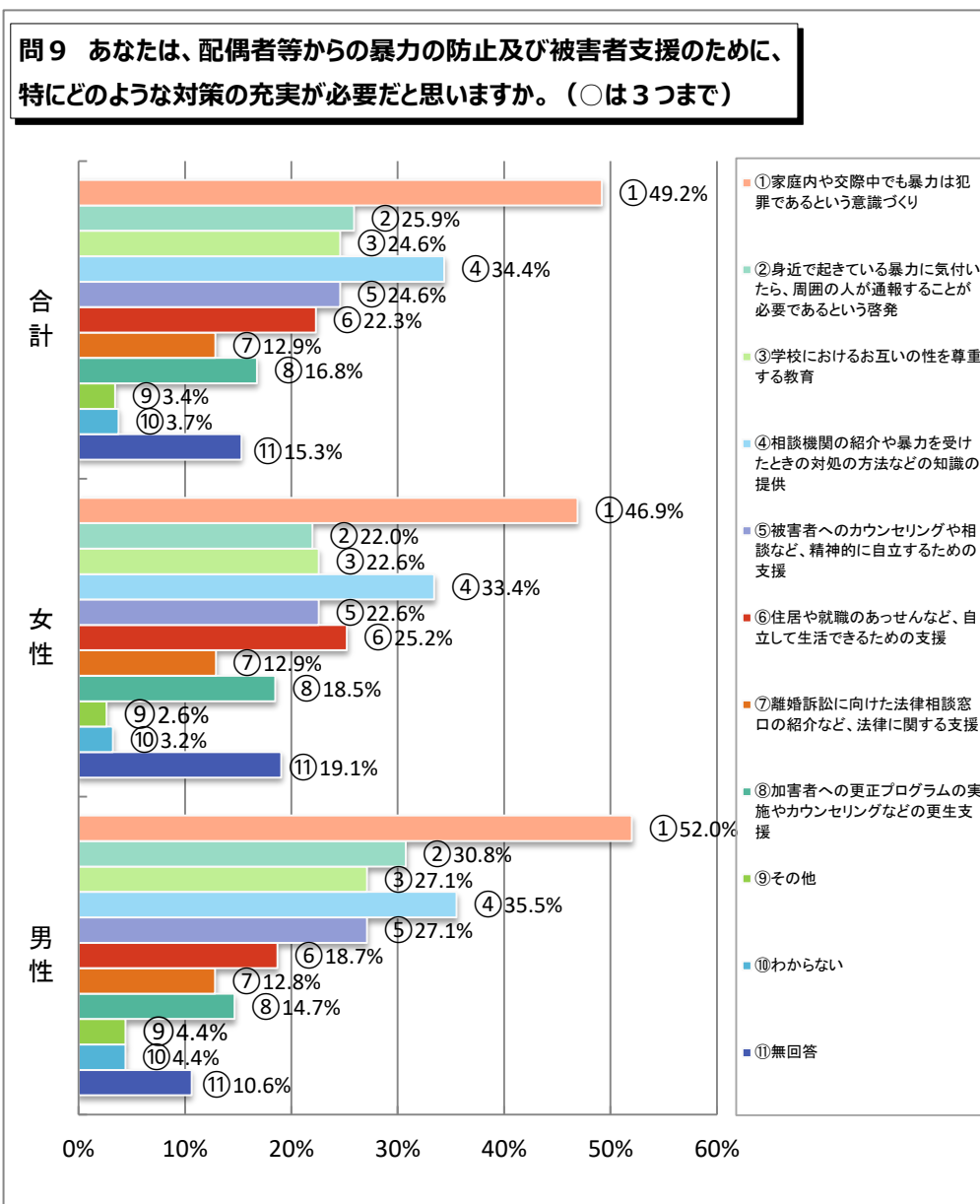
全体 N=613 女性 N=329 男性 N=284

■ 配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援のために必要なことについては、「家庭内や交際中でも暴力は犯罪であるという意識づくり」という回答が全体で49.6%と最も多い。

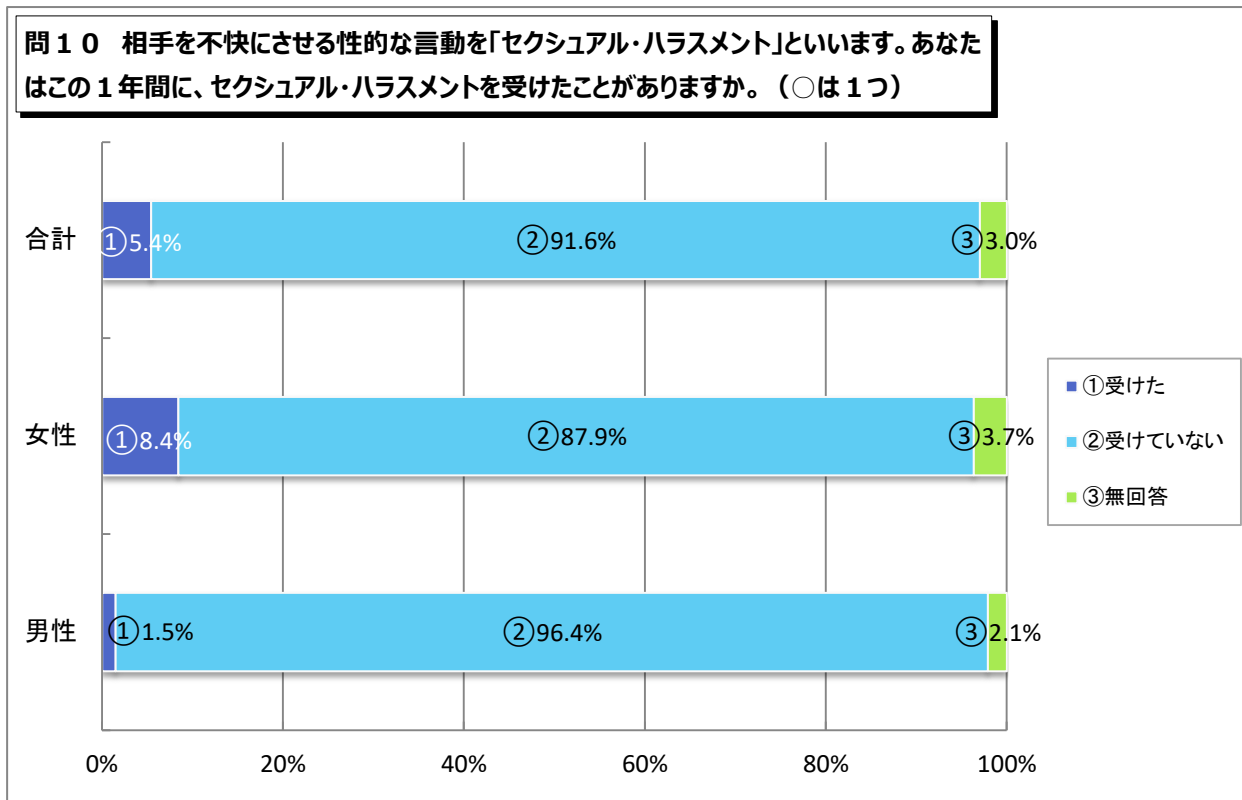
次に「相談機関の紹介や暴力を受けたときの対処の方法などの知識の提供」（35.9%）、「身近で起きている暴力に気付いたら、周囲の人が通報することが必要であるという啓発」（27.7%）、「被害者へのカウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援」（25.8%）と続く。

■平成30年度調査

問9 あなたは、配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援のために、特にどのような対策の充実が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

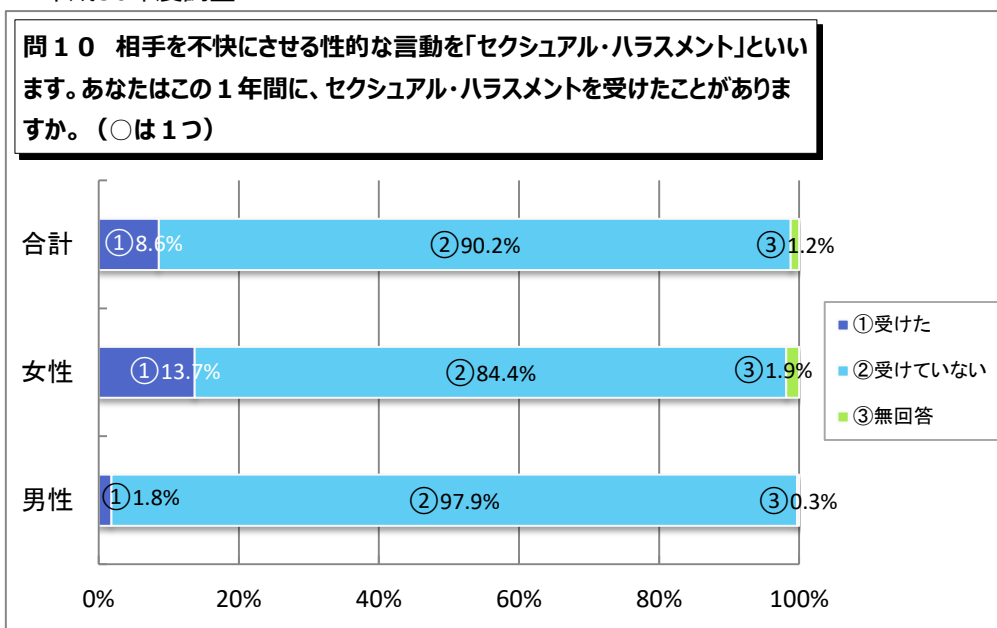


全体 N=614 女性 N=341 男性 N=273



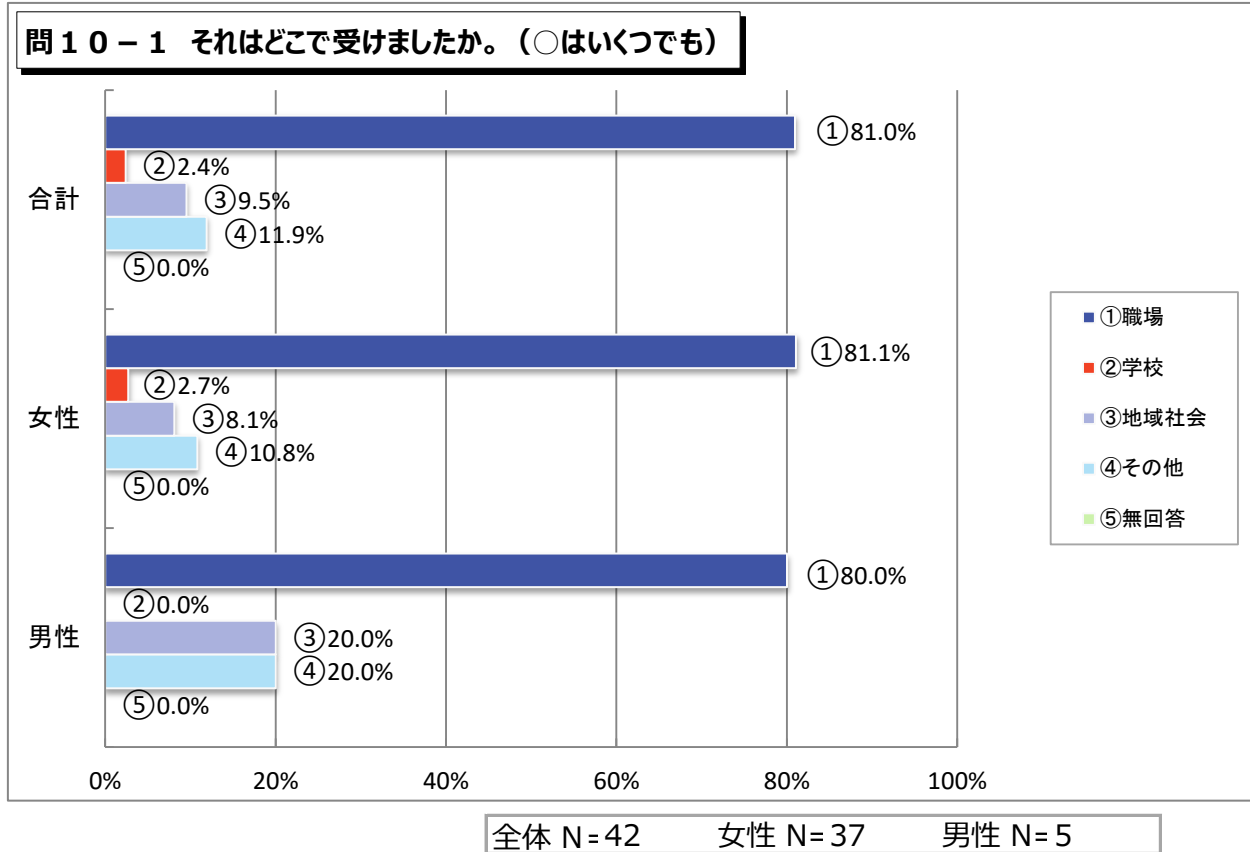
全体 N=772 女性 N=438 男性 N=334

■ 平成30年度調査



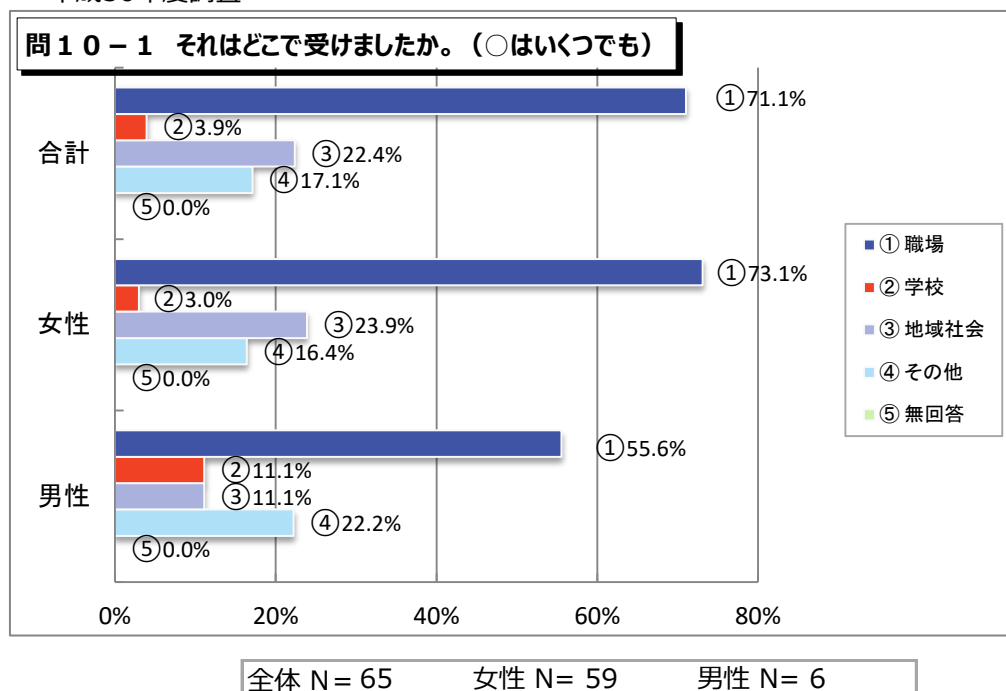
全体 N=757 女性 N=430 男性 N=327

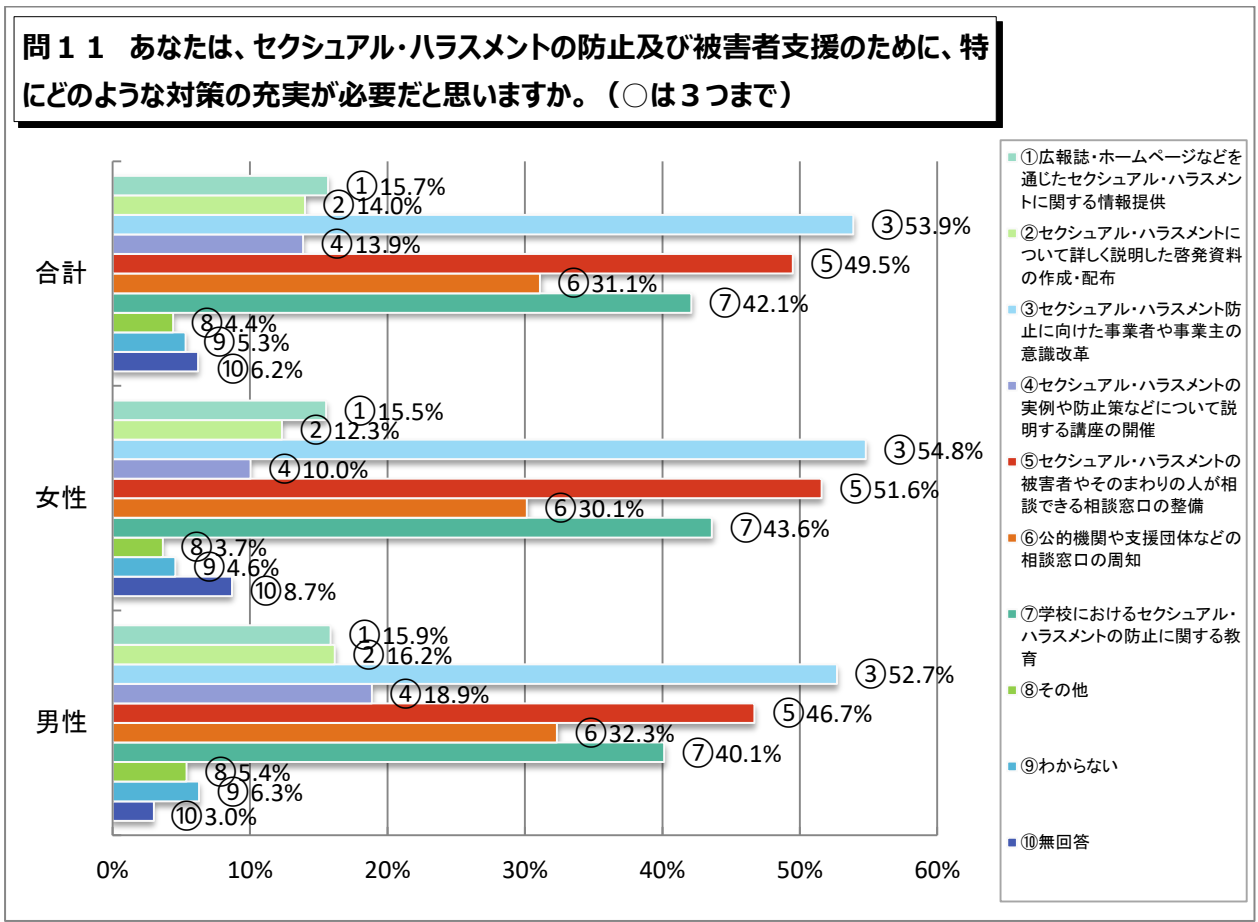
問10で「受けた」と回答があった中で



■ 女性、男性とも「職場」でのセクシュアル・ハラスメントの被害経験が多い。

■ 平成30年度調査

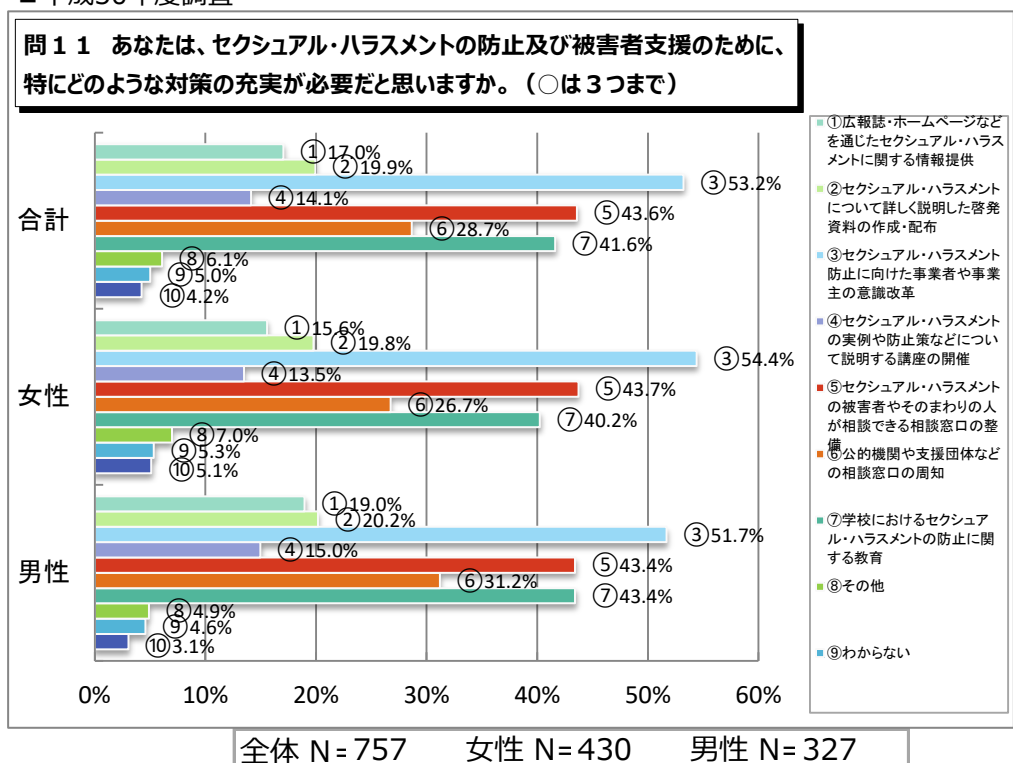


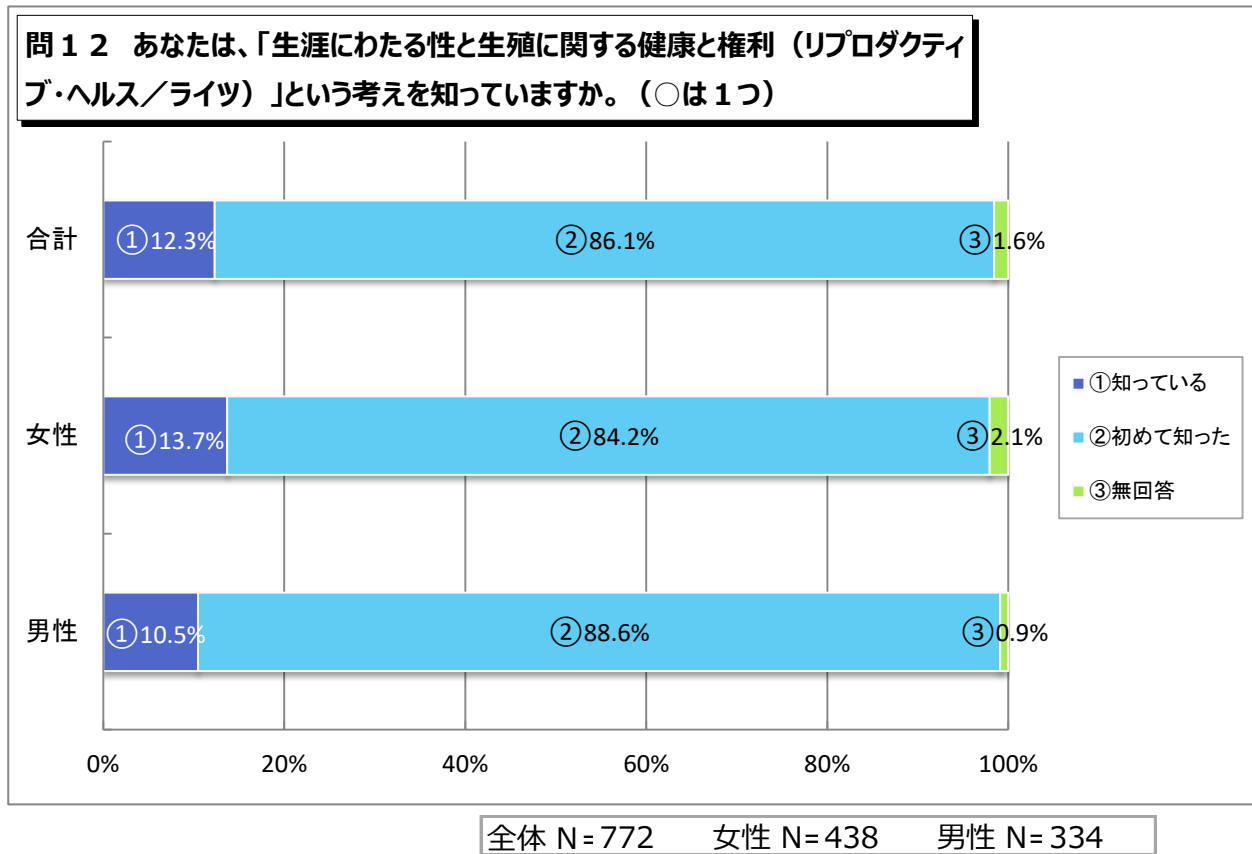


■セクシュアル・ハラスメントの防止及び被害者支援のために必要なこととしては、「セクシュアル・ハラスメント防止に向けた事業者や事業主の意識改革」という回答が全体で53.9%と最も多い。

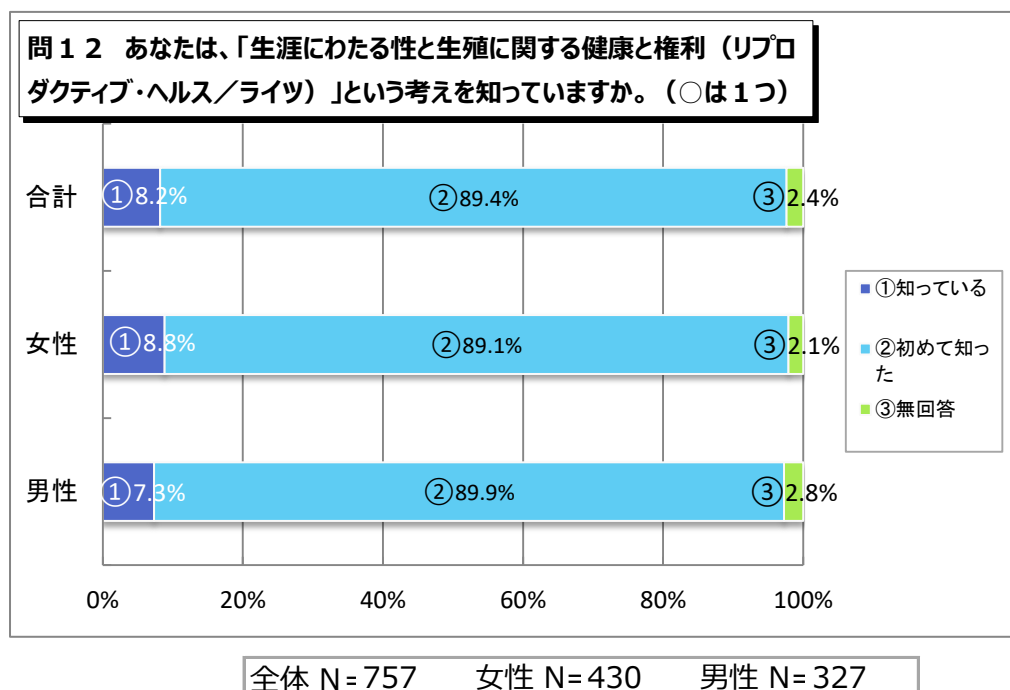
次に「セクシュアル・ハラスメントの被害者やそのまわりの人が相談できる相談窓口の整備」(49.5%)、「学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止に関する教育」(42.1%)と続く。

■平成30年度調査

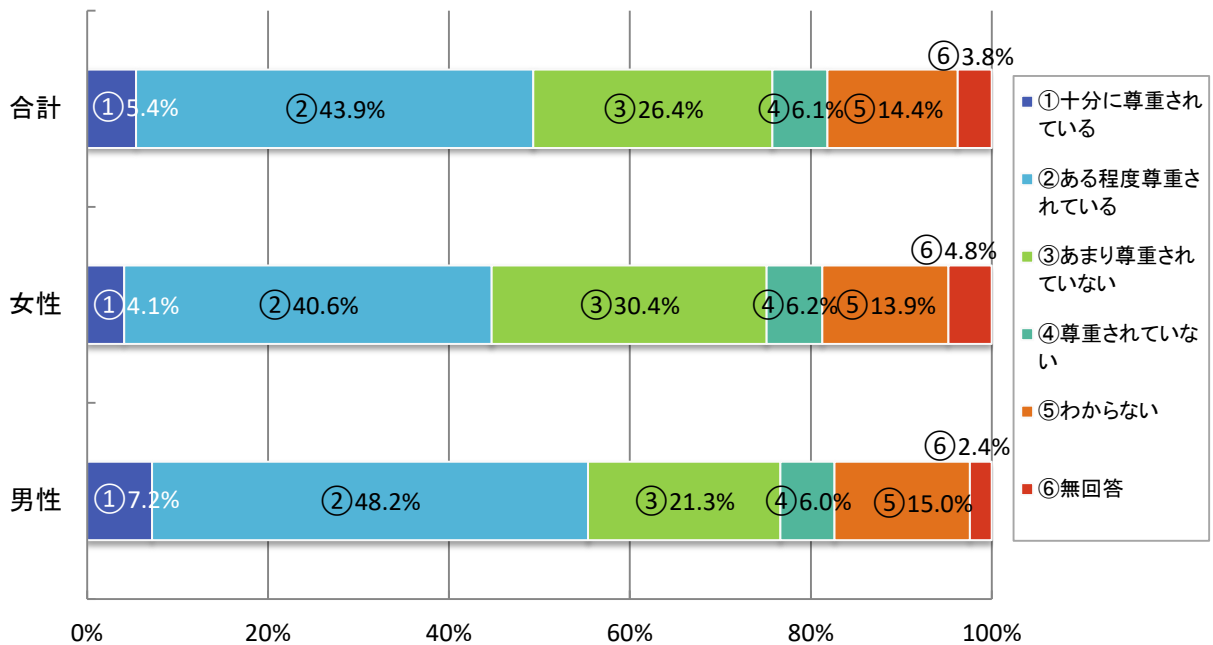




■平成30年度調査



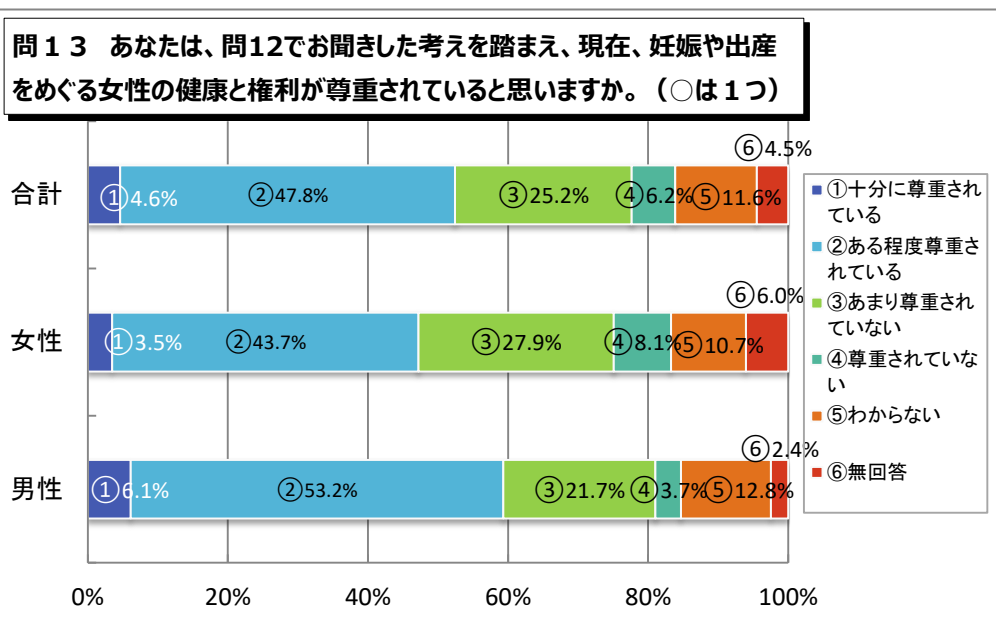
問 1 3 あなたは、問12でお聞きした考えを踏まえ、現在、妊娠や出産をめぐる女性の健康と権利が尊重されていると思いますか。（○は1つ）



全体 N=772 女性 N=438 男性 N=334

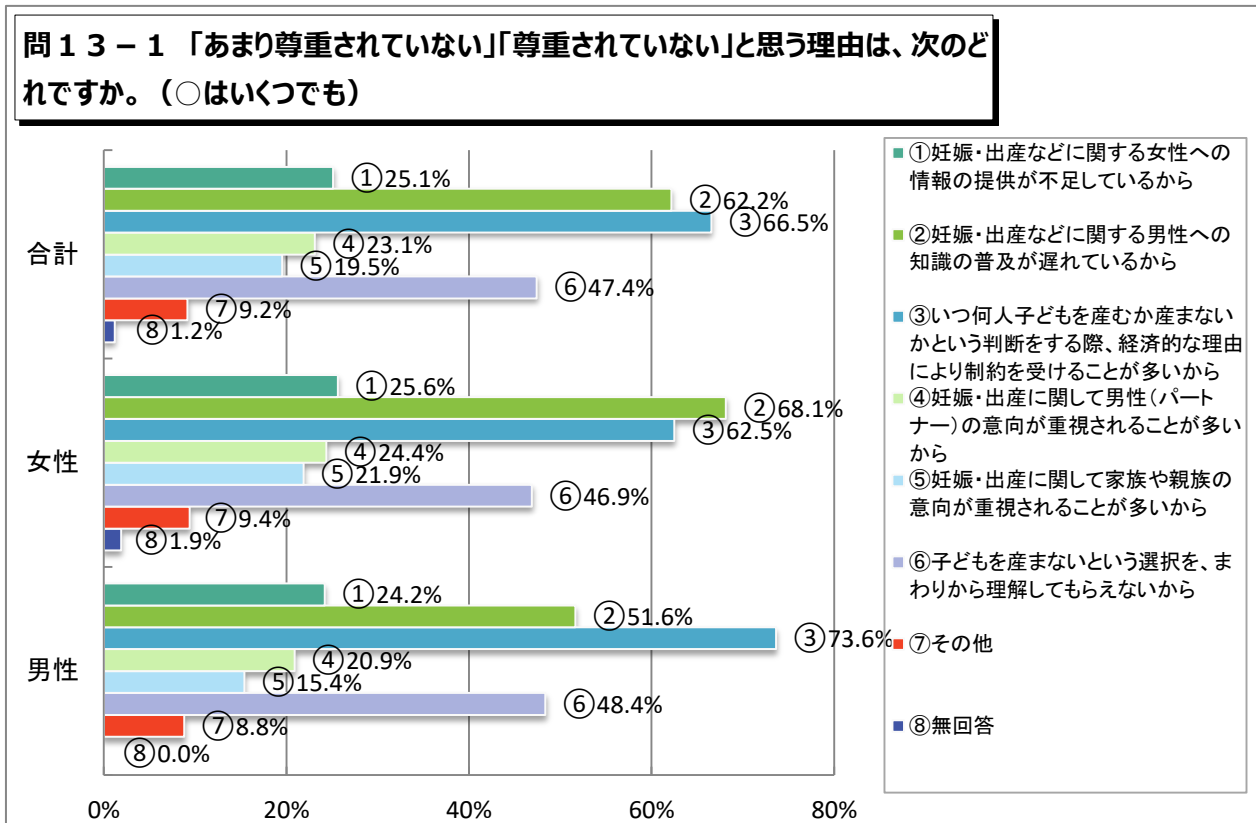
■妊娠や出産をめぐる女性の健康と権利が尊重されているかについて、「あまり尊重されていない」と回答した人は、女性が30.4%、男性が21.3%で、男女差がある。

■平成30年度調査



全体 N=757 女性 N=430 男性 N=327

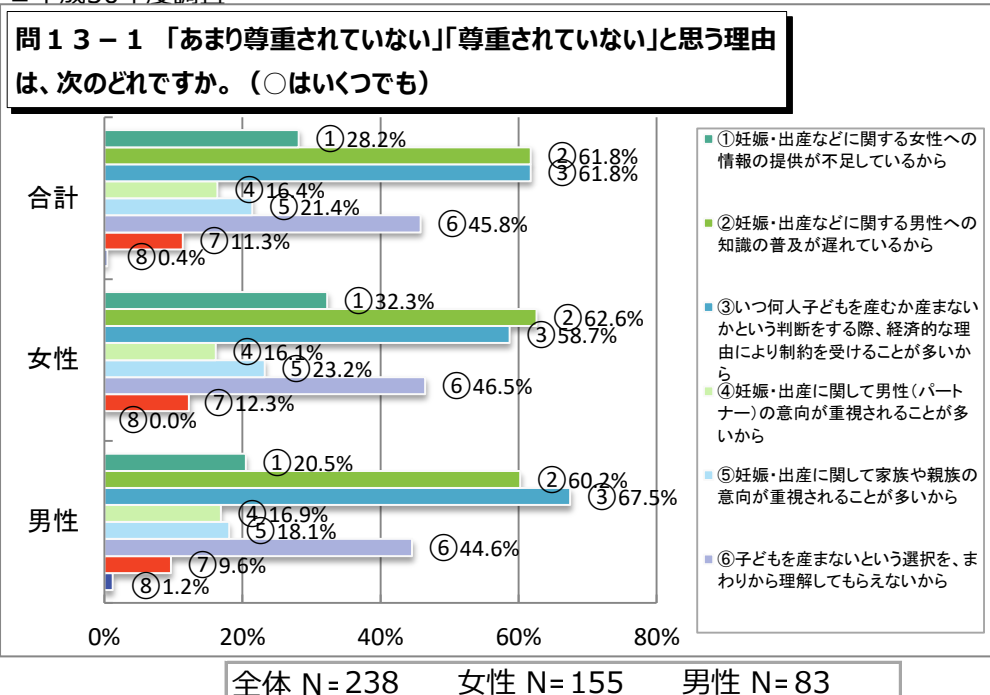
問 1 3 で「あまり尊重されていない」「尊重されていない」と回答があった中で

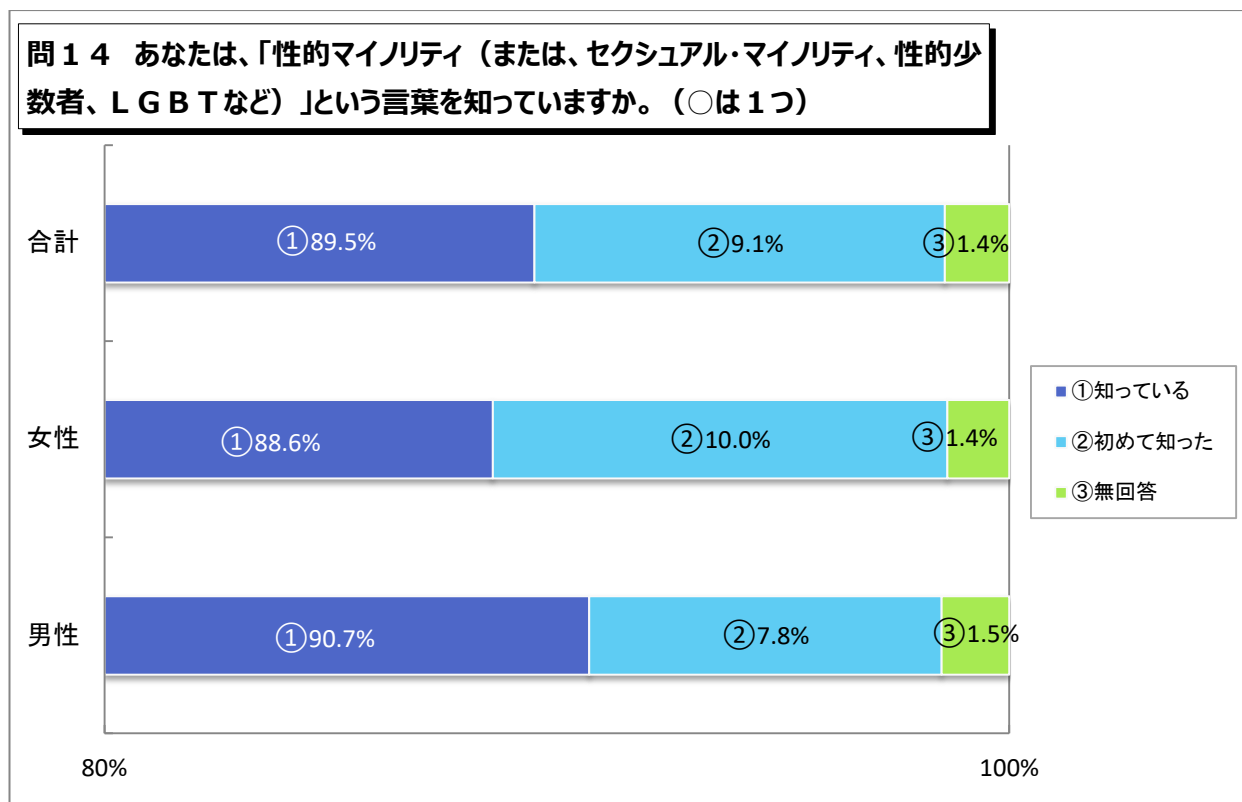


■ 妊娠や出産をめぐる女性の健康と権利が「あまり尊重されていない」「尊重されていない」と思う理由としては、「いつ何人子どもを産むか産まないかという判断をする際、経済的な理由により制約を受けることが多いから」という回答が全体で 66.5%と最も多い。

次に「妊娠・出産などに関する男性への知識の普及が遅れているから」（62.2%）、「子どもを産まないという選択を、まわりから理解してもらえないから」（47.4%）と続く。

■ 平成30年度調査

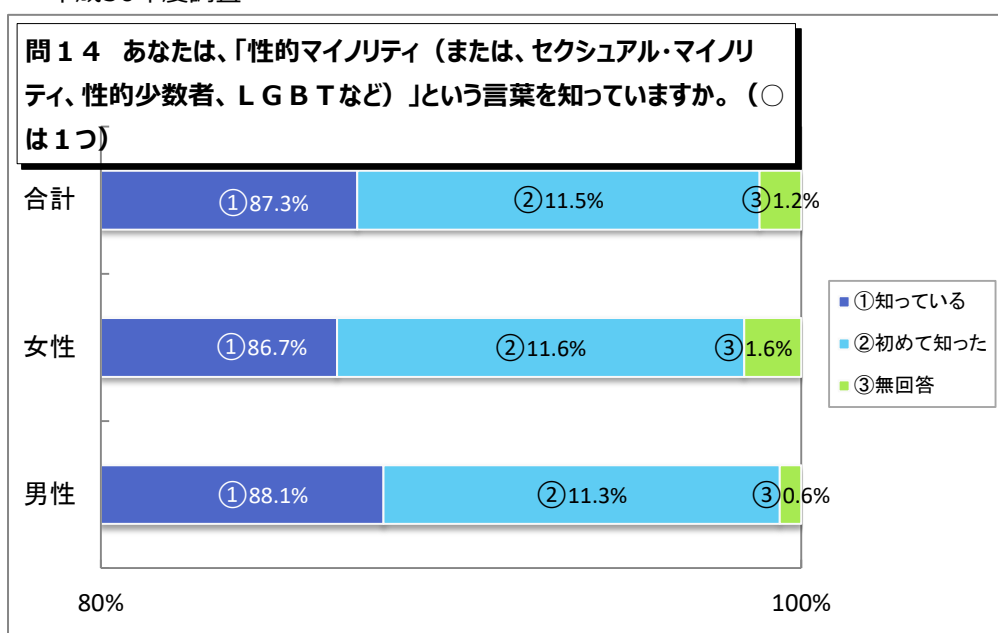




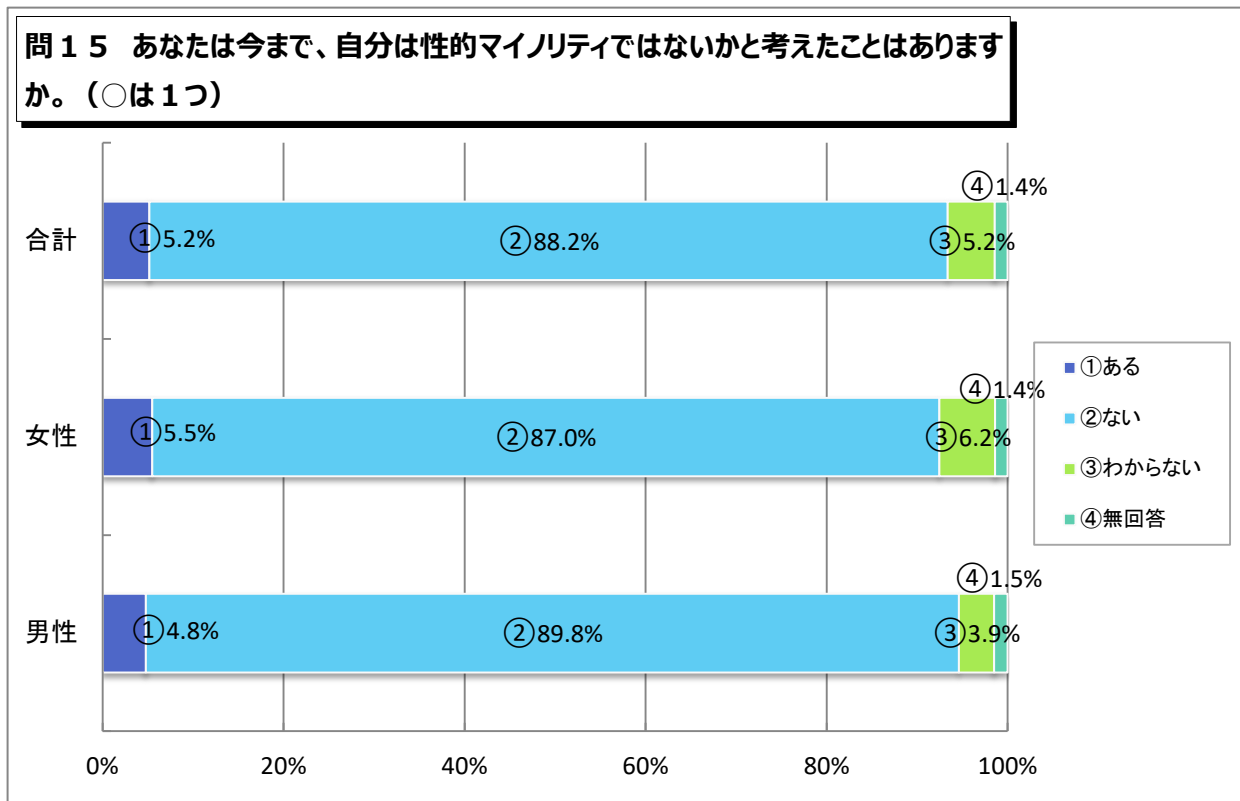
全体 N=772 女性 N=438 男性 N=334

■ 性的マイノリティという言葉を知っているかについて、「知っている」と回答した人は全体で89.5%と多い割合である。

■ 平成30年度調査

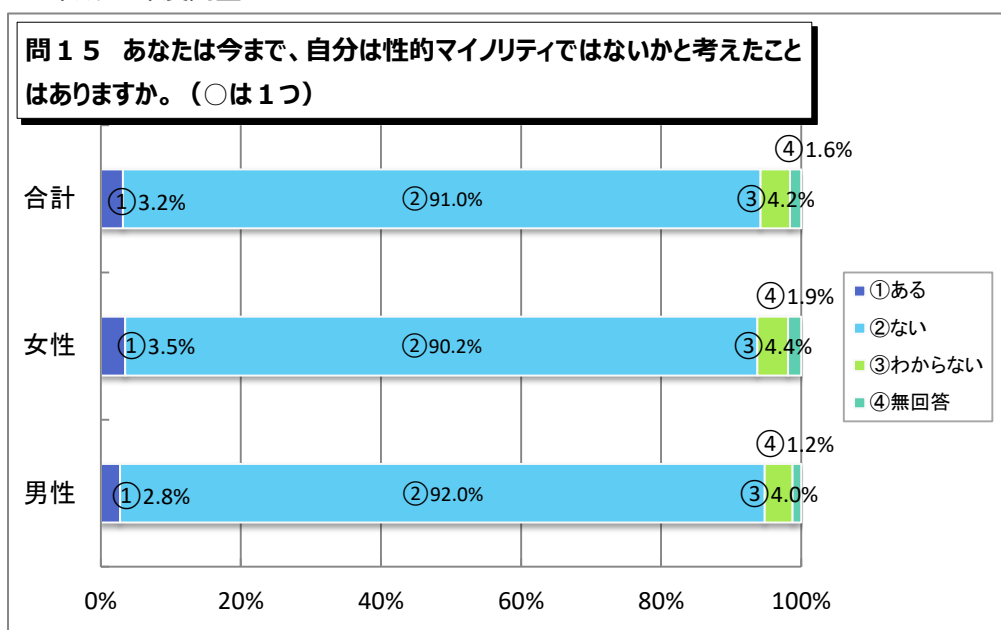


全体 N=757 女性 N=430 男性 N=327



全体 N=772 女性 N=438 男性 N=334

■平成30年度調査



全体 N=757 女性 N=430 男性 N=327

問 1 6 あなたは、社会や区がどんな取組を行えば、性的マイノリティの人たちが暮らしやすくなると思いますか。(自由記載)

<主な意見の内容>

- ・性的マイノリティに関する教育の推進□
- ・性的マイノリティに関する正しい知識の周知や啓発活動の充実□
- ・性的マイノリティに関する個々人の理解促進、意識改革□
- ・同性婚の法制化または結婚相当の権利保障、自治体による同性同士のパートナーシップ制度の導入□
- ・相談窓口の設置や交流の場等の居場所づくり、だれでもトイレの設置などの

■平成30年度調査

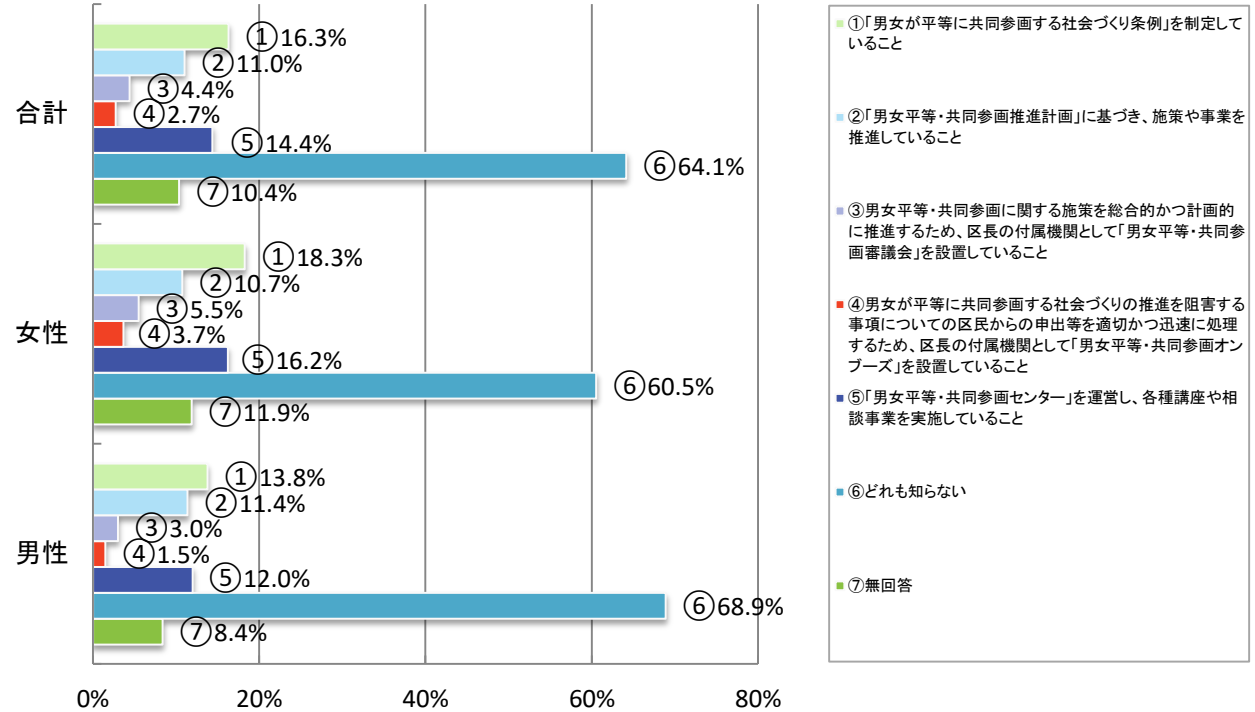
問 1 6 あなたは、社会や区がどんな取組を行えば、性的マイノリティの人たちが暮らしやすくなると思いますか。(自由記載)

<主な意見の内容>

- ・性的マイノリティに関する教育の推進□
- ・性的マイノリティに関する正しい知識の周知や啓発活動の充実□
- ・性的マイノリティに関する個々人の理解促進、意識改革□
- ・同性婚の法制化または結婚相当の権利保障、自治体による同性同士のパートナーシップ制度の導入□
- ・相談窓口の設置や交流の場等の居場所づくり、だれでもトイレの設置

【 IV 区の男女平等・共同参画施策 】

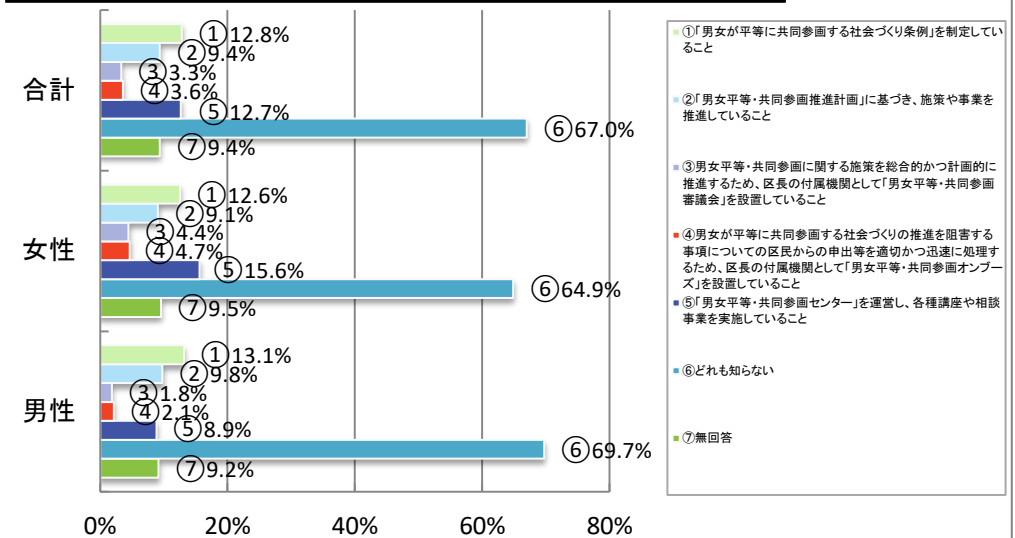
問 17 あなたは、目黒区が行っている次の施策や事業を知っていますか。(○はい
くつでも)



全体 N = 772 女性 N = 438 男性 N = 334

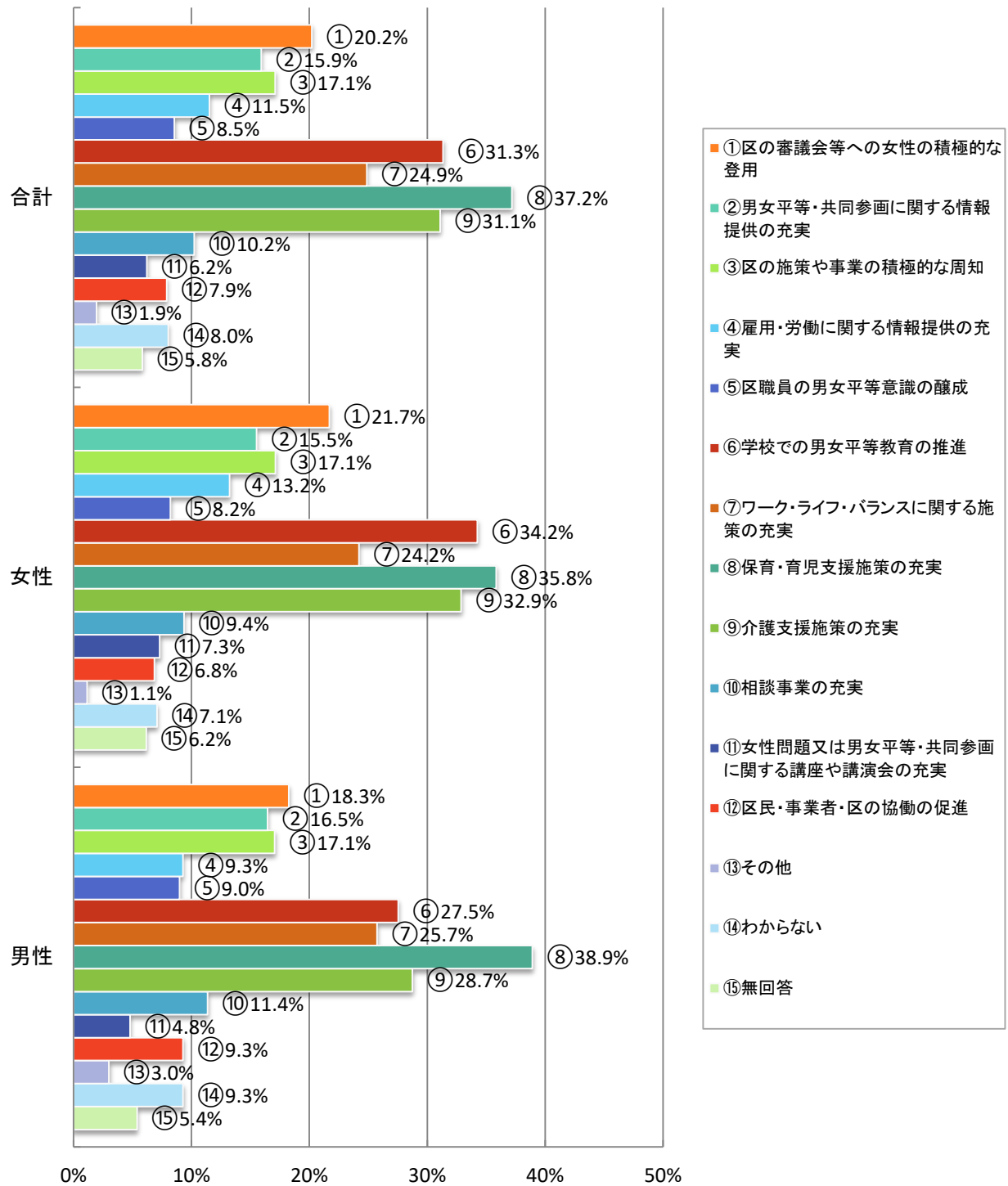
■平成30年度調査

問 17 あなたは、目黒区が行っている次の施策や事業を知っていますか。(○はい
くつでも)



全体 N = 757 女性 N = 430 男性 N = 327

問 18 あなたは、男女平等・共同参画を推進するために、今後、区は特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○は3つまで）

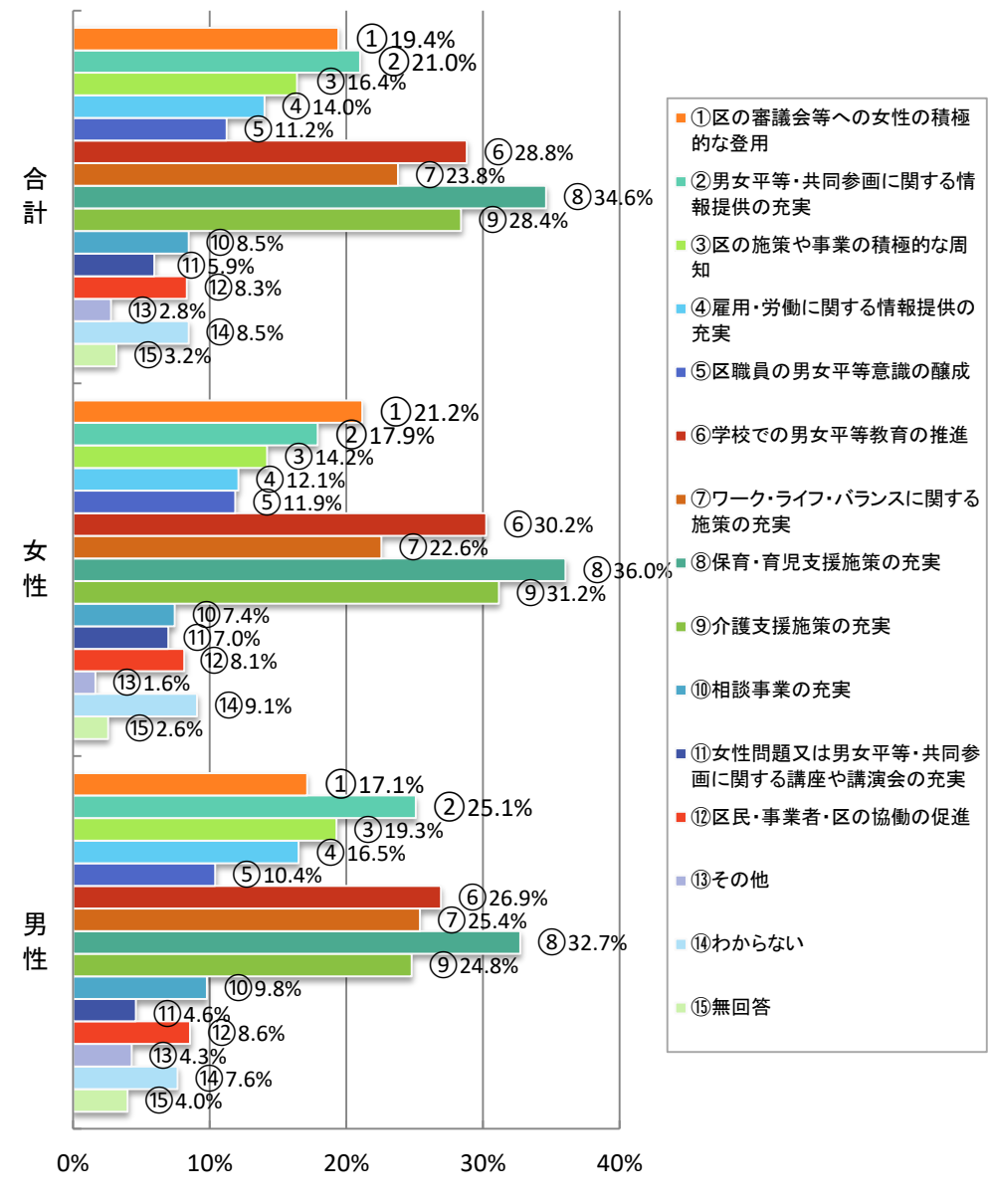


全体 N = 772 女性 N = 438 男性 N = 334

■男女平等・共同参画を推進するために区が力を入れたらよいこととしては、「保育・育児支援施策の充実」という回答が全体で37.2%と最も多い。次に「学校での男女平等教育の推進」（31.3%）、「介護支援施策の充実」（31.1%）、「ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実」（24.9%）と続く。

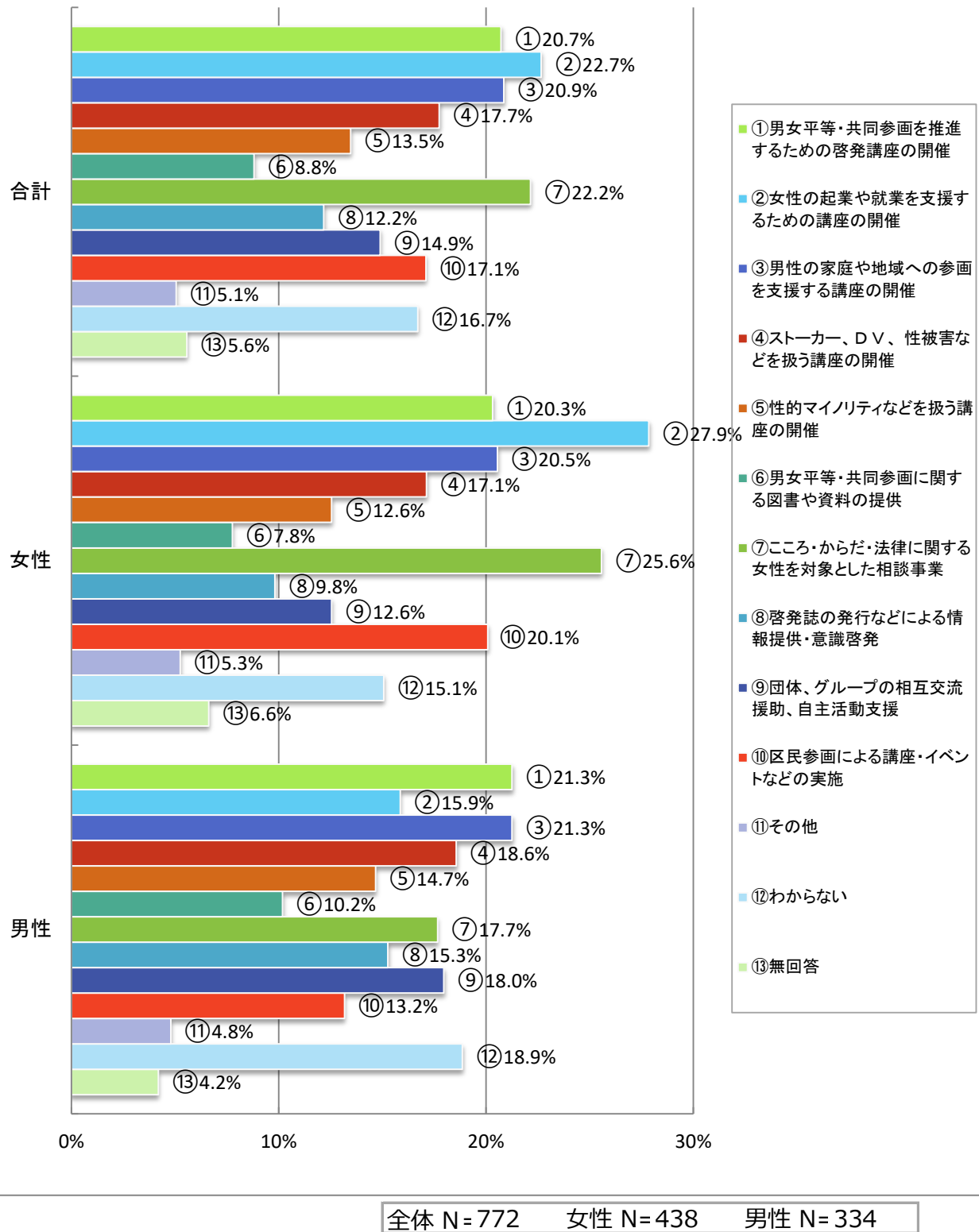
■平成30年度調査

問18 あなたは、男女平等・共同参画を推進するために、今後、区は特
にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(○は3つまで)



全体 N = 757 女性 N = 430 男性 N = 327

問 19 目黒区男女平等・共同参画センターでは、男女平等・共同参画を推進するためにさまざまな事業を実施しています。あなたは、今後、特にどの事業に力を入れたらよいと思いますか。（○は3つまで）

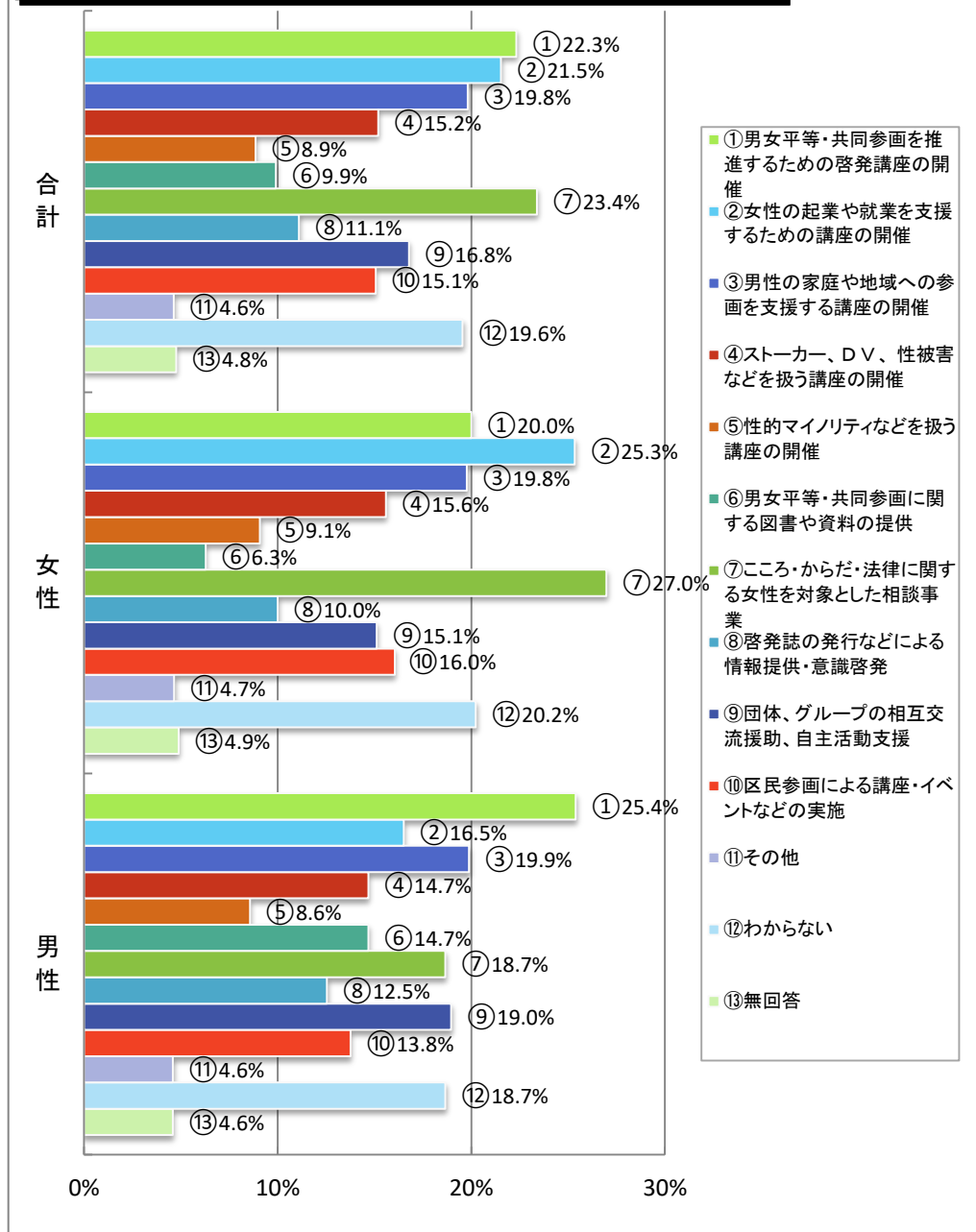


■目黒区男女平等・共同参画センターで実施する事業のうち区が力を入れたらよいものとしては、「女性の起業や就業を支援するための講座の開催」という回答が全体で22.7%と最も多い。

次に「こころ・からだ・法律に関する女性を対象とした相談事業」（22.2%）、「男性の家庭や地域への参画を支援する講座の開催」（20.9%）、「男女平等・共同参画を推進するための啓発講座の開催」（20.7%）、と続く。

■平成30年度調査

問19 目黒区男女平等・共同参画センターでは、男女平等・共同参画を推進するためにさまざまな事業を実施しています。あなたは、今後、特
どの事業に力を入れたらよいと思いますか。(○は3つまで)



全体 N = 757 女性 N = 430 男性 N = 327